

追補
改正法規大觀

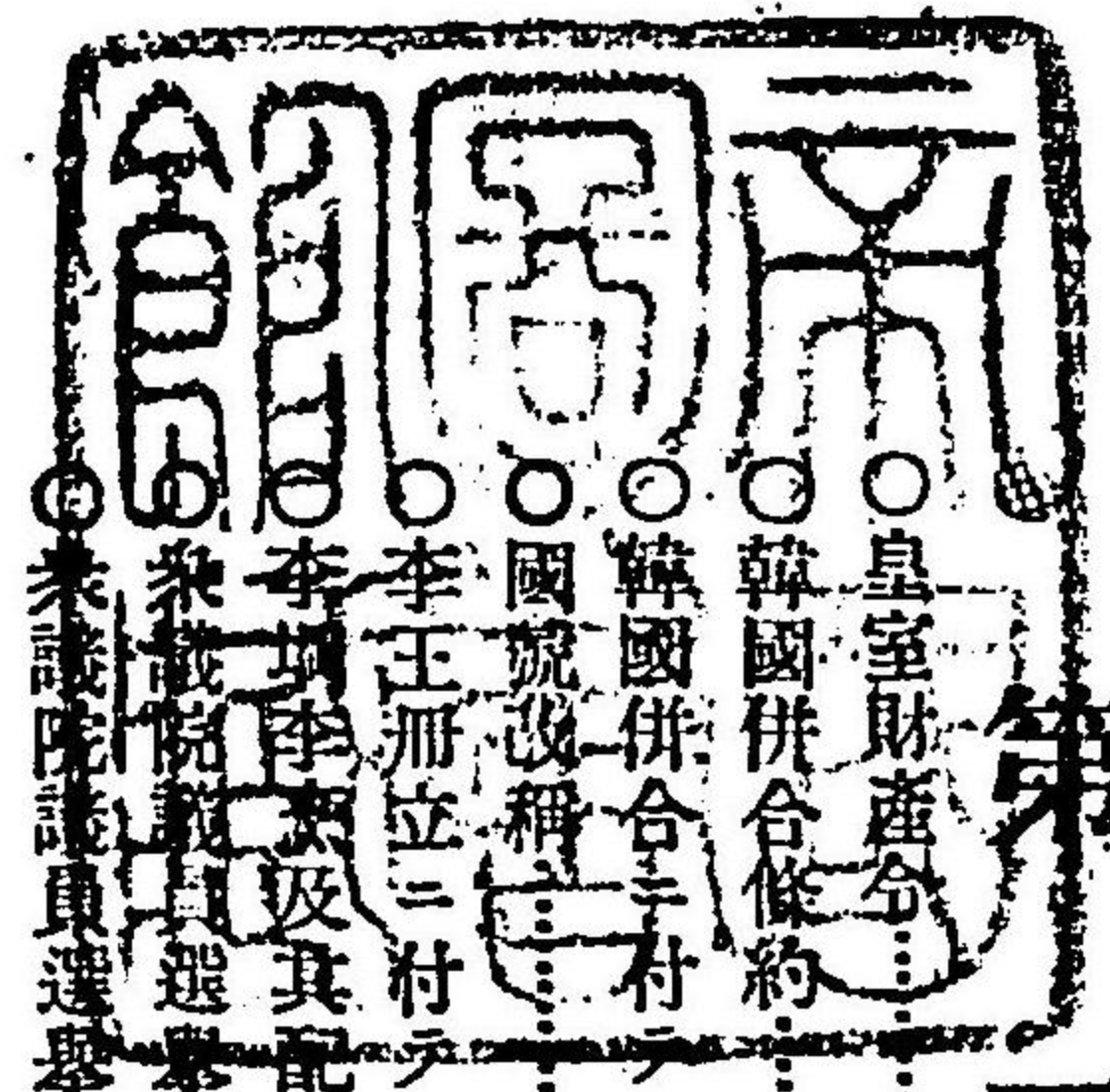
大日本弘法會發行



68
5097

特 17
634

補追 改正法規大觀目次



第一類

- 皇室財產令.....八
- 韓國併合條約.....八
- 韓國併合三村ノ詔勅.....八
- 國號改稱.....八
- 李王册立ニ付テノ詔勅.....八
- 李王册立及其配匹ノ稱呼並禮遇ニ付テノ詔勅.....八
- 衆議院議員選舉法中改正ノ件.....九
- 衆議院議員選舉法施行令中改正ノ件.....九

第二類

- 市制.....一〇
- 町村制.....三八

第三類

- 不動産登記法中改正ノ件.....六四
- 商法中改正ノ件.....六四
- 裁判所構成法中改正ノ件.....八四

目次

明治
44.7.12

○執達吏手数料規則中改正ノ件.....八四
 ○民事訴訟法中改正ノ件.....八五
 ○非訟事件手續法中改正ノ件.....八六

第四類

○廣告物取締法.....九一
 ○銃砲火藥類取締施行期日.....九一
 ○銃砲火藥類取締法施行規則.....九一
 ○著作權法中改正ノ件.....九八
 ○著作ニ關スル登録手續.....九八

第五類

○國稅徵收法中改正ノ件.....一〇〇
 ○地租條例施行規則改正.....一〇〇
 ○營業税法中改正ノ件.....一〇二
 ○營業税法施行規則中改正ノ件.....一〇二
 ○登録税法中改正ノ件.....一〇三
 ○賣藥税法中改正ノ件.....一〇四
 ○賣藥税法施行規則中改正ノ件.....一〇五
 ○砂糖消費税法中改正ノ件.....一〇五
 ○印紙税法中改正ノ件.....一〇五

第六類

○陸軍一年志願兵條例施行細則中改正ノ件.....一〇六
 ○海軍召集條例中改正ノ件.....一〇六
 ○軍人恩給法中改正ノ件.....一〇六
 ○同施行手續.....一一二

第七類

○小學校令施行規則中改正ノ件.....一一三
 ○同上.....一一三
 ○高等女學校令中改正ノ件.....一一三
 ○高等女學校令施行規則中改正ノ件.....一一四
 ○教員檢定ニ關スル件.....一一六

第八類

○日本勸業銀行法中改正ノ件.....一一八
 ○農工銀行法中改正ノ件.....一一八
 ○農會令中改正ノ件.....一一九
 ○農會令施行規則中改正ノ件.....一二一
 ○農會補助金交付規則中改正ノ件.....一二一
 ○病蟲害豫防獎勵規則.....一二二

- 蠶絲業法.....一三三
- 蠶絲業改良獎勵費交付規則.....一二七
- 茶業取締ニ關スル件.....一二九
- 鑛業法中改正ノ件.....一二九
- 漁業法施行期日ノ件.....一三〇
- 漁業法施行規則.....一三〇
- 工場法.....一三七

第九類

第十類

- 郵便規則中改正ノ件.....一四一
- 同上.....一四一
- 速達郵便規則.....一四二
- 郵便貯金規則中改正ノ件.....一四四
- 同上.....一四五
- 同上.....一四五
- 郵便振替貯金規則中改正ノ件.....一四六
- 同上.....一四六
- 同上.....一四七
- 同上.....一四七

- 同上.....一四七

第十一類 第十二類

- 官吏恩給法中改正ノ件.....一四八
- 官吏遺族扶助法中改正ノ件.....一四八
- 官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則中改正ノ件.....一四八

追補目次

追改正法規大觀

第一類

第一章 皇室財產令

(明治四十三年十二月 皇室令第三十三號)

皇室財產令
皇室財產令ヲ裁可
シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 御料

第一節 總則

第一條 御料ハ世傳御料及普通御料トス

第二條 御料ニ關シテ法律上ノ行為ニ付テハ宮内大臣
ヲ以テ其ノ當事者ト看做ス但シ宮内大臣ハ所部ノ官
吏ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第三條 民法第一編乃至第三編商法及附屬法令ハ皇室
典範及本令其ノ他ノ皇室令ニ別段ノ定メナキトキニ
限リ御料ニ關シ之ヲ準用ス

第二節 世傳御料

第四條 皇室典範第四十六條ノ規定ニ依リ世傳御料ニ
編入シタル財產ノ公告ニハ左ノ事項ヲ掲クヘシ

- 一 土地ニ付テハ其ノ所在地目地番及面積
- 二 建物ニ付テハ其ノ所在種類構造及建坪
- 三 其ノ他ノ物件ニ付テハ其ノ品目種類及箇數

第五條 世傳御料ニ屬スル財產ニ付テハ其種類ニ從ヒ

第一類

各臺帳ヲ設ケ前條ニ掲ケタル事項ノ外土地ニ付テハ
由緒建物ニ付テハ建造者年代及由緒其ノ他ノ物件ニ
付テハ製作者筆者年代及由緒ヲ登錄スヘシ

前項ニ掲ケタル事項ノ外宮内大臣ニ於テ必要ト認メ
タルモノハ勅裁ヲ經テ之ヲ臺帳ニ登錄スルコトヲ得

第六條 世傳御料ニ屬スル土地ノ臺帳ニハ圖面及疆界
簿ヲ添附シ建物ノ臺帳ニハ圖面ヲ添付スヘシ

第七條 世傳御料ニ屬スル財產ノ臺帳ハ圖書寮ニ於テ
尙藏ス

第八條 世傳御料ニ屬スル財產ハ重大ナル事由ヲ生シ
タル場合ニ限リ其ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ノ解除ハ樞密顧問ニ諮詢シ勅書ヲ以テ之ヲ定メ
宮内大臣之ヲ公告ス

第九條 世傳御料ニ屬スル財產ハ必要アルトキハ勅裁
ヲ經テ之ニ變更ヲ加ヘ又ハ之ヲ修補改築スルコトヲ
得

第十條 前二條ノ場合ニ於テハ臺帳ニ事由ヲ附記シ且
ツ異動ノ登錄ヲ爲スヘシ登錄又ハ附記ノ事項ニ異動
生シタル場合亦同シ

前二條ノ場合ヲ除クノ外世傳御料ニ屬スル財產ニ異
動ヲ生シタルトキハ勅裁ヲ經テ前項ノ手續ヲ爲スヘ
シ

第十一條 左ノ場合ニ於テハ勅裁ヲ經テ臺帳ノ登錄又
ハ附記ヲ訂正スヘシ

一 登錄又ハ附記ノ事項若ハ文字ニ錯誤アリタルト

追改正法規大觀

第一類

○皇室財産令 (明治四十三年十二月 皇室令第三十三號)

朕皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ皇室財産令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
皇室財産令

第一章 御料

第一節 總則

第一條 御料ハ世傳御料及普通御料トス

第二條 御料ニ關スル法律上ノ行為ニ付テハ宮内大臣ヲ以テ其ノ當事者ト看做ス但シ宮内大臣ハ所部ノ官吏ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第三條 民法第一編乃至第三編商法及附屬法令ハ皇室典範及本令其ノ他ノ皇室令ニ別段ノ定メナキトキニ限リ御料ニ關シ之ヲ準用ス

第二節 世傳御料

第四條 皇室典範第四十六條ノ規定ニ依リ世傳御料ニ編入シタル財産ノ公告ニハ左ノ事項ヲ掲クヘシ

- 一 土地ニ付テハ其ノ所在地目地番及面積
 - 二 建物ニ付テハ其ノ所在種類構造及建坪
 - 三 其ノ他ノ物件ニ付テハ其ノ品目種類及箇數
- 第五條 世傳御料ニ屬スル財産ニ付テハ其種類ニ從ヒ

第一類

各臺帳ヲ設ケ前條ニ掲ケタル事項ノ外土地ニ付テハ由緒建物ニ付テハ建造者年代及由緒其ノ他ノ物件ニ付テハ製作者筆者年代及由緒ヲ登錄スヘシ

前項ニ掲ケタル事項ノ外宮内大臣ニ於テ必要ト認メタルモノハ勅裁ヲ經テ之ヲ臺帳ニ登錄スルコトヲ得

第六條 世傳御料ニ屬スル土地ノ臺帳ニハ圖面及疆界簿ヲ添附シ建物ノ臺帳ニハ圖面ヲ添付スヘシ

第七條 世傳御料ニ屬スル財産ノ臺帳ハ圖書寮ニ於テ尙藏ス

第八條 世傳御料ニ屬スル財産ハ重大ナル事由ヲ生シタル場合ニ限リ其ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ノ解除ハ樞密顧問ニ諮詢シ勅書ヲ以テ之ヲ定メ宮内大臣之ヲ公告ス

第九條 世傳御料ニ屬スル財産ハ必要アルトキハ勅裁ヲ經テ之ニ變更ヲ加ヘ又ハ之ヲ修補改築スルコトヲ得

第十條 前二條ノ場合ニ於テハ臺帳ニ事由ヲ附記シ且ツ異動ノ登錄ヲ爲スヘシ登錄又ハ附記ノ事項ニ異動生シタル場合亦同シ

前二條ノ場合ヲ除クノ外世傳御料ニ屬スル財産ニ異動ヲ生シタルトキハ勅裁ヲ經テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一條 左ノ場合ニ於テハ勅裁ヲ經テ臺帳ノ登錄又ハ附記ヲ訂正スヘシ

- 一 登錄又ハ附記ノ事項若ハ文字ニ錯誤アリタルト

二 土地ノ登録面積實測面積ト異ナルトキ
 第十二條 第五條及前二條ノ規定ニ依リ登録附記又ハ訂正ヲ爲シタルトキハ臺帳ニ其年月日ヲ記入シ宮内大臣主管部局ノ長官及圖畫頭之ニ捺印スヘシ
 第十三條 世傳御料ニ關シ公告ヲ經タル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ宮内大臣之ヲ公告ス
 第十四條 世傳御料ノ果實ハ普通御料ニ屬ス變更修補又ハ改築ニ因リテ生シタル材料亦同シ
 第十五條 世傳御料ニ屬スル土地ノ上ニ新ニ物權ヲ設定スルハ公用又ハ公益事業ノ爲ニ必要ナル場合ニ限ル
 前項ノ規定ニ依リテ物權ヲ設定スルニハ樞密顧問ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス
 第十六條 世傳御料ニ屬スル土地ノ上ニ物權ヲ設定シタルトキハ宮内大臣之ヲ公告ス其ノ公告シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ
 前項ノ公告ハ登記ト同一ノ效力ヲ有ス
 第十七條 前條ニ規定シタルモノヲ除クノ外世傳御料ニ編入シタル不動産ニ關スル權利ハ登記ヲ爲サスシテ第三者ニ對抗スルコトヲ得
 登記シタル不動産ヲ世傳御料ニ編入シタル場合ニ於テハ宮内大臣ハ遲滞ナク其ノ登記ノ抹消ヲ登記所ニ屬托スヘシ
 第三節 普通御料

第十八條 普通御料ニ屬スル財産ニ付テハ其ノ種類ニ從ヒ必要ナル帳簿又ハ目錄ヲ設ケ之ニ其ノ現況價格及異動ヲ登録シ土地ニ付テハ圖面及疆界簿ヲ添附スヘシ但シ公用又ハ公益事業ニ供スル物件ニ付テハ其ノ現況及價格ヲ登録スルコトヲ要セス
 第十九條 普通御料ニ屬スル財産ノ帳簿又ハ目錄ハ主管部局ニ於テ保管ス
 第二十條 內廷ニ屬スル財産ノ管理ニ關スル規定ハ宮内大臣勅裁ヲ經テ之ヲ定ム
 第二章 皇族財産
 第一節 總則
 第二十一條 第二條第三條及第十八條乃至第二十條ノ規定ハ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃未タ婚嫁セサル未成年ノ皇子及皇太子皇太孫ノ子ニシテ未タ婚嫁セサル未成年者ノ財産ニ關シ之ヲ準用ス
 第二十二條 民法第一編乃至第三編商法及附屬法令並公益ノ爲ニスル財産ノ收用徵發又ハ制限ニ關スル法令ハ皇室典範及本令其他ノ皇室令ニ別段ノ定メナキトキニ限リ皇族ニ之ヲ適用ス但シ前條ニ掲ケタル皇族ハ此ノ限ニ在ラス
 第二十三條 皇族臣籍ニ在ル者ノ遺贈ニ因リテ受遺者タルトキハ民法第五編第六章及第七章ノ規定ニ依リ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃ハ遺贈ヲ受クルコトナシ

第二節 治産能力

第二十四條 未タ婚嫁セサル未成年ノ皇族財産ニ關スル法律上ノ行爲ヲ爲スニハ其ノ法定代理人ノ同意ヲ受クヘシ
 前項ノ規定ニ反スル行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得
 第二十五條 前條ノ規定ハ法定代理人ニ於テ處分ヲ認諾セル財産ニ關スル行爲及單ニ權利ヲ得又ハ義務ヲ免ルヘキ行爲ニ之ヲ適用セス
 第二十六條 前二條ノ規定ハ皇室典範第五十三條ニ依リ禁治産者ニ之ヲ準用ス
 第二十七條 皇族精神ノ重患アルトキハ勅旨ヲ以テ禁治産ヲ宣告スルコトアルヘシ
 前項ノ規定ニ依リ禁治産ヲ宣告セラレタルモノハ之ヲ後見ニ付ス
 第二十八條 前條ノ禁治産者ノ行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得
 第二十九條 皇族精神ノ耗弱ナルトキ又ハ身體ノ重患アルトキハ勅旨ヲ以テ準禁治産ヲ宣告スルコトアルヘシ
 前項ノ規定ニ依リ準禁治産ヲ宣告セラレタル者ハ之ニ保佐人ヲ附ス
 民法第十二條第一項及第三項ノ規定ハ準禁治産者ニ之ヲ準用ス
 第三十條 禁治産又ハ準禁治産ノ原因止ミタルトキハ勅旨ヲ以テ之ヲ解除ス

第三十一條 禁治産又ハ準禁治産ノ宣告及解除ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス
 第三十二條 保佐人ハ勅選ニ由ル
 第三十三條 未成年者及女子ハ保佐人タルコトヲ得ス
 第三十四條 保佐人ハ正當ノ事由アルトキハ勅許ヲ經テ辭任ヲ爲スコトヲ得
 第三十五條 保佐人ノ解任ハ勅旨ニ由ル
 第三十六條 民法第十九條及第二十條ノ規定ハ未タ婚嫁セサル未成年者禁治産者及準禁治産者ノ行爲ニ之ヲ準用ス
 第三十七條 本節ノ規定ハ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃未タ婚嫁セサル未成年ノ皇子及皇太子皇太孫ノ子ニシテ未タ婚嫁セサル未成年者ニ之ヲ適用セス
 第三節 遺留財産
 第三十八條 皇族男子ハ遺留財産ヲ設定シ又ハ増加スルコトヲ得
 第三十九條 遺留財産ヲ設定又ハ増加セムト欲スル者ハ遺言ヲ以テ其ノ意思ヲ表示スルコトヲ得
 第四十條 未タ婚嫁セサル未成年者禁治産者及準禁治産者ハ遺留財産ヲ設定シ又ハ増加スルコトヲ得ス
 第四十一條 遺留財産ヲ設定又ハ増加セムト欲スル者ハ其ノ財産ノ目錄ヲ添ヘ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ申述スヘシ
 第四十條ノ場合ニ於テハ遺言ノ效力ヲ生シタル後相

續人又ハ其ノ法定代理人ニ於テ遲滯ナク前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十二條 前條ノ申述アリタルトキハ宮内大臣ハ財産ノ目錄ヲ審査シ支障ナシト認メタルトキハ其ノ財産ニ付キ之ヲ遺留財産ト爲サムトスル申述アリタル旨ヲ勅裁ヲ經テ一週間公告スヘシ

前項ノ公告ニハ土地ニ付テハ其ノ所在地目及地番建物ニ付テハ其ノ所在及種類其ノ他ノ物件ニ付テハ其ノ品目種類箇數其ノ他必要ナル事項ヲ掲クヘシ

第四十三條 前條ノ規定ニ依リ公告シタル財産ニ關シ權利ヲ主張セムト欲スル者ハ前條第一項ノ公告期間満了ノ後三十日內ニ故障ヲ宮内大臣ニ申出ツルコトヲ要ス

前項ノ期間內ニ故障ノ申出ナキトキハ登記ナキ權利ハ之ヲ主張スルコトヲ得ス登録國債ニ付キ登録ナキ權利亦同シ

第四十四條 宮内大臣ハ故障ノ申出ナキ財産ニ限リ之ヲ遺留財産ト爲スコトニ付キ勅許ヲ受クヘシ

第四十五條 遺留財産ノ設定又ハ増加ノ勅許アリタルトキハ宮内大臣ハ其ノ旨及第四十三條第二項ニ掲ケタル事項ヲ公告スヘシ

第四十六條 遺留財産ニ付テハ臺帳ヲ設ケ之ニ左ノ事項ヲ登錄スヘシ

- 一 遺留財産設定増加ノ申述者又ハ遺言者
- 二 勅許ノ年月日

三 土地ニ付テハ其ノ所在地目番及面積建物ニ付テハ其ノ所在種類構造及建坪及其ノ他ノ物件ニ付テハ其ノ品目種類箇數其ノ他必要ナル事項

第四十七條 遺留財産中有價證券アルトキハ之ニ遺留財産タル旨ヲ記入シ登録國債アルトキハ國債登錄簿ニ遺留財産タル旨ヲ登錄ヲ經ヘシ

第四十八條 遺留財産ノ相續ハ其ノ所有者タル皇族ノ葬去ニ因リテ開始ス

第四十九條 遺留財産ハ設定者ヨリ出タル男系ノ皇族男子皇位繼承ノ順序ニ依リ之ヲ相續ス

第五十條 遺留財産ノ相續ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得ス

第五十一條 遺留財産ノ相續アリタルトキハ宮内大臣ハ其ノ旨ヲ公告シ且之ヲ臺帳ニ附記スヘシ

第五十二條 遺留財産ハ勅許ヲ經テ其ノ管理ヲ宮内大臣ニ委託スルコトヲ得

第五十三條 相續開始前ノ申述ニ係ル遺留財産ノ設定又ハ増加ニ付キ相續開始ノ後勅許アリタルトキハ其ノ設定又ハ増加ハ相續開始ノ時ニ遡リテ其ノ效力ヲ生ス遺言ニ基ツク遺留財産ノ設定又ハ増加ノ勅許アリタルトキ亦同シ

第五十四條 遺留財産ノ果實ハ遺留財産ニ屬セス變更修補又ハ改築ニ因リテ生シタル材料亦同シ

第五十五條 遺留財産ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス遺留財産ニ付キ地上權永小作權又ハ地役權ヲ設定セ

ス

第六十四條 前條ノ規定ニ依リ遺產相續ヲ爲スヘキ直系卑屬相續開始前ニ薨去又ハ死亡シタル場合ニ於テ其ノ者ニ直系卑屬アルトキハ其ノ直系卑屬ハ其ノ者ノ順位ニ於テ遺產相續ヲ爲ス

第六十五條 遺產相續人相續ノ拋棄ヲ爲サムト欲スルトキハ自己ノ爲ニ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ三箇月內ニ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ申述スヘシ

遺產相續人前項ノ期間內ニ拋棄ノ申述ヲ爲サザリシトキハ相續ノ承認ヲ爲シタルモノト看做ス

第六十六條 遺產相續人ハ相續ノ承認前ニ於テ相續財産ヲ處分スルコトヲ得ス共同相續人ノ承認又ハ拋棄前亦同シ

第六十七條 相續財産ハ相續ノ承認アルマテ宮内大臣之ヲ管理ス共同相續人ノ承認又ハ拋棄前亦同シ

前項ノ規定ハ遺言執行者アル場合ニ之ヲ適用セス

第六十八條 同順位ノ遺產相續人數人アルトキハ其ノ各自ノ相續分ハ相均キモノトス但シ直系卑屬數人アルトキハ庶子ノ相續分ハ嫡出子ノ相續分ノ二分ノ一トス

第六十九條 第六十五條ノ規定ニ依リテ遺產相續人タル直系卑屬ノ相續分ハ其ノ直系尊屬ノ受クヘカリシモノニ同シ但シ直系卑屬數人アルトキハ其ノ各自ノ直系尊屬ノ受クヘカリシ部分ニ付キ前條ノ規定ニ從

續人又ハ其ノ法定代理人ニ於テ遲滯ナク前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十二條 前條ノ申述アリタルトキハ宮内大臣ハ財産ノ目錄ヲ審査シ支障ナシト認メタルトキハ其ノ財産ニ付キ之ヲ遺留財産ト爲サムトスル申述アリタル旨ヲ勅裁ヲ經テ一週間公告スヘシ

前項ノ公告ニハ土地ニ付テハ其ノ所在地目及地番建物ニ付テハ其ノ所在及種類其ノ他ノ物件ニ付テハ其ノ品目種類箇數其ノ他必要ナル事項ヲ掲クヘシ

第四十三條 前條ノ規定ニ依リ公告シタル財産ニ關シ權利ヲ主張セムト欲スル者ハ前條第一項ノ公告期間満了ノ後三十日內ニ故障ヲ宮内大臣ニ申出ツルコトヲ要ス

前項ノ期間內ニ故障ノ申出ナキトキハ登記ナキ權利ハ之ヲ主張スルコトヲ得ス登録國債ニ付キ登録ナキ權利亦同シ

第四十四條 宮内大臣ハ故障ノ申出ナキ財産ニ限リ之ヲ遺留財産ト爲スコトニ付キ勅許ヲ受クヘシ

第四十五條 遺留財産ノ設定又ハ増加ノ勅許アリタルトキハ宮内大臣ハ其ノ旨及第四十三條第二項ニ掲ケタル事項ヲ公告スヘシ

第四十六條 遺留財産ニ付テハ臺帳ヲ設ケ之ニ左ノ事項ヲ登錄スヘシ

- 一 遺留財産設定増加ノ申述者又ハ遺言者
- 二 勅許ノ年月日

ムトスルトキハ勅許ヲ受クヘシ

第五十六條 遺留財産ハ之ヲ執行行爲ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第五十七條 遺留財産所有者ハ勅許ヲ經テ遺留財産ノ全部又ハ一部ヲ廢止スルコトヲ得

第五十八條 第四十條乃至第四十二條及第五十四條ノ規定ハ遺留財産ノ廢止ニ之ヲ準用ス

第五十九條 遺留財産ノ相續人ナキトキハ之ヲ廢止シタルモノト看做ス

第六十條 遺留財産ノ廢止其ノ他ノ異働ヲ生シタル場合ニ於テハ宮内大臣ハ其ノ旨ヲ公告シ且臺帳ニ事由ヲ附記シテ異働ノ登錄ヲ爲スヘシ

前項ノ公告ニハ第四十三條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六十一條 本節ノ規定ハ皇太子皇太孫ニ之ヲ適用セ

第四節 遺產相續

第六十二條 遺產相續ハ皇族ノ薨去ニ因リテ開始ス

第六十三條 遺產相續ハ左ノ順位ニ依ル

第一 直系卑屬

第二 配偶者

第三 直系尊屬

第四 兄弟姊妹

前項ノ規定ニ依リ直系卑屬又ハ直系尊屬ノ間ニ於テ遺產相續ヲ爲スハ親等ノ異ナリタル者ノ間ニ在リテハ其ノ近キ者ヲ先ニシ親等ノ同キ者ハ同順位ニ於テ

第七十條 被相続人ハ前二條ノ規定ニ拘ラス遺言ヲ以テ共同相続人ノ相続分ヲ定ムルコトヲ得

第七十一條 被相続人ハ遺言ヲ以テ相続財産分割ノ方法ヲ定ムルコトヲ得

第七十二條 相続財産ノ分割ニ付キ協議調ハサルトキハ宮内大臣勅裁ヲ經テ之ヲ爲ス

第七十三條 民法第九百六十八條第一千一條乃至第一千九條第九條第一千十一條乃至第一千十六條第一千十八條第一千十九條第一千二十二條及第一千三十九條ノ規定ハ皇族ノ遺產相続ニ之ヲ準用ス

第七十四條 遺產相続人ナキトキハ宮内大臣遺產ノ精算ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ宮内大臣ヲ以テ遺產ニ關スル法律上ノ行爲ノ當時者ト看做ス但シ宮内大臣ハ所部ノ官吏ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第七十五條 前條第二項ノ期間満了ノ後宮内大臣ハ相続債權者及受遺者ニ辨濟ヲ爲シ仍殘餘財産アルトキハ其ノ財産ハ普通御料ニ歸屬ス

民法第一千三十一條乃至第一千三十三條ノ規定ハ前項ノ

場合ニ之ヲ準用ス但シ條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ハ宮内大臣ノ命シタル評價人ヲシテ之ヲ評價セシム

第七十六條 前條第一項ノ規定ニ依リ殘餘財産普通御料ニ歸屬シタルトキハ相続債權者及受遺者ハ其ノ權利ヲ失フ

第七十七條 皇族臣籍ニ在ル者ノ遺產相続人タルトキハ民法第五編第二章乃至第四章及第七章ノ規定ニ依ル

第七十八條 本節ノ規定ハ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃ニ之ヲ適用セス但シ其ノ遺產ハ普通御料ニ歸屬ス

第三章 帝室經濟會議

第七十九條 帝室ノ經濟ニ關スル事項ヲ諮詢スル爲帝室經濟會議ヲ置ク

第八十條 帝室經濟會議ニ諮詢スヘキ事項ノ概目左ノ如シ

- 一 皇室經費ノ豫算ニ關スル事項
- 二 第二豫備金ノ支出其ノ他豫算外ノ支出ニ關スル事項
- 三 世傳御料ノ編入及解除ニ關スル事項
- 四 世傳御料ニ屬スル土地ノ上ニ設定スル物權ニ關スル事項
- 五 重要ナル財産權ノ得喪ニ關スル事項

第八十一條 帝室經濟會議ハ内大臣宮内大臣及勅命セ

ラレタル帝室經濟顧問七人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第八十二條 宮内次官内藏頭帝室林野管理局長官及帝室會計審査局長官ハ帝室經濟會議ニ列シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第八十三條 帝室經濟會議ニ關シ必要ナル規程ハ其ノ會議ニ於テ之ヲ議定シ勅裁ヲ受クヘシ

第八十四條 帝室經濟會議ニ關スル庶務ハ宮内高等官ヲシテ之ヲ管掌セシム

第八十五條 本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八十六條 國有林野法第四條乃至第六條ノ規定ハ御料ニ屬スル林野ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リテ爲シタル疆界査定ニ不服アル隣接地所有者疆界査定ノ通告ヲ受ケタル日ヨリ三箇月内ニ通常裁判所ニ訴訟ヲ提起セサルトキハ其ノ疆界査定ハ確定シタルモノト看做ス

○韓國併合ニ關スル條約

(明治四十三年八月二日)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル韓國併合ニ關スル條約ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布ス

日本帝國皇帝陛下及韓國皇帝陛下ハ兩國間ノ特殊ニシテ親密ナル關係ヲ願ヒ相互ノ幸福ヲ増進シ東洋ノ平和

ヲ永久ニ確保セシムルコトヲ欲シ此ノ目的ヲ達セムガ爲ニハ韓國ヲ日本帝國ニ併合スルニ如カサルコトヲ確信シ茲ニ兩國間ニ併合條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ爲日本帝國皇帝陛下ハ統監子爵寺内正毅ヲ韓國皇帝陛下ハ内閣總理大臣李完用ヲシテ各其ノ全權委員ニ任命セリ

第一條 韓國皇帝陛下ハ韓國全部ニ關スル一切ノ統治權ヲ完全且永久ニ日本帝國皇帝陛下ニ讓與ス

第二條 日本帝國皇帝陛下ハ前條ニ掲ケタル讓與ヲ受諾シ且全然韓國ヲ日本帝國ニ併合スルコトヲ承諾ス

第三條 日本帝國皇帝陛下ハ韓國皇帝陛下 太皇帝陛下 皇太子殿下並其ノ后妃及後裔ヲシテ各其ノ地位ニ應シ相當ナル尊稱、威嚴及名譽ヲ享有セシメ且之ヲ保持スルニ十分ナル歳費ヲ供給スヘキコトヲ約ス

第四條 日本帝國皇帝陛下ハ前條以外ノ韓國皇族及其ノ後裔ニ對シ各相當ノ名譽及待遇ヲ享有セシメ且之ヲ維持スルニ必要ナル資金ヲ供與スルコトヲ約ス

第五條 日本帝國皇帝陛下ハ勳功アル韓人ニシテ特ニ表彰ヲ爲スヲ適當ナリト認メタル者ニ對シ榮爵ヲ授ケ且恩金ヲ與フヘシ

第六條 日本國政府ハ前記併合ノ結果トシテ全然韓國ノ施政ヲ擔任シ同地ニ施行スル法規ヲ遵守スル韓人ノ身體及財産ニ對シ十分ナル保護ヲ與ヘ且其ノ福利ノ増進ヲ圖ルヘシ

第七條 日本國政府ハ誠意忠實ニ新制度ヲ尊重スル韓

ヒテ其ノ相續分ヲ定ム

第七十條 被相續人ハ前二條ノ規定ニ拘ラス遺言ヲ以テ共同相續人ノ相續分ヲ定ムルコトヲ得
被相續人ニ於テ共同相續人中ノ一人又ハ數人ノ相續分ノミヲ定メタルトキハ他ノ共同相續人ノ相續分ハ前二條ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第七十一條 被相續人ハ遺言ヲ以テ相續財產分割ノ方法ヲ定ムルコトヲ得

第七十二條 相續財產ノ分割ニ付キ協議調ハサルトキハ宮内大臣勅裁ヲ經テ之ヲ爲ス

第七十三條 民法第九百六十八條第一千一條乃至第一千九條第一千九條第一千二百二條及第一千三十九條ノ規定ハ皇族ノ遺產相續ニ之ヲ準用ス

第七十四條 遺產相續人ナキトキハ宮内大臣遺產ノ精算ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ宮内大臣ヲ以テ遺產ニ關スル法律上ノ行爲ノ當時者ト看做ス但シ宮内大臣ハ所部ノ官吏ヲシテ代理セシムルコトヲ得
宮内大臣ハ遲滯ナク一切ノ相續債權者及受遺者ニ對シ二箇月内ニ其ノ請求ヲ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スヘシ

第七十五條 前條第二項ノ期間滿了ノ後宮内大臣ハ相續債權者及受遺者ニ辨濟ヲ爲シ仍殘餘財產アルトキハ其ノ財產ハ普通御料ニ歸屬ス
民法第一千三十一條乃至第一千三十三條ノ規定ハ前項ノ

場合ニ之ヲ準用ス但シ條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ハ宮内大臣ノ命シタル評價人ヲシテ之ヲ評價セシム

第七十六條 前條第一項ノ規定ニ依リ殘餘財產普通御料ニ歸屬シタルトキハ相續債權者及受遺者ハ其ノ權利ヲ失フ

第七十七條 皇族臣籍ニ在ル者ノ遺產相續人タルトキハ民法第五編第二章乃至第四章及第七章ノ規定ニ依ル

第七十八條 本節ノ規定ハ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃ニ之ヲ適用セス但シ其ノ遺產ハ普通御料ニ歸屬ス

第三章 帝室經濟會議
第七十九條 帝室ノ經濟ニ關スル事項ヲ諮詢スル爲帝室經濟會議ヲ置ク

第八十條 帝室經濟會議ニ諮詢スヘキ事項ノ概目左ノ如シ
一 皇室經費ノ豫算ニ關スル事項
二 第二豫備金ノ支出其ノ他豫算外ノ支出ニ關スル事項
三 世傳御料ノ編入及解除ニ關スル事項
四 世傳御料ニ屬スル土地ノ上ニ設定スル物權ニ關スル事項
五 重要ナル財產權ノ得喪ニ關スル事項

第八十一條 帝室經濟會議ハ内大臣宮内大臣及勅命セ

ラレタル帝室經濟顧問七人以内ヲ以テ之ヲ組織ス
第八十二條 宮内次官内藏頭帝室林野管理局長官及帝室會計審查局長官ハ帝室經濟會議ニ列シテ意見ヲ述フルコトヲ得
第八十三條 帝室經濟會議ニ關シ必要ナル規程ハ其ノ會議ニ於テ之ヲ議定シ勅裁ヲ受クヘシ
第八十四條 帝室經濟會議ニ關スル庶務ハ宮内高等官ヲシテ之ヲ管掌セシム

附則

第八十五條 本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
第八十六條 國有林野法第四條乃至第六條ノ規定ハ御料ニ屬スル林野ニ之ヲ準用ス
前項ノ規定ニ依リテ爲シタル疆界査定ニ不服アル隣接地所有者疆界査定ノ通告ヲ受ケタル日ヨリ三箇月内ニ通常裁判所ニ訴訟ヲ提起セサルトキハ其ノ疆界査定ハ確定シタルモノト看做ス

○韓國併合ニ關スル條約

(明治四十三年八月二十九日條約第四號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル韓國併合ニ關スル條約ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布ス
日本帝國皇帝陛下及韓國皇帝陛下ハ兩國間ノ特殊ニシテ親密ナル關係ヲ願ヒ相互ノ幸福ヲ増進シ東洋ノ平和

ヲ永久ニ確保セシムルコトヲ欲シ此ノ目的ヲ達セムガ爲ニハ韓國ヲ日本帝國ニ併合スルニ如カサルコトヲ確信シ茲ニ兩國間ニ併合條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ爲日本國皇帝陛下ハ統監子爵寺内正毅ヲ韓國皇帝陛下ハ内閣總理大臣李完用ヲシテ各其ノ全權委員ニ任命セリ
第一條 韓國皇帝陛下ハ韓國全部ニ關スル一切ノ統治權ヲ完全且永久ニ日本國皇帝陛下ニ讓與ス
第二條 日本國皇帝陛下ハ前條ニ掲ケタル讓與ヲ受諾シ且全然韓國ヲ日本帝國ニ併合スルコトヲ承諾ス
第三條 日本國皇帝陛下ハ韓國皇帝陛下 太皇帝陛下 皇太子殿下並其ノ后妃及後裔ヲシテ各其ノ地位ニ應ジ相當ナル尊稱、威嚴及名譽ヲ享有セシメ且之ヲ保持スルニ十分ナル歳費ヲ供給スヘキコトヲ約ス
第四條 日本國皇帝陛下ハ前條以外ノ韓國皇族及其ノ後裔ニ對シ各相當ノ名譽及待遇ヲ享有セシメ且之ヲ維持スルニ必要ナル資金ヲ供與スルコトヲ約ス
第五條 日本國皇帝陛下ハ勳功アル韓人ニシテ特ニ表彰ヲ爲スヲ適當ナリト認メタル者ニ對シ榮爵ヲ授ケ且恩金ヲ與フヘシ
第六條 日本國政府ハ前記併合ノ結果トシテ全然韓國ノ施政ヲ擔任シ同地ニ施行スル法規ヲ遵守スル韓人ノ身體及財產ニ對シ十分ナル保護ヲ與ヘ且其ノ福利ノ増進ヲ圖ルヘシ
第七條 日本國政府ハ誠意忠實ニ新制度ヲ尊重スル韓

人ニシテ相當ノ資格アル者ヲ事情ノ許ス限リ該國ニ於ケル帝國官吏ニ登用スヘシ
第八條 本條約ハ日本國皇帝陛下及韓國皇帝陛下ノ裁可ヲ經タルモノニシテ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
右證據トシテ兩全權委員ハ本條約ニ記名調印スルモノナリ

明治四十三年八月二十二日 統 監 子爵寺内正毅
陸軍四年八月二十二日 内閣總理大臣 李 完 用

○韓國併合ニ付テノ詔勅(明治四十三年八月二十九日告示)

朕東洋ノ平和ヲ永遠ニ維持シ帝國ノ安全ヲ將來ニ保障スルノ必要ナルヲ念ヒ又當ニ韓國力弱亂ノ淵源タルニ顧ミ朕ノ政府ヲシテ韓國政府ト協定セシメ韓國ヲ帝國保護ノ下ニ置キ以テ禍源ヲ杜絶シ平和ヲ確保センコトヲ期セリ
爾來時ヲ經ルコト四年有餘其ノ間朕ノ政府ハ銳意韓國施政ノ改善ニ努メ其ノ成績亦見ルヘキモノアリト雖韓國ノ現制ハ尙未ダ治安ノ保持ヲ完スルニ足ラズ疑懼ノ念毎ニ國內ニ充溢シ民其ノ堵ニ安セス公共ノ安寧ヲ維持シ民衆ノ福利ヲ増進セムカ爲ニ革新ヲ現制ニ加フルノ避ケ可ラサルコト默然タルニ至レリ
朕ハ韓國皇帝陛下ト與ニ此ノ事應ニ臨ミ韓國ヲ舉テ日本帝國ニ併合シ以テ時勢ノ要求ニ應スルノ已ムヲ得サルモノアルヲ念ヒ茲ニ永久ニ韓國ヲ帝國ニ併合スルコトトナセリ
韓國皇帝陛下及其ノ皇室各員ハ併合ノ後ト雖相當ノ優遇ヲ受クヘク民衆ハ直接朕力綏撫ノ下ニ立チテ其ノ庶福ヲ増進スヘク産業及貿易ハ治平ノ下ニ顯著ナル發達ヲ見ルニ至ルヘシ而シテ東洋ノ平和ハ之ニ依リテ愈々其ノ基礎ヲ鞏固ニスヘキハ朕ノ信シテ疑ハサル所ナリ
朕ハ特ニ朝鮮總督ヲ置キ之ヲシテ朕ノ命ヲ承ケテ陸海軍ヲ統率シ諸般ノ政務ヲ總轄セシム百官有司克ク朕ノ意ヲ體シテ事ニ從ヒ施設ノ緩急其ノ宜キヲ得以テ衆庶ヲシテ永ク治平ノ慶ニ賴ラシムルコトヲ期セヨ

御名 御璽

○國號改稱(明治四十三年八月二十九日告示)

朕韓國ノ國號ヲ改メ朝鮮ト稱スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
韓國ノ國號ハ之ヲ改メ爾今朝鮮ト稱ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
○李王册立ニ付テノ詔勅(明治四十三年八月二十九日告示)

朕天壤無窮ノ丕基ヲ弘クシ國家非常ノ禮數ヲ備ヘムト欲シ前韓國皇帝ヲ册シテ王ト爲シ昌德宮李王ト稱シ爾後此ノ隆錫ヲ世襲シテ以テ其ノ宗祀ヲ奉セシメ皇太子及將來ノ世子ヲ王世子トシ太皇太后王太后ト爲シ德壽宮李太王ト稱シ各其ノ儀禮ヲ王妃太王妃又ハ王世子妃トシ並ニ侍ツニ皇族ノ禮ヲ以テシ特ニ殿下ノ敬稱ヲ用キシム世宗皇帝ノ遺ニ至リテハ朕ハ當ニ別ニ其ノ軌儀ヲ定メ李家ノ子孫ヲシテ奕葉之ニ賴リ福履ヲ增進シ永ク休祉ヲ享ケシムヘシ茲ニ有衆ニ宣示シ用テ殊典ヲ昭ニス

御名 御璽

○李垺李焘及其配匹ノ稱呼并ニ禮遇ニ付テノ詔勅(明治四十三年八月二十九日告示)

朕惟フニ李垺及李焘ハ李王ノ懿親ニシテ令聞夙ニ彰ハレ權域ノ瞻望タリ宜ク殊遇ヲ加錫シ其ノ儀禮ヲ尊ニスヘシ茲ニ特ニ公ト爲シ其ノ配匹ヲ公妃トシ並ニ侍ツニ皇族ノ禮ヲ以テシ殿下ノ敬稱ヲ用キシメ子孫ヲシテ此ノ榮爵ヲ世襲シ永ク寵光ヲ享ケシム

御名 御璽

○衆議院議員選舉法中改正ノ件(明治四十三年十月法律第六十五號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協贊ヲ經タル衆議院議員選舉法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
衆議院議員選舉法中左ノ通改正ス
第十一條第四號ヲ削ル

○衆議院議員選舉法施行中改正ノ件(明治四十四年五月勅令第三百三十五號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ明治三十三年法律第七十三號衆議院議員選舉法施行令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治四十三年法律第七十三號衆議院議員選舉法施行令中左ノ通改正ス
四 賣藥營業稅
附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二類

○市制 (明治四十四年四月 法律第六十八號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル市制改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一款 市及其ノ區域

第一條 市ハ從來ノ區培ニ依ル

第二條 市ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並從來法令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ市ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 市ノ廢置分合ヲ爲サムトスルキハ關係アル市町村會及府縣參事會ノ意見ヲ徵シテ內務大臣之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ財產アルトキハ其ノ處分ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第四條 市ノ境界變更ヲ爲サムトスルトキハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム所屬未定地ヲ市ノ區域ニ編入セムトスルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ財產アルトキ其ノ處分ニ關シテハ前項ノ例ニ依ル

第五條 市ノ境界ニ關スル爭論ハ府縣參事會之ヲ裁定

ス其ノ裁定ニ不服アル市町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市ノ境界判明ナラサル場合ニ於テ前項ノ爭論ナキ時ハ府縣知事ハ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル市町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ裁定及前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ關係市町村ニ付スヘシ

第一項ノ裁定及第二項ノ決定ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六條 勅令ヲ以テ指定スル市ノ區ハ之ヲ法人トス其ノ財產及營造物ニ關スル事務其ノ他法令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理ス

區ノ處置分合又ハ境界變更其ノ他ノ區ノ境界ニ關シテハ前二條ノ規定ヲ準用ス但シ第四條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テハ關係アル市會ノ意見ヲモ徵スヘシ

第七條 市ハ其ノ名稱ヲ變更セムトスルトキハ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

市役所ノ位置ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ市ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

前條ノ市カ其ノ區ノ名稱ヲ變更シ又ハ區役所ノ位置ヲ定メ若ハ之ヲ變更セムトスルトキハ前項ノ例ニ依ル

第八條 市内ニ住所ヲ有スル者ハ其市住民トス

市住民ハ本法ニ從ヒ市ノ財產及營造物ヲ共用スル權

第二款 市住民及其權利義務

利ヲ有シ市ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第九條 帝國臣民ニシテ獨立ノ生計ヲ營ム年齡二十五年以上ノ男子二年以來市ノ住民ト爲リ其ノ市ノ負擔ヲ分任シ且其ノ市内ニ於テ地租ヲ納メ若ハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムルトキハ其ノ市公民トス但シ貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サルモノ、禁治產者、準禁治產者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

市ハ前項二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

家督相続ニ依リ財產ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ財產ニ付被相続人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

市公民ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セララルコトナシ

市稅ヲ賦課セサル市ニ於テハ市公民ノ要件中市ノ負擔分任ニ關スル規定ヲ適用セス

第十條 市公民ハ市ノ選舉ニ參與シ市ノ名譽職ニ選舉セララル權利ヲ有シ市ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ

左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ辭シ若ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ市ハ一年以上四年以下其ノ市公民權ヲ停止シ場合ニ依リ其ノ停止期間以内其ノ者ノ負擔スヘキ市稅ノ十分一以上四分ノ一以下ヲ増課スルコトヲ得

際シ召集セラレタルトキ亦同シ

第三款 市條例及市規則

第十二條 市ハ市住民ノ權利義務又ハ市ノ事務ニ關シ市條例ヲ設クルコトヲ得
市ハ市ノ營造物ニ關シ市條例ヲ以テ規定スルモノノ外市規則ヲ設クルコトヲ得
市條例及市規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第二章 市會

第一款 組織及選舉

第十三條 市會議員ハ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人之ヲ選舉ス
議員ノ定數ハ左ノ如シ

- 一 人口五萬未滿ノ市 三十人
 - 二 人口五萬以上十五萬未滿ノ市 三十六人
 - 三 人口十五萬以上二十萬未滿ノ市 三十九人
 - 四 人口二十萬以上三十萬未滿ノ市 四十二人
 - 五 人口三十萬以上ノ市 四十五人
- 人口三十萬ヲ超ユル市ニ於テハ人口十萬、人口五十萬ヲ超ユル市ニ於テハ人口二十萬加フル毎ニ議員三人ヲ増加ス議員ノ定數ハ市條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得
議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セス但シ著シク人口ノ増減アリタル場合ニ於テ內務大臣ノ許可ヲ得タルトハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 市公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ第十一條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

帝國臣民ニシテ直接市稅ヲ納ムル者其ノ額市公民ノ最多ク納稅スル者三人中ノ一人ヨリモ多キトキハ第九條第一項ノ要件ニ當ラヌト雖選舉權ヲ有ス
但シ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ者及第十一條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ルモノハ此ノ限ニ在ラス

法人ニ關シテモ亦前項ノ例ニ依ル

直接市稅ヲ賦課セサル市ニ於テハ其ノ市內ニ於テ納ムル直接國稅額ニ依リ前二項ノ規定ヲ適用ス
前三項ノ直接市稅及直接國稅ノ納額ハ選舉人名簿調製期日ノ屬スル會計年度ノ前年度ノ賦課額ニ依ルヘシ

第十五條 選舉人ハ分チテ三級トス

選舉人中直接市稅ノ納額最多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ三分ノ一ニ當ルヘキ者ヲ一級トス但シ一級選舉人ノ數議員定數ノ三分ノ一ヨリ少キトキハ納額最多キ者議員定數ノ三分ノ一ト同數ヲ以テ一級トス
一級選舉人ヲ除クノ外直接市稅ノ納額最多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル直接市稅ノ總額中一級選舉人ノ納ムル額ヲ除キ其ノ殘額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ二級トシ其ノ他ノ選舉人ヲ三級トス但シ二級選舉人ノ

場合ニハ前項但書ノ規定ヲ準用ス

各級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二人以上アルトキハ其ノ市內ニ住所ヲ有スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル住所ヲ有スル年數同シキトキハ年長者ヲ以テシ年數ニ依リ難キトキハ市長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ
選舉人ハ每級各別ニ議員定數ノ三分ノ一ヲ選舉ス但選舉區アル場合ニ於テ議員ノ數三分シ難キトキハ其ノ配當方法ハ第十六條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ
被選舉人ハ各級ニ通シテ選舉セララルコトヲ得
直接國稅ヲ賦課セサル市ニ於テハ第二項乃至第四項ノ納稅額ハ選舉人ノ市內ニ於テ納ムル直接國稅額ニ依ルヘシ

第二項乃至第四項及前項ノ直接市稅及直接國稅ノ納額ニ關シテハ前條第五項ノ規定ヲ適用ス

第十六條 市ハ市條例ヲ以テ選舉區ヲ設クルコトヲ得

二級又ハ三級選舉ノ爲ノミニ付亦同シ
選舉區ノ數及其ノ區域並各選舉區ヨリ選出スル議員數ハ前項ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ
第六條ノ市ニ於テハ區ヲ以テ選舉區トス其ノ各選舉區ヨリ選出スル議員數ハ市條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
選舉人ハ住所ニ依リ所屬ノ選舉區ヲ定ム市內ニ住所ナキ者ハ直接市稅若ハ直接國稅ノ賦課ヲ受ケタル物件又ハ營業所ノ所在ニ依リ物件又ハ營業所ニシテ數選舉區ニ在ル場合ニハ之ニ對スル課稅ノ最多キ所ニ

依リ其ノ之ニ依リ難キ場合ニハ本人ノ申出ニ依リ其ノ申出ナキトキハ市長其ノ選舉區ヲ定ムヘシ

選舉區ニ於テニ前條ノ規定ニ準シ選舉人ノ等級ヲ分ツヘシ但シ一級選舉人ノ數其ノ選出スヘキ議員配當數ヨリ少キトキハ納額最多キ者議員配當數ト同數ヲ以テ一級トス二級選舉人ニ付亦同シ

第十七條 特別ノ事情アルトキハ市ハ府縣知事ノ許可ヲ經區劃ヲ定メテ選舉分會ヲ設クルコトヲ得二級又ハ三級選舉ノ爲ノミニ付亦同シ

第十八條 選舉權ヲ有スル市公民ハ被選舉權ヲ有スル左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一月ヲ經過セサル者亦同シ

一 所屬府縣ノ官吏及有給吏員

二 其ノ市ノ有給吏員

三 檢事警察官吏及收稅官吏

四 神官神職僧侶其他諸宗教師

五 小學校教員

市ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、重役及支配人ハ其ノ市ニ於テ被選舉權ヲ有セス

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ市會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス其ノ同時ニ選舉セラレタルトキハ同級ニ在リテハ得票ノ數ニ依リ其ノ多キ者一人ヲ當選者トシ同數ナルトキ又ハ等級若ハ選舉區ヲ異ニシテ選

舉セラレタルトキハ年長者ヲ當選者トス其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ後ニ選舉セラレタル者議員タルコトヲ得ス

第十九條 市會議員ハ名譽職トス

議員ト爲リタル後前項ノ緣故ヲ生シタル場合ニ於テハ年少者其ノ職ヲ失フ市長市參與又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ市會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲解任ヲ要スル者アル選舉ハ每級各別ニ市長抽籤シテ之ヲ定ム選舉區アル場合ニ於テハ第十六條ノ市條例中ニ其ノ解任ヲ要スル者ノ選舉區及等級ヲ規定シ市長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ但シ解任ヲ要スル選舉區及等級ニ關員アルトキハ其ノ關員ヲ以テ之ニ充ツヘシ

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ選舉セラレタル議員ハ總選舉ニ依リ選舉セラレタル議員ノ任期満了ノ日迄在任ス

第二十條 市會議員中關員ヲ生シ其ノ關員議員定數ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ府縣知事市長若ハ市會ニ於テ必要ト認ムルトキハ補關選舉ヲ行フヘシ

補關議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

リタルニ依リ名簿ヲ修正ヲ要スルトキハ市長ハ其ノ確定期日前ニ修正ヲ加ヘ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ修正セシムヘシ

選舉人名簿期日前三日ヲ以テ確定ス

確定名簿ハ第三條又ハ第四條ノ處分アリタル場合ニ於テ府縣知事ノ指定スルモノヲ除クノ外其ノ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ用フ選舉區アル場合ニ於テハ各選舉區ニ涉リ同時ニ調製シタルモノハ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ用キ一部ノ選舉區限リ調製シタルモノハ確定シタル日ヨリ一年以内ニ該選舉區ニ於テノミ行フ選舉ニ之ヲ用ウ但シ名簿確定後裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ヲ修正ヲ要スルトキハ選舉ヲ終リタル後ニ於テ次ノ選舉期日前四日迄ニ之ヲ修正スヘシ

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ市長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示シ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ告示セシムヘシ

選舉分會ヲ設クルトキハ市長ハ確定名簿ニ依リ分會ノ區劃毎ニ名簿ノ抄本ヲ調製スヘシ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登錄セラレハキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

補關議員ハ前任者ノ選舉セラレタル等級及選舉區ニ於テ之ヲ選舉スヘシ

第二十一條 市長ハ選舉期日前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人ノ資格ヲ記載セル選舉人名簿ヲ調製スヘシ但シ選舉區アルトキハ選舉區毎ニ名簿ヲ調製スヘシ

第六條ノ市ニ於テハ市長ハ區長ヲシテ前項ノ名簿ヲ調製セシムヘシ
市長ハ選舉期日前四十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間毎日午前八時ヨリ午後四時迄市役所(第六條ノ市ニ於テハ區役所)又ハ告示シタル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ關係者ニ於テ異議アルトキハ縦覽期間内ニ之ヲ市長(第六條ノ市ニ於テハ區長ヲ經テ)ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市長ハ縦覽期間満了後三日以内ニ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
前四項ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決ア

前項但書ノ選舉人ハ等級ノ標準タル直接市稅又ハ直接國稅ニ依リ其ノ者ノ納額ニシテ名簿ニ登錄セラレタル一級選舉人中ノ最少額ヨリ多キトキハ一級ニ於テ二級選舉人中ノ最少額ヨリ多キトキハ二級ニ於テ其ノ他ハ三級ニ於テ選舉ヲ行フヘシ

確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ズ但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

第三項乃至第六項ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿無効ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ其ノ名簿ノ調製、縦覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ名簿ノ喪失シタルトキ亦同シ選舉人名簿調製後ニ於テ選舉期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用キ縦覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ前選舉期日ニ依リ之ヲ算定ス

第二十二條 市長ハ選舉期日後少クトモ七日間選舉會場、投票ノ日時及各級ヨリ選舉スヘキ議員數ヲ告示スヘシ選舉區アル場合ニ於テハ各級ヨリ選舉スヘキ議員數ヲ選舉區毎ニ分別シ選舉分會ヲ設クル場合ニ於テハ併セテ其ノ等級及區劃ヲ告示スヘシ

各選舉區ノ選舉ハ同日時ニ之ヲ行ヒ選舉分會ノ選舉ハ本會ト同日時ニ之ヲ行フヘシ天災事變等ニ依リ同日時ニ選舉ヲ行フコト能ハサルトキハ市長ハ其ノ選

舉ヲ終ラサル選舉會又ハ選舉分會ノミニ關シ更ニ選舉會場及投票ノ日時ヲ告示シ選舉ヲ行フヘシ
選舉ヲ行フ順序ハ先ツ三級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘシ天災事變等ニ依リ選舉ヲ行フコト能ハサルニ至リタルトキハ市長ハ其ノ選舉ヲ終ラサル等級ノミニ關シ更ニ選舉會場及投票ノ日時ヲ告示シ選舉ヲ行フヘシ

第二十三條 市長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス
各選舉區ノ選舉會ハ市長又ハ其ノ指名シタル吏員(第六條ノ市ニ於テハ區長)選舉長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

選舉分會ハ市長ノ指名シタル吏員選舉分會長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス
市長(第六條ノ市ニ於テハ區長)ハ選舉人中ヨリ二人乃至四人ノ選舉立會人ヲ選任スヘシ但シ選舉區アルトキ又ハ選舉分會ヲ設ケタルトキハ各別ニ選舉立會人ヲ設クヘシ

選舉立會人ハ名譽職トス
第二十四條 選舉人ニ非サル者ハ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但シ選舉會場ノ事務ニ從事スル者、選舉會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス

選舉會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選舉會場ノ秩序ヲ紊ス者アルトキハ選舉長又ハ分會長ハ之ヲ制止セシム

選舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ分會長少クトモ一人ノ選舉立會人ト共ニ投票函ノ儘之ヲ本會ニ送致スヘシ

第二十六條 增員選舉及補選選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ
第二十七條 第十四條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得但シ年齡二十五年以上ノ男子ニ非サル者、禁治產者及準禁治產者ハ必ス代人ヲ以テスヘシ

代人ハ帝國臣民ニシテ年齡二十五年以上ノ男子ニ限ル
第九條第一項但書ニ當ル者、第十條第二項ノ規定ニ依ル公民權停止中ノ者及第十一條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ代人タルコトヲ得ス又一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得

代人ハ委任狀其ノ他代理ヲ證スル書面ヲ選舉長又ハ分會長ニ示スヘシ
第二十八條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス
一 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ
二 現ニ市會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
三 一投票中二人以上ノ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノ
四 被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ

被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノハ無効トス

序ヲ紊ス者アルトキハ選舉長又ハ分會長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ選舉會場外ニ退出セシムヘシ
前項ノ規定ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選舉長又ハ分會長會場ノ秩序ヲ紊スノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルヲ妨ケス

第二十五條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ
投票ハ一人一票ニ限ル
選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ選舉會場ニ到リ選舉人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スヘシ

投票時間内ニ選舉會場ニ入りタル選舉人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得
選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ但シ確定名簿ニ登錄セラレタル毎級選舉人ノ數其選舉スヘキ議員數ノ三倍ヨリ少キ場合ニ於テハ連名投票ノ法ヲ用ウヘシ

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス
投票用紙ハ市長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

選舉區アル場合ニ於テ選舉人名簿ノ調製選舉人ノ所屬ニ異動ヲ生スルコトアルモ其ノ選舉人ハ前所屬ノ選舉區ニ於テ投票ヲ爲スヘシ

五 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
六 被選舉人ノ氏名ノ外前項ノ事ヲ記人シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此限ニ在ラス

連名投票ノ法ヲ用キタル場合ニ於テハ前項第一號及第六號ニ該當スルモノ並其ノ記載ノ人員選舉スヘキ定數ニ過タルモノハ之ヲ無効トシ前項第二號第四號及第五號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ無効トス

第二十九條 投票ノ拒否及效力ハ選舉立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ
選舉分會ニ於ケル投票ノ拒否ハ其選舉立會人之ヲ決定ス可否同數ナル時ハ分會長之ヲ決定スヘシ

第三十條 市會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ各級ニ於テ選舉スヘキ議員數ヲ以テ選舉人名簿ニ登錄セラレタル各級ノ人員數ヲ除シテ得タル數ノ七分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

第三十一條 選舉長又ハ分會長ハ選舉錄ヲ調製シテ選舉又ハ投票ノ顛末ヲ記載シ選舉又ハ投票ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉立會人二人以上ト共ニ之ニ署名スヘシ
各選舉區ノ選舉長ハ選舉錄(第六條ノ市ニ於テハ其

勝本)ヲ添へ當選者ノ住所氏名ヲ市長ニ報告スヘシ
選舉分會長ハ投票函ト同時ニ選舉録ヲ本會ニ送致ス
ヘシ

選舉録ハ投票、選舉人名簿其ノ他ノ關係書類ト共ニ
選舉及當選ノ效力確定スルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ
第三十二條 當選者定マリタルトキハ市長ハ直ニ當選
者ニ當選ノ旨ヲ告知シ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシ
テ之ヲ告知セシムヘシ

當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケ
タル日ヨリ五日以内ニ之ヲ市長ニ申立ツヘシ
一人ニシテ數級又ハ數選舉區ニ於テ當選シタルトキ
ハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ何
レノ當選ニ應スヘキカヲ市長ニ申立ツヘシ其ノ期間
内ニ之ヲ申立テサルトキハ市長抽籤シテ之ヲ定ム
第十八條第二項ニ掲ケタル官吏ニシテ當選シタル者
ハ所屬長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ニ應スルコ
トヲ得ス

前項ノ官吏ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以
内ニ之ニ應スヘキ旨ヲ市長ニ申立テサルトキハ其ノ
當選ヲ辭シタルモノト看做ス第三項ノ場合ニ於テ何
レノ當選ニ應スヘキカヲ申立テサルトキハ總テ之ヲ
辭シタルモノト看做ス

第三十三條 市會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ
市長ハ直ニ之ヲ補フヘキ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合
ニ於テハ第三十條ノ規定ヲ準用ス

ル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第一項ノ決定ニ付テハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコ
トヲ得

第二項若ハ前項ノ判決又ハ第三項ノ決定ニ付テハ府
縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
市會議員ハ選舉又ハ當選ニ關スル決定若ハ判決確定
シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ
權ヲ失ハス

第三十七條 當選無効ト確定シタルトキハ市長ハ直ニ
第三十條ノ例ニ依リ更ニ當選者ヲ定ムヘシ
選舉無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ
議員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ルコト能ハサルトキハ
其ノ不足ノ員數ニ付更ニ選舉ヲ行フヘシ此ノ場合ニ
於テハ第三十條第一項但書ノ規定ヲ適用セス

第三十八條 市會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ
其ノ職ヲ失フ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ヲ除ク
外其ノ被選舉權ノ有無ハ市會之ヲ決定ス
市長ハ市會議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ム
ルトキハ之ヲ市會ノ決定ニ付スヘシ
第一項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキ
ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ判決又ハ第四項ノ判決ニ
不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第一項ノ決定及前項ノ判決ニ付テハ市長ヨリモ訴訟
又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
前二項ノ判決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起ス

第三十四條 選舉ヲ終リタルトキハ市長ハ直ニ選舉録
ノ勝本ヲ添へ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第三十二條第二項ノ期間ヲ經過シタルトキ、同條第
三項若ハ第五項ノ申立アリタルトキ又ハ同條第三項
ノ規定ニ依リ抽籤ヲ爲シタルトキハ市長ハ直ニ當選
者ノ住所氏名ヲ告示シ併セテ之ヲ府縣知事ニ報告ス
ヘシ

第三十五條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選
舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限り其ノ選
舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス

第三十六條 選舉人選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議ア
ルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテ
ハ第三十四條第二項ノ告示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ
市長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市長ハ七
日以内ニ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ受
ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ前項ノ決
定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得
府縣知事ハ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキ
ハ選舉ニ關シテハ第三十四條第一項ノ報告ヲ受ケタ
ル日ヨリ當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタ
ル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付ス
ルコトヲ得

前項ノ決定アリタルトキハ同一事件ニ付爲シタル異
議ノ申立及市會ノ決定ハ無効トス
第二項若ハ第六項ノ判決又ハ第三項ノ決定ニ不服ア

ルコトヲ得
第三十六條第八項ノ規定ハ第一項及第三項ノ場合
之ヲ準用ス

第一項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ
之ヲ本人ニ交付スヘシ
第三十九條 第二十一條及第三十六條ノ場合ニ於テ府
縣參事會ノ決定及判決ハ府縣知事、市會ノ決定ハ市
長直ニ之ヲ告示スヘシ

第四十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設
置スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ
關スル罰則ヲ準用ス
前項ノ罰則中選舉人ニ關スル規定ハ第二十七條ノ代
人ニ之ヲ準用ス

第二款 職務權限

第四十一條 市會ハ市ニ關スル事件及法律勅令ニ依リ
其ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

第四十二條 市會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ
一 市條例及市規則ヲ設ケ又ハ改廢スル事
二 市費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スル事但シ第九
十三條ノ事務及法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限
ニ在ラス

三 歳入出豫算ヲ定ムル事
四 決算報告ヲ認定スル事
五 法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料、加
入金、市税又ハ夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

- 六 不動産ノ管理處分及取得ニ關スル事
- 七 基本財産及積立金數等ノ設置管理處分ニ關スル事
- 八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事
- 九 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 十 市吏員ノ身元保證ニ關スル事
- 十一 市ニ係ル訴訟訴訟及和解ニ關スル事件
- 第四十三條 市會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ヲ市參事會ニ委任スルコトヲ得
- 第四十四條 市會ハ法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル選舉ヲ行フヘシ
- 第四十五條 市會ハ市ノ事務ニ關スル事項及計費審ヲ檢閲シ市長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得
- 市會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ市長又ハ其ノ指名シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ行ハシムルコトヲ得
- 第四十六條 市會ハ市ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ市長又ハ監督官廳ニ提出スルコトヲ得
- 第四十七條 市會ハ行政廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ
- 市會ノ意見ヲ撤シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ市會成立セズ、招集ニ應セス若ハ意見ヲ提出セズ又ハ市

- 會ヲ招集スルコト能ハサルトキハ當該行政廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得
- 第四十八條 市會ハ議員中ヨリ議長及副議長一人ヲ選舉スヘシ
- 議長及副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル
- 第四十九條 議長故障アルトキハ副議長之ニ代ハリ議長及副議長共ニ故障アルトキハ年長者ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス年長者トキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
- 第五十條 市長及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス
- 前項ノ列席者發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス
- 第五十一條 市會ハ市長之ヲ招集ス議員定數三分ノ一以上ノ請求アルトキハ市長ハ之ヲ招集スヘシ
- 市長ハ必要アル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ市會ヲ招集スルコトヲ得
- 招集及會議ノ事件ハ開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 市會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ市長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得三日前迄ニ告知ヲ爲シタル事件ニ付亦同シ
- 市會ハ市長之ヲ開閉ス

- 第五十二條 市會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サルハ會議ヲ開クコトヲ得但シ第五十四條ノ除斥ノ爲半數ニ滿タサルトキ、同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席議員定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第五十三條 市會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
- 第五十四條 議長及議員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得但シ市會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得
- 第五十五條 法律勅令ニ依リ市會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外一人毎ニ無記名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二人ヲ取り之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二人ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取り年長者トキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス同數ナルトキハ年長者ヲ取り年長者トキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム
- 前項ノ場合ニ於テハ第二十五條及第二十八條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ市會之ヲ決定ス

- 第一項ノ選舉ニ付テハ市會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選又ハ連名投票ノ法ヲ用ウルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依ル
- 第五十六條 市會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
 - 一 市長ヨリ傍聴禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ
 - 二 市長又ハ議員三人以上ノ發議ニ依リ傍聴禁止ヲ可決シタルトキ
- 前項本長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須キス其ノ可否ヲ決スヘシ
- 第五十七條 市長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス
- 第五十八條 議員ハ選舉人ノ指示又ハ囑託ヲ受クヘカラス
- 議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ又ハ他人ノ身上ニ涉リ發言スルコトヲ得ス
- 第五十九條 會議中本法又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ス議員アルトキハ市長ハ之ヲ制止シ又ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場外ニ退去セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得
- 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ市長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得
- 第六十條 傍聴人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ市長ハ之ヲ制止シ命ニ從

ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聴席騷擾ナルトキハ市長ハ總テノ傍聴人ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第六十一條 市會ニ書記ヲ置キ市長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム

書記ハ市長之ヲ任免ス

第六十二條 市長ハ書記ヲシテ會議録ヲ關製シ會議ノ顛末及出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ

會議録ハ議長及議員二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ議員ハ市會ニ於テ定ムヘシ

議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ市長ニ報告スヘシ

第六十三條 市會ハ會議規則及傍聴人取締規則ヲ設クヘシ

會議規則ニハ本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ市會ノ議決ニ依リ三日以内出席ヲ停止シ又ハ二回以下ノ過怠金ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三章 市參事會

第一款 組織及選舉

第六十四條 市ニ市參事會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

- 一 市長
- 二 助役
- 三 名譽職參事會員

員定數ノ半數以上ノ請求アルトキハ市長ハ之ヲ招集スヘシ

第六十九條 市參事會ノ會議ハ傍聴ヲ許サス

第七十條 市參事會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽職參事會員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第二項ノ除外ノ爲名譽職參事會員

其ノ半數ニ滿タサルトキ、同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍名譽職參事會員其半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席名譽職參事會員定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラズ議長及參事會員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姊妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ市參事會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

議長及其ノ代理者共ニ前項ノ場合ニ當ルトキハ年長ノ名譽職參事會員議長ノ職務ヲ代理ス

第七十一條 第四十六條第四十七條第五十條第五十一條第二項及第五項第五十三條第五十五條第五十七條乃至第五十九條第六十一條第六十二條第一項及第二項ノ規定ハ市參事會ニ之ヲ準用ス

第四章 市吏員

第一款 組織選舉及任免

第七十二條 市ニ市長及助役一人ヲ置ク但シ第六條ノ市ノ助役ノ定數ハ內務大臣之ヲ定ム

助役ノ定數ハ市條例ヲ以テ之ヲ増加スルコトヲ得

前項ノ外市參與ヲ置ク市ニ於テハ市參與ハ參事會員トシテ其ノ擔任事業ニ關スル場合ニ限り會議ニ列席シ議事ニ參與ス

第六十五條 名譽職參事會員ノ定數ハ六人トス但シ第六條ノ市ニ在リテハ市條例ヲ以テ十二人迄之ヲ増加スルコトヲ得

名譽職參事會員ハ市會ニ於テ其ノ議員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ其ノ選舉ニ關シテハ第二十五條第二十八條及第三十條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ市會之ヲ決定ス

名譽職參事會員中關員アルトキハ直ニ補關選舉ヲ行フヘシ

名譽職參事會員ノ任期ハ市會議員ノ任期ニ依ル但シ市會議員ノ任期滿了ノ場合ニ於テハ後任名譽職參事會員選舉ノ日迄在任ス

第六十六條 市參事會ハ市長ヲ以テ議長トス市長故障アルトキハ市長代理者之ヲ代理ス

第六十七條 市參事會ノ職務權限左ノ如シ

一 市會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

二 市長ヨリ市會ニ提出スル議案ニ付市長ニ對シ意見ヲ述フル事

三 其ノ他法令ニ依リ市參事會ノ權限ニ屬スル事件

第六十八條 市參事會ハ市長之ヲ招集ス名譽職參事會

特別ノ必要アル市ニ於テハ市條例ヲ以テ市參與ヲ置ク事ヲ得其ノ定數ハ其ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第七十三條 市長ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス內務大臣ハ市會ヲシテ市長候補者三人ヲ選舉推薦セシメ上奏裁可ヲ請フヘシ

市長ハ內務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス

第七十四條 市參與ハ名譽職トス但シ定數ノ全部又ハ一部ヲ有給吏員トナスコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第七十二條第三項ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

市參與ハ市會ニ於テ之ヲ選舉シ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

名譽職市參與ハ市民中選舉權ヲ有スル者ニ限ル

第七十五條 助役ハ有給吏員トシテ其ノ任期四年トス

助役ハ市長ノ推薦ニ依リ市會之ヲ定メ市長職ニ在ラサルトキハ市會ニ於テ之ヲ選舉シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣知事ノ不認可ニ對シ市長又ハ市會ニ於テ不服アルトキハ內務大臣ニ具狀シテ認可ヲ請フコトヲ得

助役ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス

第七十六條 市長有給市參與及助役ハ第九條第一項ノ規定ニ拘ラス在職ノ間其ノ市ノ公民トス

第七十七條 市長市參與及助役ハ第十八條第二項ニ揭

ケタル職ト兼ルルコトヲ得ヌ又其ノ市ニ對シ請負ヲ爲スコトヲ得ヌ

市長ト父子兄弟タル縁故アル者ハ市參與又ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ヌ

市參與ト父子兄弟タル縁故アル者ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ヌ

父子兄弟タル縁故アルモノハ同時ニ市參與又ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ヌ第十八條第五項ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十八條 市長有給市參與及助役ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得ヌ

市長有給市參與及助役ハ會社ノ重役又ハ支配人其ノ他ノ事務員タルコトヲ得ヌ

第七十九條 市ニ收入役一人ヲ置ク但シ市條例ヲ以テ副收入役ヲ置クコトヲ得

第七十五條第一項乃至第三項第七十七條第一項及第四項並前條ノ規定ハ收入役及副收入役ニ第七十六條ノ規定ハ收入役ニ之ヲ準用ス

市長市參與又ハ助役ト父子兄弟タル縁故アル者ハ收入役又ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ヌ收入役ト父子兄弟タル縁故アルアルモノハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ヌ

第八十條 第六條ノ市ノ區ニ區長一人ヲ置キ市有給吏員トシテ市長之ヲ任免ス

第七十七條第一項及第七十八條ノ規定ハ區長ニ之ヲ準用ス

第八十一條 第六條ノ市ノ區ニ區收入役一人又ハ區收入役及副收入役各一人ヲ置ク

區收入役及副收入役ハ第八十六條ノ吏員中市長、助役、市收入役、市副收入役又ハ區長トノ間及其ノ相互ノ間ニ父子兄弟タル縁故アラサル者ニ就キ市長之ヲ任命ス

區收入役又ハ區副收入役ト爲リタル後市長、助役、市收入役、市副收入役又ハ區長トノ間ニ父子兄弟タル縁故生シタルトキハ區收入役又ハ區副收入役ハ其ノ職ヲ失フ

前項ノ規定ハ區收入役及區副收入役相互ノ間ニ於テ區副收入役ニ之ヲ準用ス

第八十二條 第六條ノ市ヲ除テ其ノ他ノ市ノ處務便宜ノ爲メ區長及副區長及其代理者一人ヲ置クコトヲ得

前項ノ區長及其ノ代理者ハ名譽職トス市會ニ於テ市公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス

內務大臣ハ前項ノ規定ニ拘ラス區長ヲ有給吏員ト爲スヘキ市ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ區ニ付テハ第八十條第八十一條第九十四條第二項第九十七條第四項第九十八條及第九十九條ノ規定ヲ準用スルノ外必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十三條 市ハ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス市會ニ於テ市會議員、名譽職參事會員又ハ市公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス

但シ委員長ハ市長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル市參與若ハ助役ヲ以テ之ニ充ツ

常設委員ノ組織ニ關シテハ市條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第八十四條 市公民ニ限リテ擔任スヘキ職務ニ在ル吏員ニシテ市公民權ヲ喪失シ若ハ停止セラレタルトキ

又ハ第十一條第三項ノ場合ニ當ルトキハ其職ヲ失フ職ニ就キタルカ爲市公民タル者ニシテ禁治産若ハ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルキ又ハ第十一條第二項若ハ第三項ノ場合ニ當ルトキ亦同シ

前項ノ職務ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ罪ノ爲豫審又ハ公判ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其ノ職務ノ執行ヲ停止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停止期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ヌ

第八十五條 前數條ニ定ムル者ノ外市ニ必要ノ有給吏員ヲ置キ市長之ヲ任免ス

前項吏員ノ定數ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第八十六條 前數條ニ定ムル者ノ外第六條及第八十二條第三項ノ市ノ區ニ必要ノ市有給吏員ヲ置キ區長ノ申請ニ依リ市長之ヲ任免ス

前項吏員ノ定數ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第二款 職務權限

第八十七條 長市ハ市ヲ統轄シ市ヲ代表ス

市長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 市會及市參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事

二 財產及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者ヲ置キタルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

三 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

四 證書及公文書類ヲ保管スル事

五 法令又ハ市會ノ議決ニ依リ使用料、手数料、加入金、市稅又ハ夫役現品ヲ賦課徵收スル事

六 其ノ他法令ニ依リ市長ノ職權ニ屬スル事項

第八十八條 市長ハ議案ヲ市會ニ提出スル前之ヲ市參事會ノ審査ニ付シ其ノ意見ヲ議案ニ添ヘ市會ニ提出スヘシ

第八十九條 市長ハ市吏員ヲ指揮監督シ之ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及十回以下ノ過怠金トス

第九十條 市會又ハ市參事會ノ議決又ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ市長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選舉ヲ行ハシムヘシ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘシ前項ノ場合ニ於テ市會又ハ市參事會其ノ議決ヲ改メサルトキハ市長ハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ再議ニ付セシメ直ニ裁決ヲ請フコトヲ得

監督官廳ハ第一項ノ議決又ハ選舉ヲ取消スコトヲ得
但シ裁決ノ申請アリタルトキハ此限ニ在ラス
第二項ノ裁決又ハ前項ノ處分ニ不服アル市長市會又
ハ市參事會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市會又ハ市參事會ノ議決公益ヲ害シ又ハ市ノ收支ニ
關シ不適當ナリト認ムルトキハ市長ハ其ノ意見ニ依
リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議
ニ付シヘシ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ停
止スヘシ

前項ノ場合ニ於テ市會又ハ市參事會其ノ議決ヲ改メ
サルトキハ市長ハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ
前項ノ裁決ニ不服アル市長市會又ハ市參事會ハ內務
大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴願ヲ提起ス
ルコトヲ得
第二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴願ヲ提起ス
ルコトヲ得

第九十一條 市會成立セサルトキ、第五十二條但書ノ
場合ニ於テ尙會議ヲ開クコト能ハサルトキ又ハ市長
ニ於テ市會ヲ招集スルモノ暇ナシト認ムルトキハ
市長ハ市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ市參事會ノ議決ニ
付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ市參事會ニ於テ議決ヲ爲ストキハ
市長市參事會及助役ハ其議決ニ加ハルコトヲ得ス
市參事會成立セサルトキ又ハ第七十條第一項但書ノ

第六條ノ市ノ市長ハ前項ノ例ニ依リ其ノ事務ノ一部
ヲ區長ニ分掌セシムルコトヲ得
市長ハ市吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシ
ムルコトヲ得

第九十五條 市參事ハ市長ノ指揮監督ヲ承ケ市ノ經營
ニ屬スル特別ノ事業ヲ擔任ス
第九十六條 助役ハ市長ノ事務ヲ補助ス
助役ハ市長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數人アルト
キハ豫メ市長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

第九十七條 收入役ハ市ノ出納其ノ他ノ會計事務及第
九十三條ノ事務ニ關スル國府縣其ノ他公共團體ノ出
納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定ア
ルモノハ此ノ限ニ在ラス

副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助シ收入役故障アルト
キ之ヲ代理ス副收入役數人アルトキハ豫メ市長ノ定
メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス
市長ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ收入役ノ事務ノ一部ヲ
副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ市ノ出納其他
ノ會計事務ニ付テハ豫メ市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第六條ノ市ノ市長ハ前項ノ例ニ依リ收入役ノ事務ノ
一部ヲ區收入役ニ分掌セシムルコトヲ得
副收入役ヲ置カサル場合ニ於テハ市ハ收入役故障ア
ルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ
受クヘシ

第九十八條 第六條ノ市ノ區長ハ市長ノ命ヲ承ケ又ハ

場合ニ於テ尙會議ヲ開クコト能ハサルトキハ市長ハ
其ノ議決スヘキ事件ニ付府縣參事會ノ議決ヲ請フコ
トヲ得

市會又ハ市參事會ニ於テ其議決スヘキ事件ヲ議決セ
サル時ハ前項ノ例ニ依ル
市會又ハ市參事會ノ決定スヘキ事件ニ關シテハ前四
項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル市參事會又ハ府縣參
事會ノ決定ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ
訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一項及第三項ノ規定ニ依ル處置ニ付テハ次回ノ會
議ニ於テ之ヲ市會又ハ市參事會ニ報告スヘシ
第九十二條 市參事會ニ於テ議決又ハ決定スヘキ事件
ニ關シ臨時急務ヲ要スル場合ニ於テ市參事會成立セ
サルトキ又ハ市長ニ於テ之ヲ招集スルモノ暇ナシト認
ムルトキハ市長ハ之ヲ專決シ次回ノ會議ニ於テ之ヲ
市參事會ニ報告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ市長ノ爲シタル處分ニ關シテハ各
本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第九十三條 市長其ノ他市吏員ハ法令ノ定ムル所ニ依
リ國府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル

前項ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ市ノ負擔トス
但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス
第九十四條 市長ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ其ノ事務ノ
一部ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ市ノ事務ニ
付テハ豫メ市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

法令ノ定ムル所ニ依リ區内ニ關スル市ノ事務及區ノ
事務ヲ掌ル

區長其ノ他區所屬ノ吏員ハ市長ノ命ヲ承ケ又法令ノ
定ムル所ニ依リ國府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル
區長故障アルトキハ區收入役及區副收入役ニ非サル
區所屬ノ吏員中上席者ヨリ順次之ヲ代理ス
第一項及第二項ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ市
ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限
ニ在ラス

第九十九條 第六條ノ市ノ區收入役ハ市收入役ノ命ヲ
承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ市及區ノ出納其ノ他
ノ會計事務並國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ
會計事務ヲ掌ル

區長ハ市長ノ許可ヲ得テ區收入役ノ事務ノ一部ヲ區
副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ區ノ出納其他ノ
會計事務ニ付テハ豫メ區會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

市長ハ市ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付前項ノ許可ヲ
爲ス場合ニ於テハ豫メ市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
區副收入役ヲ置カサル場合ニ於テハ市長ハ區收入役
故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定ムヘシ

區收入役及區副收入役ノ職務權限ニ關シテハ前四項
ニ規定スルモノノ外市收入役及市副收入役ニ關スル
規定ヲ準用ス

第一百條 名譽職區長ハ市長ノ命ヲ承ケ市長ノ事務ニシ
テ區内ニ關スルモノヲ補助ス

名譽職區長代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アルトキ之ヲ代理ス

第一百一條 委員ハ市長ノ指揮監督ヲ承ケ財產又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他委託ヲ受ケタル市ノ事務ヲ調査シ又ハ之ヲ處辨ス

第一百二條 第八十五條ノ吏員ハ市長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第一百三條 第八十六條ノ吏員ハ區長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

區長ハ前項ノ吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第五章 給料及給與

第一百四條 名譽職市參與、市會議員、名譽職參事會員其ノ他ノ名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

名譽職市參與、名譽職區長、名譽職區長代理者及委員ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

費用辨償額、報酬額及其ノ支給方法ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第一百五條 市長、有給市參與、助役其ノ他ノ有給吏員ノ給料額、旅費額及其ノ支給方法ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第一百六條 有給吏員ニハ市條例ノ定ムル所ニ依リ退隱料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ヲ給スルコトヲ得

前項ノ財產又ハ營造物ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ市ハ之ヲ許可スルコトヲ得

第一百一條 市ハ前條ニ規定スル財產ノ使用方法ニ關シ市規則ヲ設クルコトヲ得

第一百二條 市ハ第一百十條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料及加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

第一百三條 市ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得

市ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第一百四條 財產ノ賣却貸與、工事ノ請負及物件勞力其他ノ供給ハ競争入札ニ付スヘシ但臨時急施ヲ要スルトキ、入札ノ價額其費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ市會ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一百五條 市ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第一百六條 市ハ其ノ必要ナル費用及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ市ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

市ハ其ノ財產ヨリ生スル收入、使用料、手数料、過料、過怠金其ノ他法令ニ依リ市ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ市稅及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

ルコトヲ得

第一百七條 費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ノ給與ニ付關係者ニ於テ異議アルトキハ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ市參事會ノ決定ニ付スヘシ關係者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第三項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一百八條 費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助料其ノ他ノ給與ハ市ノ負擔トス

第六章 市ノ財務

第一款 財產營造物及市稅

第一百九條 收益ノ爲ニスル市ノ財產ハ基本財産トシ之ヲ維持スヘシ

市ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財産ヲ設ケ又ハ金銀等ヲ積立ツルコトヲ得

第一百十條 舊來ノ慣行ニ依リ市住民中特ニ財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ舊慣ニ依リ舊慣ヲ變更又ハ廢止セムトスルトキハ市會ノ議決ヲ經ヘシ

第一百十七條 市稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一 國稅府縣稅ノ附加稅

二 特別稅
直接國稅又ハ直接府縣稅ノ附加稅ハ均一ノ稅率ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ但シ第六十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

國稅ノ附加稅タル府縣稅ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得

特別稅ハ別ニ稅目ヲ起シテ課稅スルノ必要アルトキ賦課徵收スルモノトス

第一百十八條 三月以上市內ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ遡リ市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第一百十九條 市內ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滞在スルコトナシト雖市內ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ、市內ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ市內ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行爲ニ對シテ賦課スル市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第一百二十條 納稅者ノ市外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ市外ニ於テ營業所ヲ設ケタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得

市ノ内外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メサルモ

ノニ對シテ附加税ヲ賦課スル場合及住所滞在市ノ内
外ニ渉ル者ノ收入ニシテ土地家屋物件又ハ營業所ヲ
設ケタル營業ヨリ生スル收入ニ非ラサルモノニ對シ
市税ヲ賦課スル場合ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第百二十一條 所得税法第五條ニ掲クル所得ニ對シテ
ハ市税ヲ賦課スルコトヲ得ス

神社寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境内地並
教會所設教所ノ用ニ供スル建物及其ノ構内地ニ對シ
テハ市税ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使
用セシムル者及住宅ヲ以テ教會所設教所ノ用ニ充ツ
ル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル家
屋物件及營造物ニ對シテハ市税ヲ賦課スルコトヲ得
ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及使用收益者ニ
對シテハ此ノ限ニ在ラス

國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ
國ニ市税ヲ賦課スルコトヲ得ス
前四項ノ外市税ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ
法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

第百二十二條 數人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他
ノ必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ
得
市ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナ
ル費用ハ其ノ部内ニ於テ市税ヲ納ムル義務アル者ニ
負擔セシムルコトヲ得

ヲ使用シ若ハ收用スルコトヲ得但シ其ノ損失ヲ補償
スヘシ
前項ノ場合ニ於テ危險防止ノ爲必要アルトキハ市長
警察官吏又ハ監督官廳ハ市内ノ居住者ヲシテ防禦ニ
從事セシムルコトヲ得

第一項但書ノ規定ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依
リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ
府縣知事之ヲ決定ス決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不
服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之
ヲ本人ニ交付スヘシ
第一項ノ規定ニ依リ土地ノ一時使用ノ處分ヲ受ケタ
ル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣知事ニ訴願シ其
ノ裁決ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ
得

第百二十七條 市税ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テ
ハ當該吏員ハ日出ヨリ日没迄ノ間營業者ニ關シテハ
仍其ノ營業時間内家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿
物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ場テハ當該吏員ハ其ノ身分ヲ證明スヘ
キ證票ヲ携帶スヘシ
第百二十八條 市長ハ納稅者中特別ノ事情アル者ニ對
シ納稅延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ超ユル場合ハ
市參事會ノ議決ヲ經ヘシ

市ハ特別ノ事情アル者ニ限り市税ヲ減免スルコトヲ
得

前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入アルトキ
ハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ前項ノ場
合ニ於テ其ノ一部ノ收入アルトキ亦同シ
數人又ハ市ノ一部ヲ利スル財產ニ付テハ前三項ノ例
ニ依ル

第百二十三條 市税及其ノ賦課徵收ニ關シテハ本法其
ノ他ノ法律ニ規定アルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム
ルコトヲ得
第百二十四條 數人又ハ市ノ一部ニ對シテ利益アル
事件ニ關シテハ市ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若
ハ市ノ一部ニ對シテ賦課ヲ爲スコトヲ得

第百二十五條 夫役又ハ現品ハ直接市税ヲ準率ト爲シ
直接市税ヲ賦課セサル市ニ於テハ直接國稅ヲ準率ト
爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ但シ第百六十
七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在
ラス

學藝美術及手工ニ關スル勞務ニ付テハ夫役ヲ賦課ス
ルコトヲ得ス
夫役ヲ賦課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ適
當ノ代人ヲ出スコトヲ得

夫役又ハ現品ハ金額ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
第一項及前項ノ規定ハ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ
付テハ之ヲ適用セズ
第百二十六條 非常災害ノ爲必要アルトキハ市ハ他人
ノ土地ヲ一時使用シ又ハ其ノ土石竹木其ノ他ノ物品
ヲ得

第百二十九條 使用料、手数料及特別税ニ關スル事項
ニ付テハ市條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ其ノ條例中ニ
ハ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得
財產又ハ營造物ノ使用ニ關シテハ市條例ヲ以テ五圓
以下ノ過料ヲ課スル規定ヲ設クルコトヲ得

過料ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ
府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政
裁判所ニ出訴スルコトヲ得
前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ
提起スルコトヲ得

第百三十條 市税ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違
法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付ヲ受
ケタル日ヨリ三月以内ニ市長ニ異議ノ申立ヲ爲スコ
トヲ得

財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ
之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得
前二項ノ異議ハ之ヲ市參事會ノ決定ニ付スヘシ決定
ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會
ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ裁決ニ不服アルトキ
ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ使用料手数料及加入金ノ徵收
並夫役現品ノ賦課ニ關シ之ヲ準用ス
前二項ノ規定ニ依ル決定及裁決ニ付テハ市長ヨリモ
訴訟又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

得

前三項ノ規定ニ依ル裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三百一十一條 市税、使用料、手数料、加入金、過料、過怠金其ノ他ノ市ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ市長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ
夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ爲サス又ハ夫役現品ニ代フルニ金錢ヲ納メサルトキハ市長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役ニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ市條例ノ定ムル所ニ依リ手数料ヲ徴收スルコトヲ得
前項ノ期限内ニ之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ
第一項乃至第三項ノ徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

前三項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

事ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第三百二十八條 市ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第三百二十九條 市會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ市長ヨリ其ノ謄本ヲ收入役ニ交付スヘシ

收入役ハ市長又ハ監督官應ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナク且豫備費支出、費目流用其ノ他財務ニ關スル規定ニ依リ支出ヲ爲スコトヲ得サルトキ亦同シ

第四百十條 市ノ支拂金ニ關スル時効ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第四百十一條 市ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ之ヲ検査シ且毎會計年度少クトモ二回臨時検査ヲ爲スヘシ
検査ハ市長之ヲ爲シ臨時検査ニハ名譽職參事會員ニ於テ互選シタル參事會員二人以上ノ立會ヲ要ス

第四百十二條 市ノ出納ハ翌年度六月三十日ヲ以テ閉鎖ス

決算ハ出納閉鎖後一月以内ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ市長ニ提出スヘシ市長ハ之ヲ審査シ意見ヲ付シテ次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄ニ之ヲ市會ノ認定ニ付スヘシ

決算ハ其ノ認定ニ關スル市會ノ議決ト共ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

決算ヲ市參事會ノ會議ニ付スル場合ニ於テハ市長市參與及助役ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

第四百十三條 豫算調製ノ式、費目流用其ノ他財務ニ

第三百二十二條 市ハ其ノ負債ヲ償還スル爲、市ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ爲ス爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限り市債ヲ起スコトヲ得

市債ヲ起スニ付市會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ
市長ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲市參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得
前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第二款 歳入出豫算及決算

第三百二十三條 市長ハ毎會計年度歳入出豫算ヲ調製シ週クトモ年度開始ノ一月前ニ市會ノ議決ヲ經ヘシ
市ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル
豫算ヲ市會ニ提出スルトキハ市長ハ併セテ事務報告書及財産表ヲ提出スヘシ

第三百二十四條 市長ハ市會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第三百二十五條 市費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ市會ノ議決ヲ經テ其ノ年期间各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第三百二十六條 市ハ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

豫備費ハ市會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス
第三百二十七條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ府縣知

關シ必要ナル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第七章 市ノ一部ノ事務

第四百十四條 市ノ一部ニシテ財産ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルモノアルトキハ其ノ財産又ハ營造物ノ管理及處分ニ付テハ本法中市ノ財産又ハ營造物ニ關スル規定ニ依ル但シ法律勅令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニアラス

前項ノ財産又ハ營造物ニ關シ特ニ要スル費用ハ其ノ財産又ハ營造物ノ屬スル市ノ一部ノ負擔トス
前二項ノ場合ニ於テハ市ノ一部ハ其ノ會計ヲ分別スヘシ

第四百十五條 前條ノ財産又ハ營造物ニ關シ必要アリト認ムルトキハ府縣知事ハ市會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ市條例ヲ規定シ區會ヲ設ケテ市會ノ議決スヘキ事項ヲ議決セシムルコトヲ得

第四百十六條 區會議員ハ市ノ名譽職トス其ノ定數、任期、選舉權及被選舉權ニ關スル事項ハ前條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

區會議員ノ選舉ニ付テハ市會議員ニ關スル規定ヲ準用ス但シ選舉人名簿又ハ選舉若ハ當選ノ效力ニ關スル異議ノ決定及被選舉權ノ有無ノ決定ハ市會ニ於テ之ヲ爲スヘシ

區會議員ノ選舉ニ付テハ前條ノ市條例ヲ以テ選舉人ノ等級ヲ設ケサルコトヲ得

區會ニ關シテハ市會ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百十七條 第四百十四條ノ場合ニ於テ市ノ一部府縣知事ノ處分ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第四百十八條 第四百十四條ノ市ノ一部ノ事務ニ關シテハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八章 市町村組合

第四百十九條 市町村ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ市町村組合ヲ設クルコトヲ得

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ前項ノ市町村組合ヲ設クルコトヲ得

市町村組合ハ法人トス

第五百十條 市町村組合ニシテ其ノ組合市町村ノ數ヲ増減シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲サルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ組合規約ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

係市町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ組合市町村ノ數ヲ増減シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第五百十一條 市町村組合ヲ設クルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ組合規約ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ組合規約ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ組合市町村ノ數ヲ増減シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第五百十二條 組合規約ヲ定メ又ハ變更スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ付テハ組合ノ管理者ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五百十六條 市町村組合ニ關シテハ法律勅令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外市ニ關スル規定ヲ準用ス

第九節 市ノ監督

第五百十七條 市ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ

第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第五百十八條 本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外市ノ監督ニ關スル府縣知事ノ處分ニ不服アル市ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百十九條 本法中行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第六十條 異議ノ申立又ハ訴訟ノ提起ハ處分決定又ハ裁決アリタル日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ爲スヘシ

但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

行政訴訟ノ提起ハ處分決定裁決又ハ裁決アリタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴訟法ノ規定ニ依ル

第二類

ノ許可ヲ得テ組合規約ヲ定メ又ハ變更スルコトヲ得

第五百十二條 組合規約ニハ組合ノ名稱、組合ヲ組織スル市町村、組合ノ共同事務、組合役場ノ位置、組合會ノ組織及組合會議員ノ選舉、組合吏員ノ組織及選任並組合費用ノ支辨方法ニ付規定ヲ設クヘシ

第五百十三條 市町村組合ヲ解カムトスルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ市町村組合ヲ解クコトヲ得

第五百十四條 第五百十條第一項及前條第一項ノ場合ニ於テ財產ノ處分ニ關スル事項ハ關係市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第五百十五條 第四百十九條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百十六條 第五百十條第二項及前條第二項ノ場合ニ於テ財產ノ處分ニ關スル事項ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第五百十七條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百十八條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百十九條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百二十條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百二十一條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百二十二條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百二十三條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百二十四條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百二十五條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百二十六條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百二十七條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百二十八條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百二十九條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百三十條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百三十一條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百三十二條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百三十三條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百三十四條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百三十五條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百三十六條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百三十七條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百三十八條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百三十九條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百四十條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百四十一條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百四十二條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百四十三條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百四十四條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百四十五條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百四十六條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百四十七條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百四十八條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百四十九條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百五十條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百五十一條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百五十二條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百五十三條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百五十四條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百五十五條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百五十六條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百五十七條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百五十八條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百五十九條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百六十條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五百六十一條 第五百十條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前二項ノ處分ニ不服アル市又ハ市長其ノ他ノ吏員ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六十四條 市長、助役、收入役又ハ副收入役ニ故障アルトキハ監督官廳ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得但シ官吏ヲ派遣シタル場合ニ於テハ其ノ族費ハ市費ヲ以テ辨償セシムヘシ

臨時代理者ハ有給ノ市吏員トシ其ノ給料額旅費額等ハ監督官廳之ヲ定ム

第六十五條 左ニ掲クル事件ハ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ
一 市條例ヲ設ケ又ハ改廢スル事
二 學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ又ハ之ニ大ナル變更ヲ加フル事

第六十六條 左ニ掲クル事件ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ
一 市債ヲ起シ並起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル事但シ第三百三十二條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二 特別稅ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
三 間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事
四 使用料手数料及加入金ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

第六十七條 左ニ掲クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
副收入役、區長、區長代理者、委員其ノ他ノ市吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トス但シ市長、市參與、助役、收入役、副收入役及第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ノ區長ニ對スル解職ハ懲戒審査會ノ議決ヲ經市長ニ付テハ勅裁ヲ經ルコトヲ要ス

懲戒審査會ハ内務大臣ノ命シタル府縣高等官三人及府縣名譽職參事會員ニ於テ互選シタル者三人ヲ以テ其ノ會員トシ府縣知事ヲ以テ會長トス知事故障アルトキハ其ノ代理者會長ノ職務ヲ行フ

府縣名譽職參事會員ノ互選スヘキ會員ノ選舉補缺及任期並懲戒審査會ノ招集及會ニ付テハ府縣制中名譽職參事會員及府縣參事會ニ關スル規定ヲ準用ス但シ補充員ハ之ヲ設クルノ限ニ在ラス

解職ノ處分ヲ設ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ市長ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

府縣知事ハ市長、市參與、助役、收入役、副收入役及第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ノ區長ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停職期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間市町村ノ公職ニ選舉セラレ又ハ任命セラレルコトヲ得ス

第七十一條 市吏員ノ服務紀律、賠償責任、身元保

一 基本財産ノ管理及處分ニ關スル事
二 特別基本財産及積立金穀等ノ管理及處分ニ關スル事

三 第一百條ノ規定ニ依リ舊慣ヲ變更又ハ廢止スル事
四 寄附又ハ補助ヲ爲ス事
五 不動産ノ管理及處分ニ關スル事

六 均一ノ稅率ニ依ラスシテ國稅又ハ府縣稅ノ附加稅ヲ賦課スル事
七 第二百二十二條第一項第二項及第四項ノ規定ニ依リ數人又ハ市ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事

八 第二百二十四條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ市ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲ス事
九 第二百二十五條ノ準率ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

十 繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事
第六十八條 監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第六十九條 監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ノ職權ヲ下級監督官廳ニ委任シ又ハ輕易ナル事件ニ限り許可ヲ受ケシメサルコトヲ得

第七十條 府縣知事ハ市長、市參與、助役、收入役、證及事務引繼ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ命令ニハ事務引繼ヲ拒ミタル者ニ對シ二十五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第十章 雜則
第七十二條 府縣知事又ハ府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ内務大臣ハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ其ノ事件ヲ管理スヘキ

府縣知事又ハ府縣參事會ヲ指定スヘシ
第七十三條 本法ニ規定スルモノノ外第六條ノ市ノ有給吏員ノ組織任用分限及其ノ區ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十四條 第十三條ノ人口ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル
第七十五條 本法ニ於ケル直接稅及間接稅ノ種類ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第七十六條 市又ハ市町村組合ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ市ノ事務ニ付必要ナル事項ハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十七條 本法ハ市町村制第五十七條ノ地域ニ之ヲ施行セス
附則
第七十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十九條 本法施行ノ際現ニ市會議員又ハ區會議員ノ職ニ在ル者ハ從前ノ規定ニ依ル最近ノ定期改選期ニ於テ總テ其ノ職ヲ失フ

本法施行ノ際現ニ市長助役又ハ收入役ノ職ニ在ル者ハ從前ノ規定ニ依ル任期滿了ノ日ニ於テ其ノ職ヲ失フ

第八十條 舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ本法ノ適用ニ付テハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス但シ復權ヲ得タルモノハ此限ニ在ラス

舊刑法ノ禁錮以上ノ刑ハ本法ノ適用ニ付テハ禁錮以上ノ刑ト看做ス

第八十一條 本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

○町村制 (明治四十四年四月法律第六十九條)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル町村制改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一款 町村及其ノ區域

第一條 町村ハ從來ノ區域ニ依ル

第二條 町村ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務竝從來法令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ町村ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 町村ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ爲サントスルトキハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム

第七條 帝國臣民ニシテ獨立ノ生計ヲ營ム年齡二十五年以上ノ男子二年以來町村ノ住民ト爲リ其ノ町村ノ負擔ヲ分任シ且其ノ町村内ニ於テ地租ヲ納メ若ハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムルトキハ其ノ町村公民トス但シ貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者、禁治產者、準禁治產者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

町村ハ前項二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

町村公民ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

町村稅ヲ賦課セサル町村ニ於テハ町村公民ノ要件中町村ノ負擔分任ニ關スル規定ヲ適用セス

町村公民ノ數町村會議員定數ノ三倍ヨリ少キ場合ニ於テハ町村ハ町村公民ノ要件ニ關シ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第八條 町村公民ハ町村ノ選舉ニ參與シ町村ノ名譽職ニ選舉セララルル權利ヲ有シ町村ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ

左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選ヲ辭シ又ハ其職ヲ辭シ若ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ町村ハ一年以上四年以下其ノ町村公民權ヲ停止シ場合ニ依リ其ノ停止期間以内其ノ者ノ負擔ス

所屬未定地ヲ町村ノ區域ニ編入セムトスルトキキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ財產アルトキハ其ノ處分ニ關シテハ前項ノ例ニ依ル

第一項ノ場合ニ於テ市ノ廢置分合ヲ伴フトキハ市制第三條ノ規定ニ依ル

第四條 町村ノ境界ニ關スル爭論ハ府縣參事會之ヲ裁定ス其ノ裁定ニ不服アル町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

町村ノ境界判明ナラサル場合ニ於テ前項ノ爭論トキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ決定ニ不服アル町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ裁定及前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ關係町村ニ交付スヘシ

第一項ノ裁定及條二項ノ決定ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五條 町村ノ名稱ヲ變更シ又ハ村ヲ町トナシ若ハ町ヲ村ト爲サントスルトキハ町村ハ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

町村役場ノ位置ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ町村ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第二款 町村住民及其ノ權利義務

第六條 町村内ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ町村住民トス町村住民ハ本法ニ從ヒ町村ノ財產及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ町村ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

ヘキ町村稅ノ十分ノ一以上四分ノ一以下ヲ増課スルコトヲ得

一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者

二 業務ノ爲常ニ町村内ニ居ルコトヲ得サル者

三 年齡六十一年以上ノ者

四 官公職ノ爲町村ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

五 四年以上名譽職町村吏員、町村會議員又ハ區會議員ノ職ニ任シ爾後同一ノ期間ヲ經過セサル者

六 其ノ他町村會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第三項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九條 町村公民第七條第一項ニ掲ケタル要件ノ一ヲ缺キ又ハ同項但書ニ當ルニ至リタルトキハ其ノ公民權ヲ失フ

町村公民租稅滯納處分中ハ其ノ公民權ヲ停止ス家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄又ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ町村ノ公務ニ參與スルコ

トヲ得ス其他ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ亦同シ

第三款 町村條例及町村規則

第十條 町村ハ町村住民ノ權利義務又ハ町村ノ事務ニ關シ町村條例ヲ設クルコトヲ得
町村ハ町村ノ營造物ニ關シ町村條例ヲ以テ規定スルモノノ外町村規則ヲ設クルコトヲ得
町村條例及町村規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第二章 町村會

第一款 組織及選舉

第十一條 町村會議員ハ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人ノヲ選舉ス

議員ノ定數左ノ如シ

- 一 人口千五百未滿ノ町村 八 人
- 二 人口千五百以上五千未滿ノ町村 十二 人
- 三 人口五千以上一萬未滿ノ町村 十八 人
- 四 人口一萬以上二萬未滿ノ町村 二十四 人
- 五 人口二萬以上ノ町村 三十 人

議員ノ定數ハ町村條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得

議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セス但シ著シク人口ノ増減アリタル場合ニ於テ內務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 町村公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ第九條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此限ニ在ラス

止中ノ者又ハ第九條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此限ニ在ラス

帝國臣民ニシテ直接町村稅ヲ納ムル者其ノ額町村公民ノ最多ク納稅スル者三人中ノ一人ヨリモ多キトキハ第七條第一項ノ要件ニ當ラズト雖選舉權ヲ有ス但シ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ者及第九條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

法人ニ關シテモ亦前項ノ例ニ依ル

直接町村稅ヲ賦課セサル町村ニ於テハ其ノ町村內ニ於テ納ムル直接國稅額ニ依リ前二項ノ規定ヲ適用ス前三項ノ直接町村稅及直接國稅ノ納額ハ選舉人名簿調製期日ノ屬スル會計年度ノ前年度ノ賦課額ニ依ルヘシ

第十三條 選舉人ハ分チテ二級トス

選舉人中直接町村稅ノ納額最多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ一級トシ其ノ他ノ選舉人ヲ二級トス但シ一級選舉人ノ數議員定數ノ二分ノ一ヨリ少キトキハ納額最多キ者議員定數ノ二分ノ一ト同數ヲ以テ一級トス

一級二級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ一級ニ入ルヘシ兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二人以上アルトキハ其ノ町村內ニ住所ヲ有スル年數ノ多キヲ以テ一級ニ入ル住所ヲ有スル年數同シキトキハ年長者ヲ以テ一級ニ年齢ニ依リ難キトキハ町村長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

シ

選舉人ハ每級各別ニ議員定數ノ半數ヲ選舉ス

被選舉人ハ各級ニ通シテ選舉セララルコトヲ得

直接町村稅ヲ賦課セサル町村ニ於テハ第二項及第三項ノ納稅額ハ選舉人ノ町村內ニ於テ納ムル直接國稅額ニ依ルヘシ

第二項第三項及前項ノ直接町村稅及直接國稅ノ納額ニ關シテハ前條第五項ノ規定ヲ適用ス

特別ノ事情アリテ前七項ノ例ニ依リ難キ町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ特別ヲ設クルコトヲ得

第十四條 特別ノ事情アルトキハ町村ハ郡長ノ許可ヲ得區劃ヲ定メテ選舉分會ヲ設クルコトヲ得二級選舉

ノ爲ノミニ付亦同シ

第十五條 選舉權ヲ有スル町村公民ハ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一月ヲ經過セサル者亦同シ

一 所屬府縣郡ノ官吏及有給吏員

二 其ノ町村ノ有給吏員

三 檢事警察官吏及收稅官吏

四 神官神職僧侶其ノ他諸宗教師

五 小學校教員

町村ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ

同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、重役及支配

人ハ其ノ町村ニ於テ被選舉權ヲ有セス

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ町村會議員ノ職ニ

在ルコトヲ得ス其ノ同時ニ選舉セラレタルトキハ同級ニ在リテハ投票ノ數ニ依リ其ノ多キ者一人ヲ當選者トシ同數ナルトキ又ハ等級ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ年長者ヲ當選者トス其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ後ニ選舉セラレタル者議員タルコトヲ得ス

議員ト爲リタル後前項ノ緣故ヲ生シタル場合ニ於テハ年少者其ノ職ヲ失フ

町村長又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ町村會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス

第十六條 町村會議員ハ名譽職トス

議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ第一日ヨリ之ヲ起算ス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲解任ヲ要スル者アルトキハ每級各別ニ町村長抽籤シテ之ヲ定ム但シ解任ヲ要スル等級ニ缺員アルトキハ其ノ缺員ヲ以テ之ニ充ツヘシ

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ選舉セラレタル議員ハ總選舉ニ依リ選舉セラレタル議員ノ任期滿了ノ日迄在任ス

第十七條 町村會議員中缺員ヲ生シ其ノ缺員議員定數ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ郡長町村長若ハ町村會ニ於テ必要ト認ムルハ補缺選舉ヲ行フヘシ

補缺選舉ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

補缺議員ハ前任者ノ選舉セラレタル等級ニ於テ之ヲ

選舉スヘシ

第十八條 町村長ハ選舉期日前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人ノ資格ヲ記載セル選舉人名簿ヲ調製スヘシ

町村長ハ選舉期日前四十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間毎日午前八時ヨリ午後四時迄町村役場又ハ告示シタル場合ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ關係者ニ於テ異議アルトキハ縦覽期間内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ縦覽期間満了後三日以内ニ町村會ノ決定ニ付スヘシ町村會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決議ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前四項ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ヲ修正ヲ要スルトキハ町村長ハ其ノ確定期日前ニ修正ヲ加フヘシ

選舉人名簿ハ選舉期日前三日ヲ以テ確定ス

確定名簿ハ第三條ノ處分アリタル場合ニ於テ府縣知事ノ指定スルモノヲ除クノ外其ノ確定シタル日ヨリ

ノ定ムル所ニ依ル名簿ノ喪失シタルトキ亦同シ

選舉人名簿調製後ニ於テ選舉期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用キ縦覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ前選舉期日ニ依リ之ヲ算定ス

第十九條 町村長ハ選舉期日前少クトモ七日間選舉會場、投票ノ日時及各級ヨリ選舉スヘキ議員數ヲ告示スヘシ選舉分會ヲ設クル場合ニ於テハ併セテ其ノ等級及區劃ヲ告示スヘシ

選舉分會ノ選舉ハ本會ト同日時ニ之ヲ行フヘシ天災事變等ニ依リ同日時ニ選舉ヲ行フコト能ハサルトキハ町村長ハ其ノ選舉ヲ終ラサル選舉會又ハ選舉分會ノミニ關シ更ニ選舉會場及投票ノ日時ヲ告示シ選舉ヲ行フヘシ

選舉ヲ行フ順序ハ先ツ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘシ天災事變等ニ依リ選舉ヲ行フコト能ハサルニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ選舉ヲ終ラサル等級ノミニ關シ更ニ選舉會場及投票ノ日時ヲ告示シ選舉ヲ行フヘシ

第二十條 町村長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

選舉分會ハ町村ノ指名シタル吏員選舉分會長ト爲リ之ヲ開閉シ其取締ニ任ス

町村長ハ選舉人中ヨリ二人乃至四人ノ選舉立會人ヲ選任スヘシ但シ選舉分會ヲ設ケタルトキハ各別ニ選

一年以内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ用ヅ但シ名簿確定後裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ヲ修正ヲ要スルトキハ選舉ヲ終リタル後ニ於テ次ノ選舉期日前四日迄ニ之ヲ修正スヘシ

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ町村長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ

選舉分會ヲ設クルトキハ町村長ハ確定名簿ニ依リ分會ノ區劃毎ニ名簿ノ抄本ヲ調製スヘシ

確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登錄セラレヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ選舉人ハ等級ノ標準タル直接町村稅又ハ直接國稅ニ依リ其ノ者ノ納額ニシテ名簿ニ登錄セラレタル一級選舉人中ノ最少額ヨリ多キトキハ一級ニ於テ其ノ他ハ二級ニ於テ選舉ヲ行フヘシ但シ直接町村稅又ハ直接國稅ヲ以テ等級ノ標準ト爲ササル選舉ニ於テハ町村長ノ定ムル所ニ依ル

選舉名簿ニ登錄セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

第二項乃至第五項ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿無効ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ其ノ名簿ノ調製、縦覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ郡長

舉立會人ヲ設クヘシ

選舉立會人ハ名譽職トス

第二十一條 選舉人ニ非サル者ハ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但シ選舉會場ノ事務ニ從事スル者選舉會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス

選舉會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選舉會場ノ秩序ヲ紊ス者アルトキハ選舉長又ハ分會長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ選舉會場外ニ退出セシムヘシ

前項ノ規定ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選舉長又ハ分會長會場ノ秩序ヲ紊スノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルヲ妨ケス

第二十二條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ選舉會場ニ到リ選舉人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スヘシ

投票時間内ニ選舉會場ニ入りタル選舉人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得

選舉スヘキ議員數ノ三倍ヨリ少キ場合ニ於テハ連名投票ノ法ヲ用ウヘシ
 自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス投票用紙ハ町村長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ
 選舉分會ニ於テ爲シタル選舉ハ分會長少クトモ一人ノ選舉立會人共ニ投票函ノ儘之ヲ本會ヘ送致スヘシ

第二十三條 増員選舉及補闕選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十四條 第十二條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得但シ年齡二十五年以上ノ男子ニ非サル者、禁治産者及準禁治産者ハ必ス代人ヲ以テスヘシ
 代人ハ帝國臣民ニシテ年齡二十五年以上ノ男子ニ限ル

第七條第一項但書ニ當ル者、第八條第二項ノ規定ニ依ル公民權停止中ノ者及第九條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ代人タルコトヲ得ス又一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス代人ハ委任狀其ノ他代理ヲ證スル書面ヲ選舉長又ハ分會長ニ示スヘシ

第二十五條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ
- 二 現ニ町村會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

第二十八條 選舉長又ハ分會長ハ選舉錄ヲ調製シテ選舉又ハ投票ノ願末ヲ記載シ選舉又ハ投票ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉立會人二人以上ト共ニ之ヲ署名スヘシ

選舉分會長ハ投票函ト同時ニ選舉錄ヲ本會ニ送致スヘシ

選舉錄ハ投票、選舉人名簿其ノ他ノ關係書類ト共ニ選舉及當選ノ效力確定スルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ
 第二十九條 當選者定マリタルトキハ町村長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ兩級ニ於テ當選シタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ何レノ當選ニ應スヘキカヲ町村長ニ申立ツヘシ其ノ期間内ニ之ヲ申立テサルトキハ町村長抽籤シテ之ヲ定ム

第十五條第二項ニ掲ケサル官吏ニシテ當選シタル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ニ應スルコトヲ得ス

前項ノ官吏ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ニ應スヘキ旨ヲ町村長ニ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス第三項ノ場合ニ於テ何レノ當選ニ應スヘキカヲ申立テサルトキハ總テ之ヲ辭シタルモノト看做ス

第三十條 町村會議員ノ當選ヲ辭シタルモノアルトキ

ルモノ

三 一投票中二人以上ノ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノ

四 被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ

五 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

六 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

連名投票ノ法ヲ用キタル場合ニ於テハ前項第一號及第六號ニ該當スルモノ並其ノ記載ノ人員選舉スヘキ定數ニ過キタルモノハ之ヲ無効トシ前項第二號第四號及第五號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ無効トス

第二十六條 投票ノ拒否及效力ハ選舉立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

選舉分會ニ於ケル投票ノ拒否ハ其ノ選舉立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ分會長之ヲ決スヘシ

第二十七條 町村會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ各級ニ於テ選舉スヘキ議員數ヲ以テ選舉人名簿ニ登錄セラレタル各級ノ人員數ヲ除シテ得タル數ノ七分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

ハ町村長ハ直ニ之ヲ補フヘキ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第二十七條ノ規定ヲ準用ス

第三十一條 選舉ヲ終リタルトキハ町村長ハ直ニ選舉錄ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

第二十九條第二項ノ期間ヲ經過シタルトキ、同條第三項若ハ第五項ノ申立アリタルトキ又ハ同條第三項ノ規定ニ依リ抽籤ヲ爲シタルトキハ町村長ハ直ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示シ併セテ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

第三十二條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限り其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス

第三十三條 選舉人選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ第三十一條第二項ノ告示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ町村長申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ七日以内ニ町村會ノ決定ニ付スヘシ町村會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得郡長ハ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ府縣知事ノ指揮ヲ受ケ選舉ニ關シテハ第三十一條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ處分スルコトヲ得

前項ノ處分アリタルトキハ同 事件ニ付爲シタル異

議ノ申立及町村會ノ決定ハ無効トス
 第三項ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其
 ノ裁決又ハ第二項若ハ第六項ノ裁決ニ不服アル者ハ
 行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 第一項ノ決定及第二項又ハ前項ノ裁決ニ付テハ町村
 長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
 第二項第五項又ハ前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリ
 モ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
 町村會議員ハ選舉又ハ當選ニ關スル處分、決定若ハ
 裁決確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參
 與スルノ權ヲ失ハス
 第三十四條 當選無効ト確定シタルトキハ町村長ハ直
 ニ第二十七條ノ例ニ依リ更ニ當選者ヲ定ムヘシ
 選舉無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ
 議員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ルコト能ハサルトキハ
 其ノ不足ノ員數ニ付更ニ選舉ヲ行フヘシ此ノ場合ニ
 於テハ第二十七條第一項但書ノ規定ヲ適用セス
 第三十五條 町村會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者
 ハ其ノ職ヲ失フ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ヲ除
 クノ外其ノ被選舉權ノ有無ハ町村會之ヲ決定ス
 町村長ハ町村會議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト
 認ムルトキハ之ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ
 第一項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキ
 ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ
 不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴
 願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
 第二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起ス
 ルコトヲ得
 第三十三條第八項ノ規定ハ第一項及前三項ノ場合ニ
 之ヲ準用ス
 第一項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ
 之ヲ本人ニ交付スヘシ
 第三十六條 第十八條及第三十三條ノ場合ニ於テ府縣
 參事會ノ決定及裁決ハ府縣知事郡長ノ處分ハ郡長、
 町村會ノ決定ハ町村長直ニ之ヲ告示スヘシ
 第三十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ
 設置スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉
 ニ關スル罰則ヲ準用ス
 前項ノ罰則中選舉人ニス關ル規定ハ第二十四條ノ代
 人ニ之ヲ準用ス
 第三十八條 特別ノ事情アル町村ニ於テハ郡長ハ府縣
 知事ノ許可ヲ得テ其ノ町村ヲシテ町村會ヲ設ケス選
 舉權ヲ有スル町村公民ノ總會ヲ以テ之ニ充テシムル
 コトヲ得
 町村總會ニ關シテハ町村會ニ關スル規定ヲ準用ス
 第二款 職務權限
 第三十九條 町村會ハ町村ニ關スル事件及法律勅令ニ
 依リ其ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス
 第四十條 町村會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一 町村條例及町村規則ヲ設ケ又ハ改廢スル事
 二 町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スル事但シ第
 七十七條ノ事務及法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ
 限ニ在ラス
 三 歳入出豫算ヲ定ムル事
 四 決算報告ヲ認定スル事
 五 法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料、
 加入金、町村税又ハ夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル
 事
 六 不動産ノ管理處分及取得ニ關スル事
 七 基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關ス
 ル事
 八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義
 務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事
 九 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律勅
 令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
 十 町村吏員ノ身元保證ニ關スル事
 十一 町村ニ係ル訴訟訴訟及和解ニ關スル事
 第四十一條 町村會ハ法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬ス
 ル選舉ヲ行フヘシ
 第四十二條 町村會ハ町村ノ事務ニ關スル書類及計算
 書ヲ檢閲シ町村長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決
 ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得
 町村會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ町村長又ハ其ノ指
 名シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項町村會ノ權限

ニ屬スル事件ヲ行ハシムルコトヲ得
 第四十三條 町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意
 見書ヲ町村長又ハ監督官廳ニ提出スルコトヲ得
 第四十四條 町村會ハ行政廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ
 答申スヘシ
 町村會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ町
 村會成立セズ召集ニ應ゼス、若ハ意見ヲ提出セズ又
 ハ町村會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ當該行政廳
 ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得
 第四十五條 町村會ハ町村長ヲ以テ議長トス町村長故
 障アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ代理ス町村長
 及其ノ代理者共ニ故障アルトキハ年長ノ議員議長ノ
 職務ヲ代理ス年長同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
 第四十六條 町村長及其ノ委任又ハ囑托ヲ受ケタル者
 ハ議會ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ
 加ハルコトヲ得ス
 前項ノ列席者發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許
 スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ
 得ス
 第四十七條 町村會ハ町村長之ヲ召集ス議員定數三分
 ノ一以上ノ請求アルトキ町村長ハ之ヲ召集スヘシ町
 村長ハ必要アル場合ニ於テ會期ヲ定メテ町村會ヲ招
 集スルコトヲ得
 召集及會議ノ事件ハ開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ
 之ヲ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在

ラス

町村會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ町村長ハ直ニ之ヲ會議ニ付スルコトヲ得三日前述ニ告知ヲ爲シタル事件ニ付亦同シ

第四十八條 町村會ハ議員定數ノ半数以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第五十條ノ除斥ノ爲半数ニ滿タサルトキ同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半数ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席議員定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半数ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十九條 町村會ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五十條 議長及議員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ町村會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第五十一條 法律勅令ニ依リ町村會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ一人毎ニ無記名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半数ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス過半数ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二人ヲ取リ之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二人ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス同數ナルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テハ第二十二條及第二十五條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ町村會之ヲ決定ス

第一項ノ選舉ニ付テハ町村會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選又ハ連名投票ノ法ヲ用ウルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依ル

第五十二條 町村會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁止シタルトキ
二 議員二人以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項議員ノ發議ハ討論ヲ須キス其ノ可否ヲ決スヘシ

第五十三條 議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ閉閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第五十四條 議員ハ選舉人ノ指示又ハ委囑ヲ受クヘカラス

議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第五十五條 會議中本法又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ス議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ又ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場外ニ退去セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第五十六條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧嘩ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條 町村會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム

書記ハ議長之ヲ任免ス

第五十八條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ調製シ會議ノ顛末及出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ

會議録ハ議長及議員二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ議員ハ町村會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第五十九條 町村會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設クヘシ會議規則ニハ本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ町村會ノ議決ニ依リ三日以内出席ヲ停止シ又ハ二回以下ノ過怠金ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三章 町村吏員

第一款 組織選舉及任免

第六十條 町村ニ町村長及助役一人ヲ置ク但シ町村條例ヲ以テ助役ノ定數ヲ増加スルコトヲ得

第六十一條 町村長及助役ハ名譽職トス
町村ハ町村條例ヲ以テ町村長又ハ助役ヲ有給ト爲ス

コトヲ得

第六十二條 町村長及助役ノ任期ハ四年トス

第六十三條 町村長ハ町村會ニ於テ之ヲ選舉ス

助役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定ム町村長職ニ在ラサルトキハ前項ノ例ニ依ル

名譽職町村長及名譽職助役ハ其ノ町村公民中選舉權ヲ有スル者ニ限ル

有給町村長及有給助役ハ第七條第一項ノ規定ニ拘ラス在職ノ間其ノ町村ノ公民トス

第六十四條 町村長ヲ選舉シ又ハ助役ヲ定メ若ハ選舉シタルトキハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣知事ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ內務大臣ニ具狀シテ認可ヲ請フコトヲ得

有給町村長及有給助役ハ三月前ニ申立ツルトキハ任意退職スルコトヲ得

第六十五條 町村長及助役ハ第十五條第二項ニ掲ケタル職ト兼スルコトヲ得又其ノ町村ニ對シ請負ヲ爲シ及同一ノ行爲ヲ爲ス者ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、重役及支配人タルコトヲ得ス

町村長ト父子兄弟タル緣故アル者ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス
父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス第十五條第五項ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準

用ス

第六十六條 有給町村長及有給助役ハ郡長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他ノ報償アル業務ニ従事スルコトヲ得ス

有給町村長及有給助役ハ會社ノ重役又ハ支配人其ノ他ノ事務員タルコトヲ得ス

第六十七條 町村ニ收入役一人ヲ置ク但シ特別ノ事情アル町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ副收入役一人ヲ置クコトヲ得

收入役及副收入役ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス
收入役及副收入役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定メ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ郡長ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ府縣知事ニ具狀シテ認可ヲ請フコトヲ得

第六十三條第四項ノ規定ハ收入役ニ第六十五條第一項及前條ノ規定ハ收入役及副收入役ニ之ヲ準用ス
町村長又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ收入役又ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス收入役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス特別ノ事情アル町村ニ於テハ郡長ノ許可ヲ得テ町村長又ハ助役ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第六十八條 町村ハ處務便宜ノ爲區ヲ劃シ區長及其ノ

前項吏員ノ定數ハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第二款 職務權限

第七十二條 町村長ハ町村ヲ統轄シ町村ヲ代表ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 町村會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事

二 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者ヲ置キタルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

三 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

四 證書及公文書類ヲ保管スル事

五 法令又ハ町村會ノ議決ニ依リ使用料、手数料、加入金、町村税又ハ夫役現品ヲ賦課徵收スル事

六 其ノ他法令ニ依リ町村長ノ職權ニ屬スル事項

第七十三條 町村長ハ町村吏員ヲ指揮監督シ之ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金トス

第七十四條 町村會ノ議決又ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ町村長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選舉ヲ行ハシムヘシ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘシ

前項ノ場合ニ於テ町村會其ノ議決ヲ改メサルトキハ町村長ハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ但シ特別ノ理由アルトキハ再議ニ付セスシテ直ニ裁決ヲ請フコトヲ得

第七十五條 町村會成立セサルトキ又ハ第四十八條但

書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキハ町

村長ハ郡長ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ町村會ノ議決スヘ

キ事件ヲ處置スルコトヲ得

町村會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキ

得

由アルトキハ再議ニ付セスシテ直ニ裁決ヲ請フコト

ヲ得

得

得

代理者一人ヲ置クコトヲ得

區長及其ノ代理者ハ名譽職トス町村會ニ於テ町村公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス

第六十九條 町村ハ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス町村會ニ於テ町村會議員又ハ町村公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス但シ委員長ハ町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル助役ヲ以テ之ニ充

ツ

常設委員ノ組織ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十條 名譽職町村長及名譽助役其ノ他町村公民

ニ限リテ擔任スヘキ職務ニ在ル吏員ニシテ町村公民

權ヲ喪失シ若ハ停止セラレタルトキ又ハ第九條第三

項ノ場合ニ當ルトキハ其ノ職ヲ失フ職ニ就キタルカ

爲町村公民タル者ニシテ禁治産若ハ準禁治産ノ宣告

ヲ受ケタルトキ又ハ第九條第二項若ハ第三項ノ場合

ニ當ルトキ亦同シ

前項ノ職務ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ

罪ノ爲豫審又ハ公判ニ付セラレタルトキハ監督官廳

ハ其ノ職務ノ執行ヲ停止スルコトヲ得此ノ場合ニ於

テハ其ノ停止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停

止期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス

第七十一條 前條ニ定ムル者ノ外町村ニ必要ノ有給

吏員ヲ置キ町村長之ヲ任免ス

得

得

得

得

得

得

得

得

得

得

得

得

得

得

得

得

得

得

得

得

得

得

得

得

得

得

得

得

得

ハ前項ノ例ニ依ル
町村會ノ決定スヘキ事件ニ關シテハ前二項ノ例ニ依
ル此ノ場合ニ於ケル町村長ノ處置ニ關シテハ各本條
ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
前三項ノ規定ニ依ル處置ニ付テハ次回ノ會議ニ於テ
之ヲ町村會ニ報告スヘシ

第七十六條 町村會ニ於テ議決又ハ決定スヘキ事件ニ
關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ町村會成立セサル
トキ又ハ町村長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ム
ルトキハ町村長ハ之ヲ專決シ次回ノ會議ニ於テ之ヲ
町村會ニ報告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ町村長ノ爲シタル處分ニ關シテハ
各本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第七十七條 町村長其ノ他町村吏員ハ法令ノ定ムル所
ニ依リ國府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル

前項ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ町村ノ負擔ト
ス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十八條 町村長ハ郡長ノ許可ヲ得テ其ノ職務ノ一
部ヲ助役又ハ區長ニ分掌セシムルコトヲ得

但シ町村ノ事務ニ付テハ豫メ町村會ノ同意ヲ得ルコ
トヲ要ス町村長ハ町村吏員ヲシテ其事務ノ一部ヲ臨
時代理セシムルコトヲ得

第七十九條 助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス助役ハ助役
長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數人アルトキハ豫メ
町村長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

第八十條 收入役ハ町村ノ出納其ノ他ノ會計事務及第
七十七條ノ事務ニ關スル國府縣其ノ他公共團體ノ出
納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定ア
ルモノハ此ノ限ニ在ラス

町村ハ收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定
メ郡長ノ認可ヲ受クヘシ但シ副收入役ヲ置キタル町
村ハ此ノ限ニ在ラス

副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助シ收入役故障アルト
キ之ヲ代理ス

町村長ハ郡長ノ許可ヲ得テ收入役事務ノ一部ヲ副收
入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ町村ノ出納其ノ他ノ
會計事務ニ付テハ豫メ町村會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八十一條 區長ハ町村長ノ命ヲ承ケ町村長ノ事務ニ
シテ區内ニ關スルモノヲ補助ス

區長代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アルトキ
之ヲ代理ス

第八十二條 委員ハ町村長ノ指揮監督ヲ承ケ財產又ハ
營造物ヲ管理シ其ノ他委任ヲ受ケタル町村ノ事務ヲ
調査シ又ハ之ヲ處辨ス

第八十三條 第七十一條ノ吏員ハ町村長ノ命ヲ承ケ事
務ニ從事ス

第四章 給料及給與

第八十四條 名譽職町村長、名譽職助役、町村會議員
其ノ他ノ名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受
クルコトヲ得名譽職町村長、名譽職助役、區長、區長

代理者及委員ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬
ス給スルコトヲ得

費用辨償額、報酬額及其ノ支給方法ハ町村會ノ議決
ヲ經テ之ヲ定ム

第八十五條 有給町村長有給助役其ノ他ノ有給吏員ノ
給料額旅費額及其ノ支給方法ハ町村會ノ議決ヲ經テ
之ヲ定ム

第八十六條 有給吏員ニハ町村條例ノ定ムル所ニ依リ
退隱料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ヲ給
スルコトヲ得

第八十七條 費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料、退職
給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ノ給與ニ付關係
者ニ於テ異議アル時ハ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得
前項ノ異議ハ之ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ關係者其
ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁
決又ハ第三項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ
出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ訴
訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起ス
ルコトヲ得

第八十八條 費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料、
退職給與金、死亡給與金遺族扶助料其ノ他ノ給與ハ
町村ノ負擔トス

第五章 町村ノ財務

第一款 財產營造物及町村稅

第八十九條 收益ノ爲ニスル町村ノ財產ハ基本財產ト
シ之ヲ維持スヘシ

町村ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財產ヲ設ケ又ハ金
穀等ヲ積立ツルコトヲ得

第九十條 舊來ノ慣行ニ依リ町村住民中特ニ財產又ハ
營造物ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ舊
慣ニ依ル舊慣ヲ變更又ハ廢止セムトスルトキハ町村
會ノ議決ヲ經ヘシ

前項ノ財產又ハ營造物ヲ新ニ使用セムトスル者アル
トキハ町村ハ之ヲ許可スルコトヲ得

第九十一條 町村ハ前條ニ規定スル財產ノ使用方法ニ
關シ町村規則ヲ設クルコトヲ得

第九十二條 町村ハ第九十條第一項ノ使用者ヨリ使用
料ヲ徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シテ使用料若ハ一
時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料及加入金ヲ共ニ徵收
スルコトヲ得

町村ハ特ニ一箇人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收
スルコトヲ得

第九十三條 町村ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收ス
ルコトヲ得

町村ハ特ニ一箇人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收
スルコトヲ得

第九十四條 財產ノ賣却貸與工事ノ請負及物件勞力其
ノ他ノ供給ハ競争入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要

スル時、入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサ
ル時又ハ町村會ノ同意ヲ得タル時ハ此ノ限ニ在ラス
第九十五條 町村ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ
寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第九十六條 町村ハ其ノ必要ナル費用及從來法令ニ依
リ又ハ將來法律勅令ニ依リ町村ノ負擔ニ屬スル費用
ヲ支辨スル義務ヲ負フ

町村ハ其ノ財産ヨリ生スル収入、使用料、手数料、
過料、過怠金其ノ他法令ニ依リ町村ニ屬スル収入ヲ
以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ町村税及夫
役現品ヲ賦課徴收スルコトヲ得

第九十七條 町村税トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ
左ノ如シ
一 國稅府縣稅ノ附加稅

二 特別稅

直接國稅又ハ直接府縣稅ノ附加稅ハ均一ノ稅率ヲ以
テ之ヲ徵收スヘシ但シ第四百七十七條ノ規定ニ依リ許
可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
國稅ノ附加稅タル府縣稅ニ對シテハ附加稅ヲ賦課ス
ルコトヲ得ス

特別稅ハ別ニ稅目ヲ起シテ課稅スルノ必要アルトキ
賦課徴收スルモノトス

第九十八條 三月以上町村內ニ滞在スル者ハ其ノ滞在
ノ初ニ遡リ町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第九十九條 町村內ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滞在
シテハ此ノ限ニ在ラス

國ノ專業又ハ行爲及國有ノ土家屋物件ニ對シテハ町
村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

前四項ノ外町村稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別
ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

第一百零二條 數人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必
要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

町村ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要
ナル費用ハ其ノ部內ニ於テ町村稅ヲ納ムル義務アル
者ニ負擔セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル収入アルトキ
ハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ前項ノ場
合ニ於テ其ノ一部ノ收入アルトキ亦同シ

數人又ハ町村ノ一部ヲ利スル財產ニ付テハ前三項ノ
例ニ依ル

第一百零三條 町村稅及其ノ賦課徴收ニ關シテハ本法其ノ
他ノ法律ニ規定アルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ムル
コトヲ得

第一百零四條 數人又ハ町村ノ一部ニ對シテ利益アル事
件ニ關シテハ町村ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若
ハ町村ノ一部ニ對シテ賦課ヲ爲スコトヲ得

第一百零五條 夫役又ハ現品ハ直接町村稅ヲ準率ト爲シ直
接町村稅ヲ賦課セサル町村ニ於テハ直接國稅ヲ準率
ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ但シ第四百
十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ

スルコトナシト雖町村內ニ於テ土地家屋物件ヲ所有
シ使用シ若ハ占有シ町村內ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ
爲シ又ハ町村內ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其土地
家屋物件營業者若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行爲ニ對
シテ賦課スル町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第一百零六條 納稅者ノ町村外ニ於テ所有シ使用シ占有スル
土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ町村外ニ於テ營業所
ヲ設ケタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ町村稅ヲ賦
課スルコトヲ得ス町村ノ内外ニ於テ營業所ヲ設ケ營
業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ
對スル本稅ヲ分別シテ納メサルモノニ對シ附加稅ヲ
賦課スル場合及住所滞在町村ノ内外ニ涉ル者ノ收入
ニシテ土地家屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨリ
生スル收入ニ非サルモノニ對シ町村稅ヲ賦課スル場
合ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一百零七條 所謂稅法第五條ニ掲ケル所得ニ對シテハ町
村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

神社寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境内地並
教會所說教所ノ用ニ供スル建物及其ノ構内地ニ對シ
テハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ
使用セシムル者及住宅ヲ以テ教會所說教所ノ用ニ充
ツル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用スル家屋物
件及營造物ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス
但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及使用收益者ニ對
シテハ此ノ限ニ在ラス

學藝美術及手工ニ關スル勞務ニ付テハ夫役ヲ賦課ス
ルコトヲ得ス

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ適
當ノ代人ヲ出スコトヲ得夫役又ハ現品ハ金錢ヲ以テ
之ニ代フルコトヲ得

第一百零八條 非常災害ノ爲必要アル時ハ町村ハ他人ノ土
地ヲ一時使用シ又ハ其ノ土石竹木其ノ他ノ物品ヲ使
用シ若ハ使用スルコトヲ得但シ其ノ損失ヲ補償スヘシ
前項ノ場合ニ於テ危險防止ノ爲必要アルトキハ町村
長、警察官吏又ハ監督官廳ハ町村內ノ居住者ヲシテ
防禦ニ從事セシムルコトヲ得

第一百零九條 第一項但書ノ規定ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依
リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ
府縣知事之ヲ決定ス決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不
服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シテ
之ヲ本人ニ交付スヘシ

第一百一十條 第一項ノ規定ニ依リ土地ノ一時使用ノ處分ヲ受ケタ
ル者其ノ處分ニ不服アルトキハ郡長ニ訴願シ其ノ裁
決ニ不服アルトキハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不
服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第一百一十一條 町村稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ

第一百一十二條 町村稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ

第一百一十三條 町村稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ

第一百一十四條 町村稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ

第一百一十五條 町村稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ

第一百一十六條 町村稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ

第一百一十七條 町村稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ

當該吏員ハ日出ヨリ日没迄ノ間營業者ニ關シテハ仍
其ノ營業時間内家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物
件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得前項ノ場合ニ於テハ當該吏
員ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證據ヲ携帶スヘシ

第九八條 町村長ハ納稅者中特別ノ事情アル者ニ對シ
納稅延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ越ユル場合ハ町
村會ノ議決ヲ經ヘシ町村ハ特別ノ事情アル者ニ限リ
町村稅ヲ減免スルコトヲ得

第九九條 使用料手数料及特別稅ニ關スル事項ニ村テ
ハ町村條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ其ノ條例中ニハ五
圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得
財產又ハ營造物ノ使用ニ關シテハ町村條例ヲ以テ五
圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得
過料ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ
府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政
裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟
ヲ提起スルコトヲ得

第一百條 町村稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違
法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付ヲ受
ケタル日ヨリ三月以内ニ町村長ニ異議ノ申立ヲ爲ス
コトヲ得

財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ
之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得
前二項ノ異議ハ之ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ決定ヲ

前三項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキ
ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行
政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟
ヲ提起スルコトヲ得

第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル
迄執行ヲ停止ス

第一百二條 町村ハ其ノ負債ヲ償還スル爲メ、町村ノ永
久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ爲ス爲メ又ハ天災事變等ノ
爲必要アル場合ニ限リ町村債ヲ起スコトヲ得
町村債ヲ起スニ付テハ町村會ノ議決ヲ經ルトキハ併
セテ起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決
ヲ經ヘシ
町村ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲メ一時ノ借入金ヲ爲スコ
トヲ得
前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還ス
ヘシ

第二款 歳入出豫算及決算

第一百三條 町村長ハ每會計年度歳入出豫算ヲ調製シ
遲クトモ年度開始ノ一月前ニ町村會ノ議決ヲ經ヘシ
町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル
豫算ヲ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ事務
報告書及財產表ヲ提出スヘシ
第一百四條 町村長ハ町村會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ
追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ
訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ裁決ニ不服アルトキハ
行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ使用料手数料及加入金ノ徵收
並夫役現品ノ賦課ニ關シ之ヲ準用ス
前二項ノ規定ニ依ル決定及裁決ニ付テハ町村長ヨリ
モ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依ル裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴
訟ヲ提起スルコトヲ得

第一百一條 町村稅、使用料、手数料、加入金、過料
過怠金、其ノ他ノ町村ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者
アルトキハ町村長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ
夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ爲
サス又ハ夫役現品ニ代フル金銭ヲ納メサルトキハ町
村長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役ニ付テハ更ニ之ヲ金額
ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ
前二項ノ場合ニ於テハ町村條例ノ定ムル所ニ依リ手
數料ヲ徵收スルコトヲ得

滯納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ
指定ノ期限内ニ之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分
ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ
第一項乃至第三項ノ徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先
取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例
ニ依ル

第一百五條 町村費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ
期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ町村會ノ議決ヲ
經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲ス
コトヲ得

第一百六條 町村ハ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出
ニ充ツル爲メ豫備費ヲ設クヘシ
豫備費ハ町村會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第一百七條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ郡長ニ報
告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第一百八條 町村ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得
第一百九條 町村會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ町
村長ヨリ其ノ謄本ヲ收入役ニ交付スヘシ

收入役ハ町村長又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ
支拂ヲ爲スコトヲ得ス命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナ
ク且豫備費支出費目流用其ノ他財務ニ關スル規定ニ
依リ支出ヲ爲スコトヲ得サルトキ亦同シ

前二項ノ規定ハ收入役ノ事務ヲ兼掌シタル町村長又
ハ助役ニ之ヲ準用ス

第二十條 町村ノ支拂金ニ關スル時効ニ付テハ政府
ノ支拂金ノ例ニ依ル
第二十一條 町村ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ之ヲ檢
査シ且每會計年度少クトモ二回臨時檢査ヲ爲スヘシ
檢査ハ町村長之ヲ爲シ臨時檢査ニハ町村會ニ於テ選
舉シタル議員二人以上ノ立會ヲ要ス

第二十二條 町村ノ出納ハ翌年度六月三十日ヲ以テ

閉鎖ス決算ハ出納閉鎖後一月以内ニ證書類ヲ併セテ
收入役ヨリ之ヲ町村長ニ提出ヘシ町村長ハ之ヲ審査
シ意見ヲ附シテ次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄ニ之ヲ
町村會ノ認定ニ付スヘシ
第六十七條第八項ノ場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル但
シ町村長ニ於テ兼掌シタルトキハ直ニ町村會ノ認定
ニ付スヘシ

決算ハ其ノ認定ニ關スル町村會ノ議決ト共ニ之ヲ郡
長ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ
決算ノ認定ニ關スル會議ニ於テハ町村長及助役共ニ
議長ノ職務ヲ行フコトヲ得ス
第二百二十三條 豫算調製ノ式、費目流用其ノ他財務ニ
關シ必要ナル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第六章 町村ノ一部ノ事務

第二百二十四條 町村ノ一部ニシテ財産ヲ有シ又ハ營造
物ヲ設ケタルモノアルトキハ其ノ財産又ハ營造物ノ
管理及處分ニ付テハ本法中町村ノ財産又ハ營造物ニ
關スル規定ニ依ル但シ法律勅令中別段ノ規定アル場
合ハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ財産又ハ營造物ニ關シ特ニ要スル費用ハ其ノ
財産又ハ營造物ノ屬スル町村ノ一部ノ負擔トス
前二項ノ場合ニ於テハ町村ノ一部ハ其ノ會計ヲ分別
スヘシ
第二百二十五條 前條ノ財産又ハ營造物ニ關シ必要アリ
ト認ムルトキハ郡長ハ町村會ノ意見ヲ徵シテ町村條

例ヲ設定シ區會又ハ區總會ヲ設ケテ町村會ノ議決ス
ヘキ事項ヲ議決セシムルコトヲ得
第二百二十六條 區會議員ハ町村ノ名譽職トス其ノ定數
任期選舉權及被選舉權ニ關スル事項ハ前條ノ町村條
例中ニ之ヲ規定スヘシ區總會ノ組織ニ關スル事項ニ
付亦同シ

區會議員ノ選舉ニ付テハ町村會議員ニ關スル規定ヲ
準用ス但シ選舉人名簿又ハ選舉若ハ當選ノ效力ニ關
スル異議ノ決定及被選舉權ノ有無ノ決定ハ町村會ニ
於テ之ヲ爲スヘシ
區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ニ關スル規定ヲ準
用ス
第二百二十七條 第二百二十四條ノ場合ニ於テ町村ノ一部
郡長ノ處分ニ不服アルトキハ府縣知事ニ訴願スルコ
トヲ得

第七章 町村組合

第二百二十八條 第二百二十四條ノ町村ノ一部ノ事務ニ關
シテハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第二百二十九條 町村ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル
爲其協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ設
クルコトヲ得此場合ニ於テ組合内各町村ノ町村會又ハ
町村吏員ノ職務ニ屬スル事項ナキニ至リタルトキハ
其ノ町村會又ハ町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅ス
町村ハ特別ノ必要アル場合ニ於テハ其ノ協議ニ依リ
府縣知事ノ許可ヲ得テ其ノ事務ノ全部ヲ共同處理ス

ル爲町村組合ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ組
合内各町村ノ町村會及町村吏員ハ組合成立ト同時ニ
消滅ス
公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町
村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ
許可ヲ得テ前二項ノ町村組合ヲ設クルコトヲ得
町村組合ハ法人トス

第三百十條 前條第一項ノ町村組合ニシテ其組合町村
ノ數ヲ増減シ又ハ公共事務ノ變更ヲ爲サントスル時
ハ關係町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
前條第二項ノ町村組合ニシテ其ノ組合町村ノ數ヲ減
少セムトスルトキハ組合會議決ニ依リ其ノ組合町
村ノ數ヲ増加セムトスルトキハ其ノ町村組合ト新ニ
加ハラムトスル町村トノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可
ヲ受クヘシ
公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町
村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經
内務大臣ノ許可ヲ得テ組合町村ノ數ヲ増減シ又ハ一
部事務ノ爲設クル組合ノ共同事務ノ變更ヲ爲スコトヲ
得

第三百十一條 町村組合ヲ設クルトキハ關係町村ノ協
議ニ依リ組合規約ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
組合規約ヲ變更セムトスルトキハ一部事務ノ爲ニ設
クル組合ニ在リテハ關係町村ノ協議ニ依リ全部事務
ノ爲ニ設クル組合ニ在リテハ組合會ノ議決ヲ經府縣

知事ノ許可ヲ受クヘシ
公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町
村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經
内務大臣ノ許可ヲ得テ組合規約ヲ定メ又ハ變更スル
コトヲ得
第三百十二條 規程規約ニハ組合ノ名稱、組合ヲ組織
スル町村組合ノ共同事務及組合役場ノ位置ヲ定ムヘ
シ

一部事務ノ爲ニ設クル組合ノ組合規約ニハ前項ノ外
組合會ノ組織及組合會議員ノ選舉組合會員ノ組織及
選任並組合費用ノ支辨方法ニ付規定ヲ設クヘシ
第三百十三條 町村組合ヲ解カムトスルトキハ一部事
務ノ爲ニ設クル組合ニ於テハ關係町村ノ協議ニ依リ
全部事務ノ爲ニ設クル組合ニ於テハ組合會ノ議決ニ
依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町
村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經
内務大臣ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ解クコトヲ得
第三百十四條 第三百十條第一項及第二項及前條第一
項ノ場合ニ於テ財産ノ處分ニ關スル事項ハ關係町村
ノ協議、關係町村ト組合トノ協議又ハ組合會ノ議決
ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三百十五條 第三項及前條第二項ノ場合ニ於テ財産ノ
處分ニ關スル事項ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意
見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得

テ府縣知事之ヲ定ム

第三百三十五條 第二百二十九條第一項及第二項第三百三十條第一項及第二項ノ第三百三十一條第一項及第二項第三百三十三條第一項並前條第一項ノ規定ニ依ル府縣知事ノ處分ニ不服アル町村又ハ町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

組合費ノ分賦ノ關シ違法又ニ錯誤アリト認ムル町村ハ其ノ告知アリタル日ヨリ三月以内ニ組合ノ管理者ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ組合會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル町村ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ付テハ組合ノ管理者ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三百三十六條 町村組合ニ關シテハ法律勅令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外町村ニ關スル規定ヲ準用ス

第八章 町村ノ監督

第三百三十七條 町村ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第三百三十八條 本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外町村ノ監督ニ關スル郡長ノ處分ニ不服アル町村ハ府

ヲ得

町村會解散ノ場合ニ於テハ三月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

第三百四十三條 町村ニ於テ法令ニ依リ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依リ命スル費用ヲ豫算ニ載セサルトキハ郡長ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得

町村長其ノ他ノ吏員其ノ執行スヘキ事件ヲ執行セザルトキハ郡長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員之ヲ執行スルコトヲ得但シ其費用ハ町村ノ負擔トス

前二項ノ處分ニ不服アル町村又ハ町村長其ノ他ノ吏員ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三百四十四條 町村長、助役、收入役又ハ副收入役ニ故障アルトキハ監督官廳ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得但シ官吏ヲ派遣シタル場合ニ於テハ其ノ旅費ハ町村費ヲ以テ辨償セシムヘシ

臨時代理者ハ有給ノ町村吏員トシ其ノ給料額旅費額等ハ監督官廳之ヲ定ム

第三百四十五條 左ニ掲クル事件ハ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 町村條例ヲ設ケ又ハ改廢スル事
- 二 學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ又ハ之ニ大ナル變更ヲ加フル事

縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第三百三十九條 本法中行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第三百四十條 異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分決定又ハ裁決アリタル日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此限ニ在ラス行政訴訟ノ提起ハ處分決定裁決又ハ裁決アリタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依ル異ノ申立ハ期間經過後ニ於テモ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ仍之ヲ受理スルコトヲ得

異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ町村ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第三百四十一條 監督官廳ハ町村ノ監督上必要アル場合ニ於テハ事務ノ報告ヲ爲サシメ、書類帳簿ヲ徴シ及實地ニ就キ事務ヲ視察シ又ハ出納ヲ檢閲スルコトヲ得監督官廳ハ町村ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ町村ノ監督ニ關シテ爲シタル命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第三百四十二條 内務大臣ハ町村會ノ解散ヲ命スルコト

第三百四十六條 左ニ掲クル事件ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 町村債ヲ起シ並起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル事但シ第十二條第三項ノ借入金ハ此ノ限リニ在ラス
- 二 特別稅ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
- 三 間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事
- 四 使用料手数料及加入金ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

第三百四十七條 左ニ掲クル事件ハ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 基本財産ノ管理及處分ニ關スル事
- 二 特別基本財産及積立金穀等ノ管理及處分ニ關スル事
- 三 第九十條ノ規定ニ依リ舊慣ヲ變更又ハ廢止スル事

寄附又ハ補助ヲ爲ス事

不動產ノ管理及處分ニ關スル事

均一ノ稅率ニ依ラスシテ國稅又ハ府縣稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

第三百四十八條 第一項第二項及第四項ノ規定ニ依リ數人又ハ町村ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事

第三百四十九條 規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ町村ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲ス事

第三百五十條 準率ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課ス

ル事但シ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

十 繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事

第四百四十八條 監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第四百四十九條 監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ノ職權ヲ下級監督官廳ニ委任シ又ハ輕易ナル事件ニ限リ許可ヲ受ケシメサルコトヲ得

第五百十條 府縣知事又ハ郡長ハ町村長、助役、收入役、副收入役、區長、區長代理者、委員其ノ他ノ町村吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得、其ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トス、但シ町村長、助役、收入役及副收入役ニ對スル解職ハ懲戒審査會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ行フ懲戒審査會ハ內務大臣ノ命シタル府縣高等官三人及府縣名譽職參事會員ニ於テ互選シタル者三人ヲ以テ其ノ會員トシ府縣知事ヲ以テ會長トス知事故障アルトキハ其ノ代理者會長ノ職務ヲ行フ

府縣名譽職參事會員ノ互選スヘキ會員ノ選舉補闕及任期並懲戒審査會ノ招集及會議ニ付テハ府縣制中名譽職參事會員及府縣參事會ニ關スル規定ヲ準用ス但シ補充員ハ之ヲ設クルノ限ニ在ラス
解職ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ

郡長ノ處分ニ付テハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキ又ハ府縣知事ノ處分ニ付テハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

府縣知事ハ町村長助役收入役及副收入役ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停職期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間市町村ノ公職ニ選舉セラレ又ハ任命セラレ、コトヲ得ス

第五百十一條 町村吏員ノ服務紀律賠償責任身元保證及事務引繼ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ命令ニハ事務引繼ヲ拒ミタル者ニ對シ二十五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第九章 雜則

第五百十二條 郡長ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數郡ニ涉ルモノアルトキハ縣府知事ハ關係郡長ノ具狀ニ依リ其ノ事件ヲ管理スヘキ郡長ヲ指定スヘシ其ノ數縣府ニ涉ルモノアルトキハ內務大臣ハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ其ノ事件ヲ管理スヘキ郡長ヲ指定スヘシ
第五百十三條 府縣知事又ハ縣府參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ內務大臣ハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ其ノ事件ヲ管理スヘキ府縣知事又ハ縣府參事會ヲ指定スヘシ
第五百十四條 第十一條ノ人口ハ內務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第五百十五條 本法ニ於ケル直接税及間接税ノ種類ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第五百十六條 町村又ハ町村組合ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ町村ノ事務ニ付必要ナル事項ハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五百十七條 本法ハ北海道沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ之ヲ施行セス

前項ノ地域ニ付テハ勅令ヲ以テ別ニ本法ニ代ハルヘキ制ヲ定ムルコトヲ得

附 則

第五百十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五百十九條 本法施行ノ際現ニ町村會議員、區會議員又ハ全部事務ノ爲ニ設クル町村組合會議員ノ職ニ在ル者ハ從前ノ規定ニ依ル最近ノ定期改選期ニ於テ總テ其ノ職ヲ失フ

第六十條 舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ本法ノ適用ニ付テハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス但シ復權ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス

舊刑法ノ禁錮以上ノ刑ハ本法ノ適用ニ付テハ禁錮以上ノ刑ト看做ス

第六十一條 本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三類

○不動産登記法中改正ノ件

(明治四十四年三月法律第十二號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル不動産登記法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

不動産登記法中左ノ通改正ス

第二百二條ノ二 既登記ノ不動産ヲ世傳御料ニ編入シタル場合ニ於テ其登記ノ抹消ノ囑託アリタルトキハ登記用紙中表示欄ニ世傳御料ニ編入シタル旨ヲ記載シ不動産ノ表示番號及登記番號ヲ朱抹シ其登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第二百三條ノ二 不動産ニ付キ遺留財産ノ設定又ハ増加ノ勅許アリタルトキハ當該官廳ハ遲滞ナク遺留財産ノ設定ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第四百二十二條ノ二 遺留財産ノ廢止ノ勅許アリタルトキハ當該官廳ハ遲滞ナク遺留財産ノ設定ノ登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス
遺留財産ノ相續人ナキトキ亦同シ

本法ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○商法中改正ノ件

(明治四十四年五月法律第七十三號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商法中左ノ通改正ス

目錄中「第四章 海損」ノ次ニ「第五章 海難救助」ヲ加ヘ「第五章 保險」ヲ「第六章 保險」ニ「第六章 船舶債權者」ヲ「第七章 船舶債權者」ニ改ム

第七章 法定代理人カ親族會ノ同意ヲ得テ無能力者ノ爲メニ商業ヲ營ムトキハ登記ヲ爲スコトヲ要ス

法定代理人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十六條第二項ヲ左ノ如ク改ム

財產目錄ニハ不動産、債權其ノ他ノ財產ニ價額ヲ附シテ之ヲ記載スルコトヲ要ス其價額ハ財產目錄訓製ノ時ニ於ケル價額ニ超ユルコトヲ得ス

第二十七條ノ二 裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ訴訟ノ當事者ニ其商業帳簿ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第三十條ノ二 商人ハ數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ支配人ノ一人ニ對シテ爲シタル意思表示ハ主人ニ對シテ其ノ效力ヲ生ス

第三十一條ノ末尾ニ「前條第一項ニ定メタル事項及ヒ其變更並ニ消滅亦同シ」ヲ加フ

第四十一條中「物」ノ下ニ又ハ有價證券ヲ加フ

第四十二條ニ左ノ一項ヲ加フ
營利ヲ目的トスル社團ニシテ本編ノ規定ニ依リ設立

シタルモノハ商行爲ヲ爲スヲ業トセサルモノ之ヲ會社ト看做ス

第四十四條ノ二 會社ハ他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス

第四十四條ノ三 會社ハ合併ヲ爲スコトヲ得

合併ニ因リテ會社ヲ設立スル場合ニ於テハ定款ノ作成其他設立ニ關スル行爲ハ各會社ニ於テ選任シタル者共同シテ之ヲ爲スコトヲ得

第七十七條、第二百九條及ヒ第二百四十四條ノ規定ハ前項ノ選任ニ之ヲ準用ス

第四十八條ノ二 本編ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ニシテ官廳ノ許可ヲ要スルモノハ其許可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第五十一條 第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

七 數人ノ社員カ共同シ又ハ社員カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトサハ其代表ニ關スル規定

第六十一條ノ二 會社ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ數人ノ社員カ共同シ又ハ社員カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得

第三十條ノ二第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十三條ノ二 合名會社ハ總社員ノ同意ヲ以テ其組織ヲ變更シテ之ヲ合資會社ト爲スコトヲ得

第七十八條及第七十九條第一項、第二項ノ規定ハ前

項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十三條ノ三 前條ノ場合ニ於テ會社ハ組織變更ニ付キ債權者ノ承認ヲ得又ハ第七十九條第二項ニ定メタル義務ヲ履行シタル後二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ合名會社ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ合資會社ニ付テハ第七條ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八十三條ノ四 合名會社ハ總社員ノ同意ヲ以テ有限責任社員ヲ加入セシメ之ヲ合資會社ト爲スコトヲ得

此場合ニ於テハ合資會社ト爲リタル時ヨリ二週間内ニ前條ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八十六條中「第十三條」ヲ「第十五條」ニ改ム

第九十條 清算人ノ選任アリタルトキハ其清算人ハ二週間内ニ本店及支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

- 一 清算人ノ氏名、住所
- 二 會社ヲ代表スヘキ清算人ヲ定メタルトキハ其氏名
- 三 數人ノ清算人カ共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

第九十一條第二項中「清算人」ヲ「會社ヲ代表スヘキ清算人」ニ改ム

第九十一條ノ二 會社ハ辨濟期ニ至ラサル債權ト雖モ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス

條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ハ裁判所

ニ之ヲ公布セシム

目錄中「第四章 海損」ノ次ニ「第五章 海難救助」ヲ加ヘ「第五章 保險」ヲ「第六章 保險」ニ「第六章 船舶債權者」ヲ「第七章 船舶債權者」ニ改ム

第七章 法定代理人カ親族會ノ同意ヲ得テ無能力者ノ爲メニ商業ヲ營ムトキハ登記ヲ爲スコトヲ要ス

法定代理人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十六條第二項ヲ左ノ如ク改ム

財產目錄ニハ不動産、債權其ノ他ノ財產ニ價額ヲ附シテ之ヲ記載スルコトヲ要ス其價額ハ財產目錄訓製ノ時ニ於ケル價額ニ超ユルコトヲ得ス

ニ於テ選任シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒテ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス

第九十三條但書ヲ削ル

第九十三條ノ二 第六十一條及ヒ第六十一條ノ二ノ規定ハ清算人ニ之ヲ準用ス

裁判所カ數人ノ清算人ヲ選任スル場合ニ於テ會社ヲ代表スヘキ者ヲ定メス又ハ數人カ共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定サルトキハ其清算人ハ各自會社ヲ代表ス

第九十七條 第九十條ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ清算人ハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第九十九條ノ二 會社カ事業ニ著手シタル後社員カ其設立ノ無効ナルコトヲ發見シタルトキハ訴ヲ以テノミ其無効ヲ主張スルコトヲ得

第九十九條ノ三 前條ノ訴ハ本店ノ所在地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス
數箇ノ訴カ同時ニ繫屬スルトキハ辯論及裁判ハ併合シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九十九條ノ四 設立ヲ無効トスル判決ハ當事者ニ非サル社員ニ對シテモ其效力ヲ有ス
原告カ敗訴シタル場合ニ於テ惡意又ハ重大ナル過失アリタルトキハ社員ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第九十九條ノ五 設立ヲ無効トスル判決カ確定シタルトキハ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

トキハ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第九十九條ノ六 設立ヲ無効トスル判決カ確定シタルトキハ解散ノ場合ニ準シテ清算ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

設立ヲ無効トスル判決ハ會社ト第三者トノ間ニ成立シタル行為ノ效力ニ影響ヲ及ボサス

第一百條 會社カ事業ニ著手シタル後其設立カ取消サレタルトキハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第一百八條ノ二 合資會社ハ總社員ノ同意ヲ以テ其組織ヲ變更シテ之ヲ合名會社ト爲スコトヲ得此場合ニ於テ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第一百二十六條第一項中「株式ノ數」ノ下ニ「及ヒ住所」ヲ加ヘ第二項ニ左ノ一號ヲ加フ

五 一定ノ時期マテニ會社カ成立セサルトキハ株式ノ申込ヲ取消スコトヲ得ヘキコト

第一百二十六條ノ二 第七十二條ノ二ノ規定ハ株式申込人又ハ株式引受人ニ對スル通知及ヒ催告ニ之ヲ準用ス

第一百三十一條第三項ヲ左ノ如ク改ム
第一百五十六條第一項、第二項、第六十一條第三項、第四項及ヒ第六十二條乃至第六十三條ノ四ノ規定

定ハ創立總會ニ之ヲ準用ス

第四百十條 削除

第四百十一條第一項ニ左ノ二號ヲ加フ

八 會社ヲ代表スヘキ取締役ヲ定メタルトキハ其氏名

九 數人ノ取締役カ共同シ又ハ取締役カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

第四百十二條ノ二 發起人カ會社ノ設立ニ關シ其任務ヲ怠リタルトキハ其發起人ハ會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス

發起人ニ惡意又ハ重大ナル過失アリタルトキハ其發起人ハ第三者ニ對シテモ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第四百十二條ノ三 會社カ成立セサル場合ニ於テ發起人ハ會社ノ設立ニ關シテ爲シタル行為ニ付キ連帶シテ其責ニ任ス

前項ノ場合ニ於テ會社ノ設立ニ關シテ支出シタル費用ハ發起人ノ負擔トス

第四百十二條ノ四 取締役又ハ監査役カ第三百三十四條第一項ニ定メタル任務ヲ怠リタルニ因リ會社又ハ第三者ニ對シテ損害ノ責ニ任スヘキ場合ニ於テ發起人モ亦其責ニ任スヘキトキハ其取締役、監査役及ヒ發起人ハ之ヲ連帶債務者トス

第五百十條中「讓渡」ヲ「移轉」ニ「讓受人」ヲ「取得者」ニ

改ム

第五百十二條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ニ依リ會社カ株主ニ對シ其權利ヲ失フヘキ旨ヲ通知スルトキハ會社ハ其通知ヲ公告スルコトヲ要ス

第五百十三條ノ二 前條第一項ノ規定ニ依リ株主カ其權利ヲ失ヒタルトキハ會社ハ遲滞ナク其株主ノ氏名住所及ヒ株券ノ番號ヲ公告スルコトヲ要ス

第五百十四條中「前條」ヲ「第五百十三條」ニ改ム

第五百十五條ノ二 無記名式ノ株券ヲ有スル者カ株主ノ權利ヲ行ハントキハ其權利ノ行使ニ必要ナル員數ノ株券ヲ會社ニ供託スルコトヲ要ス

第五百十六條中「總會」ノ目的及ヒ總會ニ於テ決議スヘキ事項」ヲ「會議」ノ目的タル事項」ニ改ム

第五百十八條 削除

第六十條ノ二 總會ハ取締役ノ提出シタル書類及監査役ノ報告書ヲ調査セシムル爲メ特ニ檢査役ヲ選任スルコトヲ得

第六十一條第二項ヲ左ノ如ク改ム
無記名式ノ株券ヲ有スル者ハ會日ヨリ一週間前ニ其株券ヲ會社ニ供託スルコトヲ要ス
第六十三條 總會招集ノ手續又ハ其議決ノ方法カ法令又ハ定款ニ反スルトキハ株主、取締役又ハ監査役ハ

訴ヲ以テノミ其決議ノ無効ヲ主張スルコトヲ得
株主ハ總會ニ於テ決議ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキ又
ハ正當ノ理由ナクシテ總會ニ出席スルコトヲ拒マレ
タルトキニ限リ又株主カ總會ニ出席セサル場合ニ於
テハ自己ニ對スル總會招集ノ手續カ法令又ハ定款ニ
反スルコトヲ理由トスルトキニ限リ前項ノ訴ヲ提起
スルコトヲ得

第九十九條ノ三及ヒ第九十九條ノ四ノ規定ハ前二項
ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十三條ノ二 決議無効ノ訴ハ決議ノ日ヨリ一個
月内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

口頭辯論ハ前項ノ期間ヲ經過シタル後ニ非サレハ之
ヲ開始スルコトヲ得ス

訴ノ提起及ヒ口頭辯論ノ期日ハ取締役遲滯ナク之ヲ
公告スルコトヲ要ス

第六十三條ノ三 株主カ決議無効ノ訴ヲ提起シタル
トキハ會社ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ
要ス但其株主カ取締役又ハ監査役ナルトキハ此限ニ
在ラス

第六十三條ノ四 決議シタル事項ノ登記アリタル場
合ニ於テ其決議ヲ無効トスル判決カ確定シタルトキ
ハ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ
要ス

第六十四條ニ左ノ一項ヲ加フ
會社ト取締役トノ間ノ關係ハ委任ニ關スル規定ニ從

第七十六條ノ末尾ニ「此場合ニ於テハ民法第八條
ノ規定ヲ適用セス」ヲ加フ

第七十七條 取締役カ其任務ヲ怠リタルトキハ其取
締役ハ會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス
取締役カ法令又ハ定款ニ反スル行為ヲ爲シタルトキ
ハ株主總會ノ決議ニ依リタル場合ト雖モ其取締役ハ
第三者ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第七十八條中「其株券ヲ供託シ且」ヲ削ル

第八十條 監査役ノ任期ハ二年ヲ超ユルコトヲ得ス

第八十六條 監査役カ會社又ハ第三者ニ對シテ損害
賠償ノ責ニ任スヘキ場合ニ於テ取締役モ亦其責ニ任
スヘキトキハ其監査役及取締役ハ之ヲ連帶債務者ト
ス

第八十七條中「其株券ヲ供託シ且」ヲ削ル

第八十八條 削除

第八十九條 第六十四條、第六十六條但書、第
百六十七條、第六十七條ノ二、第七十七條及第
百七十九條ノ規定ハ監査役ニ之ヲ準用ス

第九十八條第二項ノ末尾ニ「此總會ニ於テハ前項ノ
調査ヲ爲サシムル爲メ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ
得」ヲ加フ

第二百條ノ二 會社ハ前ニ募集シタル社債總額ノ拂込
ヲ爲サシメタル後ニ非サレハ更ニ社債ヲ募集スルコ
トヲ得ス

第二百三條 社債募集ニ應セントスル者ハ社債申込證

第六十六條 但書ヲ左ノ如ク改ム
但定款ヲ以テ任期中ノ最終ノ配當期ニ關スル定時總
會ノ終結ニ至ルマテ其任期ヲ伸縮スルコトヲ妨ケス

第六十七條ノ二 取締役ノ任務カ終了シタル場合ニ
於テ法律又ハ定款ニ定メタル員數ノ取締役ナキニ至
リタルトキハ退任シタル取締役ハ破産及禁治産ノ場
合ヲ除ク外新ニ選任セラレタル取締役カ就職スルマ
テ仍ホ取締役ノ權利義務ヲ有ス

第七十條 定款又ハ株主總會ノ決議ヲ以テ取締役中
會社ヲ代表スヘキ者ヲ定メス又ハ數人ノ取締役カ共
同シ若ハ取締役カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘ
キコトヲ定メサルトキハ取締役ハ各自會社ヲ代表ス
第三十條ノ二第二項及第六十二條ノ規定ハ取締役ニ
之ヲ準用ス

七十二條ノ二 會社ノ株主ニ對スル通知又ハ催告
ハ株主名簿ニ記載シタル株主ノ住所又ハ其者カ會社
ニ通知シタル住所ニ宛ツルヲ以テ足ル
前項ノ通知又ハ催告ハ通常其到達スヘカリシ時ニ到
達シタルモノト看做ス

第七十三條ノ中第六號ノ次ニ左ノ二號ノ加ヘ第七號
ヲ第九號トシ以下順次繰下ク
七 數回ニ分チテ社債ノ拂込ヲ爲サシムルトキハ
其拂込ノ金額及時期
八 各社債ニ付キ拂込ミタル金額及拂込ノ年月日

二通ニ其引受クヘキ社債ノ數及住所ヲ記載シ之ニ署
名スルコトヲ要ス

社債申込證ハ取締役之ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載ス
ルコトヲ要ス

一 會社ノ商號

二 第七十三條第三號乃至第七號ニ掲ケタル事
項

三 社債發行ノ價額又ハ其最低價額

四 會社ノ資本及拂込ミタル株金ノ總額

五 最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財產
ノ額

六 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其償還ヲ了ヘサ
ル總額

社債發行ノ最低價額ヲ定メタル場合ニ於テハ社債應
募者ハ社債申込證ニ應募價額ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百三條ノ二 前條ノ規定ハ契約ニ依リ社債ノ總額
ヲ引受クル場合ニハ之ヲ適用セス社債募集ノ委託ヲ
受ケタル者カ自ラ社債ノ一部ヲ引受クル場合ニ於テ
其一部ニ付キ亦同シ

第二百四條 社債ノ募集カ完了シタルトキハ取締役ハ
遲滯ナク各社債ニ付キ其全額又ハ第一回ノ拂込ヲ爲
サシムルコトヲ要ス

第二百四條ノ二 社債募集ノ委託ヲ受ケタル者ハ自己
ノ名ヲ以テ會社ノ爲メニ第二百三條第二項及前條ニ
定メタル行為ヲ爲スコトヲ得

第二百四條ノ三 取締役ハ第二百四條ノ拂込アリタル日ヨリ二週間内ニ本店及支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 第七十三條第三號乃至第六號ニ掲ケタル事項ニ各社債ニ付キ拂込ミタル金額

第五十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

外國ニ於テ社債ヲ募集シタル場合ニ於テ登記スヘキ事項カ外國ニ於テ生シタルトキハ登記ノ期間ハ其通知ノ到達シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第二百五條 債券ハ社債全額ヲ拂込アリタル後ニ非サレハ之ヲ發行スルコトヲ得ス

債券ニハ會社ノ商號及第七十三條第二號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ取締役之ニ署名スルコトヲ要ス

第二百六條中「讓渡」ヲ「移轉」ニ「讓受人」ヲ「取得者」ニ改ム

第二百七條ノ二 第七十二條ノ二ノ規定ハ社債應募者又ハ社債權者ニ對スル通知及催告ニ之ヲ準用ス

第二百八條ニ左ノ一項ヲ加フ

定款ノ變更ニ關スル議案ノ要領ハ第五十六條ニ定メタル通知及公告ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百九條第一項ニ左ノ但書ヲ加ヘ第二項中「一个月ヲ下ラサル期間内」ヲ「一个月内」ニ改ム

但第六十一條第二項ノ規定ニ依リテ株券ヲ供託セサル者ハ總株主ノ員數ニ之ヲ算入セス

左ノ一項ヲ加フ

第五十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百九條 第二百二十六條第一項、第三項、第二百十六條ノ二乃至第三百十條、第四百十二條及第四百十七條第二項ノ規定ハ新株發行ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十條ノ二 資本減少ノ爲メ株式ヲ併合スル場合ニ於テハ會社ハ株主ニ對シ一定ノ期間内ニ株券ヲ會社ニ提供スヘキ旨及其期間内ニ之ヲ提供セサルトキハ株主ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ通知スルコトヲ得但

其期間ハ三箇月ヲ下ルコトヲ得ス
第二百二十條ノ三 會社カ前條ニ定メタル手續ヲ踐ミタルモ株主カ株券ヲ提供セサルトキハ其權利ヲ失フ株主カ株券ヲ提供シタル場合コ於テ併合ニ適セサル株アルトキハ其株ニ付キ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ會社ハ新ニ發行シタル株式ヲ競買シ且株數ニ應シテ其代金ヲ從前ノ株主ニ交付スルコトヲ要ス

第二百二十條ノ四 第五十二條第三項及第五十三條ノ二ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十條ノ五 株式併合ノ場合ニ於テ從前ノ株式ヲ目的トスル質權ハ併合ニ因リテ株主カ受クヘキ株式及金錢ノ上ニ存在ス

第二百二十三條 削除

第二百二十五條ニ左ノ二項ヲ加フ

第二百二十條ノ二乃至第二百二十條ノ五ノ規定ハ會

第二百十二條ノ二 會社カ其資本ヲ増加スル場合ニ於テ金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者アルトキハ其者、其財産ノ種類價格及之ニ對シテ與フル株式ノ數ハ資本増加ノ決議ト同時ニ之ヲ決議スルコトヲ要ス

第二百十二條ノ三 株式申込證ハ取締役之ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 會社ノ商號

二 増加スヘキ資本ノ總額

三 資本増加ノ決議ノ年月日

四 第一回拂込ノ金額

五 額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行スル場合ニ於テハ其旨

六 前條ノ規定ニ依リテ決議シタル事項

七 優先株ヲ發行スル場合ニ於テハ其ノ種類及其各種ノ株式ノ數

八 一定ノ時期マテニ資本増加ノ登記ヲ爲ササル

トキハ株式ノ申込ヲ取消スルコトヲ得ヘキコト

數種ノ優先株ヲ發行スル場合ニ於テハ株式申込人ハ株式申込證ニ其引受クヘキ株式ノ種類及各種ノ株式ノ數ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百十四條 第一項第三項ヲ削ル

第二百十五條 削除

第二百十七條中「其株主ノ權利」ヲ「其種類及其各種ノ株式ノ數」ニ「前項」ヲ「第一項」ニ改メ第一項ノ次ニ

社ノ合併ニ因ル株式併合ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十條ノ五ノ規定ハ株式ヲ併合セサル場合ニ於テ合併ニ因リ消滅スル會社ノ株式ヲ目的トスル質權ニ之ヲ準用ス

第二百二十七條第二項ヲ削ル

第二百二十七條ノ二 清算人ハ財産目錄、貸借對照表及事務報告書ヲ作り定時總會ノ會日ヨリ一週間前ニ之ヲ監査役ニ提出スルコトヲ要ス

第二百三十條第二項ヲ削ル

第二百三十一條 削除

第二百三十二條 會社カ事業ニ著手シタル後株主、取締役又ハ監査役カ其設立ノ無効ナルコトヲ發見シタルトキハ訴ヲ以テノミ其無効ヲ主張スルコトヲ得

第九十九條ノ三乃至第九十九條ノ六及第六十三條ノ二第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十四條 第八十四條、第八十九條乃至第九十三條、第九十三條ノ二第二項、第九十五條、第九十七條、第九十九條、第五百五十七條乃至第六十條ノ二、第六十三條乃至第六十三條ノ四、第六十四條

第二項、第六十七條ノ二、第七十條、第七十一條、第七十六條乃至第七十九條、第八十一條、第八十三條及民法第七十九條、第八十條ノ規定ハ株式會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十八條中「第四號」ノ下ニ「第五號」ヲ加フ

第二百四十二條ニ左ノ一號ヲ加フ

七 數人ノ無限責任社員カ共同シ又ハ無限責任社員カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

第二百五十一條中「第二百二十七條、第一項及第二十七條第一項」ヲ「第二百二十七條、第二百二十七條ノ二及第二百三十條」ニ改ム

第二百五十三條第二項ヲ左ノ如ク改ム

第七十八條、第七十九條第一項、第二項及第八十三條ノ三ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百五十四條 削除

第二百五十九條中「第一百五十五條第一項」ノ下ニ「第二百五十五條第一項」ヲ加ヘ「株式ノ發行及其株式若ハ社債ノ讓渡」ヲ「株券又ハ債券ノ發行及其株式又ハ社債ノ移轉」ニ改ム

第二百六十一條 發起人、取締役、株式合資會社ノ業務ヲ執行スル社員、監査役、檢査役又ハ株式會社若ハ株式合資會社ノ支配人ハ左ノ場合ニ於テハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 會社ノ設立若ハ資本ノ増加又ハ其登記ヲ爲シ若ハ之ヲ爲サシムル目的ヲ以テ株式總數ノ引受又ハ資本ニ對スル拂込額ニ付キ裁判所又ハ總會ヲ欺罔シタルトキ

二 何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス會社ノ計算ニ於テ不正ニ其株式ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシ

八 第二百條ノ規定ニ違反シテ社債ヲ募集シ又ハ

第二百五條第一項ノ規定ニ違反シテ債券ヲ發行シタルトキ

九 第二百六十條ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違反シタルトキ

十 會社カ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタル場合ニ於テ清算人ニ事務ヲ引渡ヲ爲ササルトキ

十一 清算ノ終了ヲ遅延セシムル目的ヲ以テ民法第七十九條ノ期間ヲ不當ニ定メタルトキ

十二 民法第七十九條ノ期間内ニ或債權者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ第九十五條ノ規定ニ違反シテ會社財產ヲ分配シタルトキ

第二百六十二條ノ二 發起人會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス但其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

一 本編ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

二 本編ニ定メタル公告若クハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若クハ通知ヲ爲シタルトキ

三 本編ノ規定ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ正當ノ理由ナクシテ閱覽セシメザリシトキ

四 本編ノ規定ニ依ル檢査又ハ調査ヲ妨ケタルトキ

五 第四十六條ノ規定ニ違反シテ開業ノ準備ニ著

テ之ヲ受ケタルトキ

三 法令又ハ定款ノ規定ニ違反シテ利益又ハ利息ノ配當ヲ爲シタルトキ

四 會社ノ營業ノ範圍外ニ於テ投機取引ノ爲メニ會社財產ヲ處分シタルトキ

前項ノ規定ハ刑法ニ正條アル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百六十二條 發起人、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

一 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二 第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ違反シテ合併、會社財產ノ處分、資本ノ減少又ハ組織ノ變更ヲ爲シタルトキ

三 檢査役ノ調査ヲ妨ケタルトキ

四 第二百五十一條第二項ノ規定ニ違反シテ株式ヲ消却シタルトキ

五 第一百五十五條第一項ノ規定ニ違反シテ株券ヲ無記名式ト爲シタルトキ

六 第七十四條第二項又ハ民法第八十一條ノ規定ニ違反シ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

七 第七十四條ノ規定ニ違反シ準備金ヲ積立テサルトキ

手シタルトキ

六 第二百二十六條第二項、第二百三條第二項、第二百十二條ノ二第一項及第二百三十八條第二項ノ規定ニ違反シ株式申込證又ハ社債申込證ヲ作ラス之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

七 第四百十七條第一項又ハ第二百十七條第三項ノ規定ニ違反シテ株券ヲ發行シタルトキ

八 株券又ハ債券ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

九、定款、株主名簿、社債原簿、總會ノ決議錄、財產目錄、貸借對照表、營業報告書、事務報告書、損益計算書及準備金並ニ利益又ハ利息ノ配當ニ關スル議案ヲ本店又ハ支店ニ備ヘ置カス之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

十 第七十四條第一項又ハ第九十八條第二項ノ規定ニ違反シ株主總會ヲ招集セサルトキ

第二百六十二條ノ三 第四十四條ノ三第二項ノ規定ニ依リテ選任セラレタル者ハ本章ノ適用ニ付テハ之ヲ發起人ト看做ス

第二百八十條 削除

第二百八十一條中「金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル指圖證券又ハ無記名證券」ヲ「金錢其他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券」ニ改ム

指圖證券又ハ無記名證券」ヲ「金錢其他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券」ニ改ム

第二百八十二條 第四百四十一條、第四百四十九條ノ二、第四百五十七條、第四百六十一條及ヒ第四百六十四條ノ規定ハ金錢其他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ニ之ヲ準用ス

第二百八十四條中「債務者ノ所有物」ヲ「債務者所有ノ物又ハ有價證券ニ改ム

第二百八十五條ノ二 第四十二條第二項ニ定メタル會社ノ行爲ニハ商行爲ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百二十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

運送取扱人カ委託者ノ請求ニ依リテ貨物引換證ヲ作リタルトキハ自ら運送ヲ爲スモノト看做ス

第三百三十四條ノ二 貨物引換證ヲ作リタルトキハ運送品ニ關スル處分ハ貨物引換證ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三百三十四條ノ三 貨物引換證ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スヲ得但貨物引換證ニ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

第三百三十五條 貨物引換證ニ依リ運送品ヲ受取ルコトヲ得ヘキ者ニ貨物引換證ヲ引渡シタルトキハ其引渡ハ運送品ノ上ニ行使スル權利ノ取得ニ付キ運送品ノ引渡ト同一ノ效力ヲ有ス

第三百四十一條中「滅失又ハ毀損」ヲ「滅失、毀損又ハ延著」ニ改ム

第三百六十三條 削除

第三百六十五條 第三百三十四條ノ二及ヒ第三百三十

五條ノ規定ハ預證券及質入證券ニ之ヲ準用ス

第三百六十七條ノ二 預證券ノ所持人ハ寄託物ヲ以テ預證券ニ記載シタル債權額及ヒ利息ヲ辨済スル義務ヲ負フ

第三百六十七條ノ三 質入證券所持人ノ債權ノ辨済ハ倉庫營業者ノ營業所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三百七十二條 質入證券ノ所持人ハ先ツ寄託物ニ付キ辨済ヲ受ケ尙ホ不足アルトキハ其裏書人ニ對シテ不足額ヲ請求スルコトヲ得

第四百八十七條ノ二乃至第四百八十八條ノ四第四百八十一條第四百九十二條、及第四百九十五條ノ規定ハ前項ニ定メタル不足額ノ請求ニ之ヲ準用ス

第三百七十四條 質入證券所持人ノ預證券所持人ニ對スル請求權ハ辨済期ヨリ一年質入證券裏書人ニ對スル請求權ハ寄託物ニ付キ辨済ヲ受ケタル日ヨリ六箇月質入證券裏書人ノ其前者ニ對スル請求權ハ償還ヲ爲シタル日ヨリ六箇月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第三百七十七條中「報酬」ヲ「保管料」ニ改ム

第三百八十條第二項ヲ削ル

第三百八十八條ノ二 寄託物カ同種類ニシテ同一ノ品質ヲ有シ且分割スルコトヲ得ヘキ物ナルトキハ預證券ノ所持人ハ債權額ノ一部及ヒ其辨済期マテノ利息ヲ供託シ其割合ニ應ジテ寄託物ノ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ倉庫營業者ハ供託ヲ受ケタ

ル金額及ヒ返還シタル寄託物ノ數量ヲ預證券ニ記載シ且其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

前項ニ定メタル寄託物ノ一部出庫ニ關スル費用ハ預證券ノ所持人ノ負擔ス

第三百八十條ノ三 前二條ノ場合ニ於テ質入證券ノ所持人ノ權利ハ供託金ノ上ニ存在ス

第三百七十一條ノ規定ハ前條第一項ノ供託金ヲ以テ質入證券ニ記載シタル債權ノ一部ヲ辨済シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百八十一條 第二百八十六條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ寄託者又ハ預證券ノ所持人カ寄託物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テ質入證券ノ所持人ノ權利ハ競買代金ノ上ニ存在ス

第三百七十條及第三百七十七條一項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百八十三條ノ二 倉庫營業者ハ寄託者ノ請求アルトキハ預證券及ヒ質入證券ニ代ヘテ倉庫證券ヲ交付スルコトヲ要ス

倉庫證券ニハ預證券ニ關スル規定ヲ準用ス

第三百八十三條ノ三 倉庫證券ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ質權者ノ承諾アルトキハ寄託者ハ債權ノ辨済期前ト雖モ寄託物ノ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ倉庫營業者ハ返還シタル寄託物ノ種類、品質及ヒ數量ヲ倉庫證券ニ記載シ且

其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第三百九十八條 削除

第三百九十九條ノ二 保險契約ノ當時保險契約者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事項ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付不實ノ事ヲ告ケタルトキハ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但保險者カ其事實ヲ知り又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキハ此限ニ在ラス

前項ノ解除權ハ保險者カ解除ノ原因ヲ知リタル時ヨリ一箇月間之ヲ行ハサルトキハ消滅ス契約ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第三百九十九條ノ三 前條ノ規定ニ依リ保險者カ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

保險者ハ危險發生ノ後解除ヲ爲シタル場合ニ於テモ損害ヲ填補スル責ニ任セス若シ既ニ保險金額ノ支拂ヲ爲シタルトキハ其返還ヲ請求スルコトヲ得但シ保險契約者ニ於テ危險ノ發生カ其告ケ又ハ告ケザリシ事實ニ基カサルコトヲ證明シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百十七條中「保險金額支拂ノ義務」ノ下ニ「及保險料返還ノ義務」ヲ加フ

第四百二十八條 他人ノ死亡ニ因リテ保險金額ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ定ムル保險契約ニハ其者ノ同意アルコトヲ要ス但シ被保險者ガ保險金額ヲ受取ルヘキ

者ナルトキハ此限ニ在ラス
 前項ノ保險契約ニ因リテ生シタル權利ノ讓渡ニハ被
 保險者ノ同意アルコトヲ要ス保險契約者カ被保險者
 ナル場合ニ於テ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ其權利ヲ
 讓渡ストキ又ハ第一項但書ノ場合ニ於テ權利ヲ讓受
 ケタル者カ更ニ之ヲ讓渡ストキ亦同シ
 第四百二十八條ノ二 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ第三
 者ナルトキハ其第三者ハ當然保險契約ノ利益ヲ享受
 ス但シ保險契約者カ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ
 其意思ニ從フ
 前項但書ノ規定ニ依リ保險契約者カ保險契約者カ保
 險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定又ハ變更スル權利ヲ有
 スル場合ニ於テ其權利ヲ行ハスシテ死亡シタルトキ
 ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ權利ハ之ニ因リテ確定
 ス
 第四百二十八條ノ三 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ被保
 險者ニ非サル第三者ナル場合ニ於テ其者カ死亡シタ
 ルトキハ保險契約者ハ更ニ保險金額ヲ受取ルヘキ者
 ヲ指定スルコトヲ得
 保險契約者カ前項ニ定メタル權利ヲ行ハスシテ死亡
 シタルトキハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ相続人ヲ以
 テ保險金額ヲ受取ルヘキ者トス
 第四百二十八條ノ四 保險契約者カ契約後保險金額ヲ
 受取ルヘキ者ヲ指定又ハ變更シタルトキハ保險者ニ
 其指定又ハ變更ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ保險

者ニ對抗スルコトヲ得ス
 第四百二十八條 第一項ノ規定ハ前項ノ指定及ヒ變更
 ニ之ヲ準用ス
 第四百二十九條 保險契約ノ當時保險契約者又ハ被保
 險者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ
 告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ヲ告ケタルトキ
 ハ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但保險者カ其
 事實ヲ知り又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキハ
 此限ニ在ラス
 第三百九十九條ノ二 第二項及第三百九十九條ノ三ノ
 規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第四百三十條中「及其者ト被保險者トノ親族關係」ヲ
 削ル
 第四百三十一條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ
 三 保險契約者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シタ
 ルトキ
 同條第二項ヲ左ノ如ク改ム
 前項第一號及第二號ノ場合ニ於テハ保險者ハ被保險
 者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ保險契約者ニ拂戻スコ
 トヲ要ス
 第四百三十二條ノ二 被保險者ノ爲メニ積立テタル金
 額ヲ拂戻ス義務ハ二年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因
 リテ消滅ス
 第四百三十三條中「第三百九十九條乃至第四百一條」
 ヲ「第三百九十九條、第四百條、第四百一條」ニ改

メ「積立テタル金額」ノ下ニ「保險契約者」ヲ加フ
 第四百四十三條中「六箇月」ヲ「一年」ニ改ム
 第四百四十九條ノ二 振出人ハ爲替手形ニ受取人ノ氏
 名又ハ商號ト共ニ其爲替手形ノ所持人カ支拂ヲ受ク
 ルコトヲ得ヘキ旨ヲ記載スルコトヲ得
 前項ノ爲替手形ハ無記名式ノ者ト同一ノ效力ヲ有ス
 第四百四十九條ノ三 第四百四十九條ノ規定ハ前條第
 一項ニ定メタル爲替手形ニ之ヲ準用ス
 第四百五十二條中「其爲替手形ニ記載シタル支拂人
 ノ住所」ヲ「支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル
 地」ニ改ム
 第四百五十二條ノ二 支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シ
 タル地ハ之ヲ其ノ營業所又ハ住所ノ所在地ト看做ス
 第四百五十三條 振出人ハ支拂人ニ非サル者ヲ以テ支
 拂擔當者トシテ爲替手形ニ記載スルコトヲ得
 第四百六十三條中「質入ヲ爲シ又ハ其取立ノ委任ヲ爲
 スコト」ヲ「取立ヲ委任スルコト」ニ改ム
 第四百六十四條ニ左ノ一項ヲ加フ
 抹消シタル裏書ハ裏書ノ連續ニ付テハ其記載ナキモ
 ノト看做ス
 第四百七十二條中「支拂地カ支拂人ノ住所ト異ナル
 場合ニ於テ」ヲ削ル
 第四百七十五條 爲替手形ノ所持人カ前條ノ請求ヲ爲
 サント欲スルトキハ引受拒絕證書ヲ作ラシムルコト
 ヲ要ス

第四百七十六條 擔保ノ請求ヲ受ケタル裏書人ハ其前
 者ニ對シ其擔保スヘキ金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔
 保ヲ請求スルコトヲ得
 第四百七十八條 第二項ヲ削ル
 第四百八十條第一項但書ヲ左ノ如ク改ム
 但シ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス
 第四百八十四條中「謄本」ヲ「寫本」ニ改ム
 第四百八十七條第一項ヲ左ノ如ク改ム
 所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ滿期日
 又ハ其後二日內ニ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ支拂
 人ニ呈示シ若シ手形金額ノ支拂ナキトキハ同一期間
 內ニ支拂拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス但シ此期
 間ニハ休日ヲ算入セス
 第四百八十七條ノ二 前條第一項ノ場合ニ於テハ所持
 人ハ其直接ノ前者ニ對シ拒絕證書作成ノ日又ハ其後
 二日內ニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス
 第四百八十八條 裏書人カ其後者ヨリ償還請求ノ通知
 ヲ受ケタルトキハ其直接ノ前者ニ對シ通知ヲ發ケタル日
 又ハ其後二日內ニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス
 第四百八十八條ノ二 所持人又ハ裏書人カ其直接ノ前
 者ニ非サル前者ニ對シテ償還請求ノ通知ヲ發シタル
 トキハ其後後者ニ對シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ
 賠償スル責任シ且利息及ヒ費用ノ償還ヲ請求スル
 權利ヲ失フ
 所持人又ハ裏書人カ其前者ノ何レニ對シテモ通知ヲ

發セザリシトキハ其前者全員ニ對スル權利義務ニ付
キ前項ノ規定ヲ準用ス

第四百八十八條ノ三 裏書人カ裏書ヲ爲スニ當リ裏書
地ヲ記載セザリシトキハ償還請求ノ通知ハ其直接ノ

前者ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ要ス
前條ノ規定ハ裏書地ヲ記載セザリシ裏書人ニ對スル
權利義務ニハ之ヲ適用セス振出人カ振出地ヲ記載セ
ザリシトキ亦同シ

第四百八十八條ノ四 所持人又ハ裏書人カ其前者ニ
對シ第四百八十七條ノ二又ハ第四百八十八條ノ期間
内ニ書面ヲ發送シタル事實アルトキハ其事實ニ付キ
通信官署又ハ公衆通信取扱所ノ證アル場合ニ限り其
書面ハ之ヲ償還請求ノ通知書ト推定ス

第四百八十九條ノ二 支拂拒絶證書ノ作成ヲ免除シタ
ル者ニ對シテハ所持人ハ支拂拒絶證書作成ノ期間内
ニ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ呈示シタル者ト推定ス

第四百九十條中「支拂地カ支拂人ノ住所ト異ナル場合
ニ於テ」ヲ削リ「支拂拒絶證書ヲ作ラシメ且償還請
求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス」ヲ「支拂拒絶證書ヲ
作ラシムルコトヲ要ス」ニ改ム

第四百九十一條中「住所」ヲ「營業所又ハ住所ノ所在
地」ニ改ム

第四百九十四條中「住所」ヲ「營業所又ハ住所ノ所在
地」ニ改ム

第四百九十六條 削除

之ヲ爲スヲ以テ足ル

前項ノ規定ニヨリテ支拂拒絶證書ヲ作リタルトキハ
他ノ複本又ハ謄本ニ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第五百十五條ノ四 支拂拒絶ノ場合ヲ除外拒絶證書
ノ作成ハ爲替手形若ハ其謄本ノ寫本又ハ附箋ニ依リ
テ之ヲ爲ス

第五百十五條ノ五 爲替手形複本原本又ハ爲替手形若
ハ其謄本ノ寫本ニ依リテ拒絶證書ヲ作ル場合ニ於テ
ハ第五百十五條ニ掲ケタル事項ハ其裏面ニ記載シタ
ル事項ニ接續シテ之ヲ記載スルコトヲ要ス

附箋ニ依ル場合ニ於テハ公證人又ハ執達吏ハ其接目
ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第五百十七條第一項ヲ左ノ如ク改ム

公證人又ハ執達吏カ拒絶證書ヲ作リタルトキハ其謄
本ニ左ノ事項ヲ記載シ之ヲ其役場ニ備フルコトヲ要ス

一 手形金額

二 振出人、支拂人及受取人ノ氏名又ハ商號

三 振出ノ年月日

四 満期日及支拂地

五 支拂擔當者、豫備支拂人又ハ參加引受人アル
トキハ其氏名又ハ商號

第五百二十六條ノ二 振出地ハ之ヲ振出人ノ營業所又
ハ住所ノ所在地ト看做ス

第五百二十九條中「第四百五十七條、第四百五十九條
乃至」ヲ削ル

第五百五條中「満期日又ハ其後二日」ヲ「支拂拒絶證
書作成ノ期間内」ニ改ム

第五百七條中「第四百七十五條」ヲ「第四百七十六條」
改ム

第五百八條中「満期日又ハ其後二日」ヲ「支拂拒絶證
書作成ノ期間内」ニ改ム

第五百十五條 拒絶證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ公證人又
ハ執達吏之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

一 拒絶者及ヒ被拒絶者ノ氏名又ハ商號

二 拒絶者ニ對スル請求ノ趣旨及拒絶者カ其請求
ニ應セザリシコト、拒絶者ニ面會スルコト能ハ
ザリシコト、又ハ其營業所、住所若クハ居所カ
知レザリシコト

三 前號ノ請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハザリ
シ地及ヒ年月日

四 法定ノ場所外ニ於テ拒絶證書ヲ作ルトキハ拒
絶者カ之ヲ承諾シタルコト

五 參加引受又ハ參加支拂アルトキハ參加ノ種類
及參加人並ニ被參加人ノ氏名又ハ商號

六 拒絶證書作成ノ場所及年月日

第五百十五條ノ二 支拂拒絶證書ノ作成ハ爲替手形又
ハ附箋ニ依リテ之ヲ爲ス

第五百十五條ノ三 爲替手形ノ數通ノ複本又ハ原本及
謄本ヲ呈示シタル場合ニ於テ支拂拒絶證書ヲ作ルト
キハ其作成ハ一通ノ複本若クハ原本又ハ附箋ニヨリ

第五百三十一條 削除

第五百三十三條中「一週間」ヲ「十日」ニ改ム

第五百三十三條ノ二 小切手ノ振出人ハ呈示期間經過
前ニハ支拂ノ委託ヲ取消スコトヲ得ス

支拂人ハ呈示期間經過ノ後ト雖モ小切手ノ支拂ヲ爲
スコトヲ得

第五百三十三條ノ三 小切手ノ所持人カ支拂人ノ加入
シタル手形交換所ニ小切手ヲ提出シタルトキハ支拂
地ニ於テ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示シタルト同一ノ
效力ヲ有ス

第五百三十四條中「前條第一項ニ定メタル期間」ヲ「呈
示期間」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

手形交換所ニ於テ呈示期間内ニ小切手ノ提出及支拂
拒絶アリタル旨ヲ證明シタルトキ亦同シ

第五百三十四條ノ二 前二條ノ手形交換所ハ司法大臣
之ヲ指定ス

第五百三十六條 振出人カ支拂人ヲシテ支拂ヲ爲サシ
ムルコトヲ得ル金額ヲ超エテ小切手ヲ振出シタルト
キハ五圓以上千圓以下過料ニ處ス

第五百三十七條 第四百四十六條、第四百四十七條、
第四百四十九條ノ二、第四百五十二條、第四百五十二
條ノ二、第四百五十五條、第四百五十七條、第四百五
十九條乃至第四百六十四條、第四百八十三條、第四
百八十四條、第四百八十六條乃至第四百八十九條ノ
二、第四百九十一條、第四百九十二條、第四百九十五

條、第五百十四條乃至第五百十五條ノ二、第五百十五條ノ五及第五百十七條ノ規定ハ小切手ニ之ヲ準用ス
第五百四十一條中「讓渡」ヲ「移轉」ニ改ム
第五百四十四條ノ二、登記シタル船舶ノ委付ハ登記ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百四十五條中「前條」ヲ「第五百四十四條」ニ改ム
第五百六十八條中「船舶ノ修繕、救援又ハ救助ノ費用」ヲ「船舶ノ修繕費、救助料」ニ改ム
第五百九十九條中「救援」ヲ削ル
第六百六條中「立替金」ノ下ニ「碇泊料」ヲ加ヘ、「救援」ヲ削ル

第六百二十二條中「又ハ所持人ニ運送品ヲ引渡スヘキコト」ヲ削ル
第六百二十九條 第三百三十四條乃至第三百三十五條及第三百四十四條ノ規定ハ船荷證券ニ之ヲ準用ス
第六百四十九條中「救助ノ費用ヲ救助料」ニ改ム
第五編中第四章ノ次ニ左ノ一章ヲ加ヘ「第五章」ヲ「第六章」ニ「第六章」ヲ「第七章」ニ改ム

第五章 海難救助
第六百五十二條ノ二 船舶又ハ積荷ノ全部又ハ一部カ海難ニ遭遇セル場合ニ於テ義務ヲシテ之ヲ救助シタルモノハ其結果ニ對シテ相當ノ救助料ヲ請求スルコトヲ得
第六百五十二條ノ三 救助料ニ付キ特約ナキ場合ニ於テ其額ニ付キ爭アルトキハ危險ノ程度、救助ノ結果

第六百五十二條ノ九 海員カ前條ノ分配案ニ對シテ異議ノ申立ヲ爲サントスルトキハ其告示アリタル後異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル最初ノ港ノ管海官廳ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
管海官廳ハ異議ヲ理由アリトスルトキハ分配案ヲ更正スルコトヲ得
船長ハ異議ノ落著前ニハ救助料ノ支拂ヲ爲スコトヲ得ス
第六百五十二條ノ十 船長カ分配案ノ作成ヲ怠リタルトキハ管海官廳ハ海員ノ請求ニ因リ船長ニ對シテ分配案ノ作成ヲ命スルコトヲ得
長カ前項ノ命令ニ從ハサルトキハ管海官廳ハ分配案ヲ作ルコトヲ得
第六百五十二條ノ十一 左ノ場合ニ於テハ救助者ハ救助料ヲ請求スルコトヲ得ス
一 故意又ハ過失ニ因リテ海難ヲ惹起シタトキ
二 正當ノ事由ニ因リテ救助ヲ拒マレタルニ拘ハラス強ヒテ之ニ從事シタルトキ
三 救助シタル物品ヲ隠匿又ハ濫ニ之ヲ處分シタルトキ
第六百五十二條ノ十二 救助者ハ其債權ニ付キ救助シタル積荷ノ上ニ先取特權ヲ有ス
前項ノ先取特權ニハ船舶債權者ノ先取特權ニ關スル規定ヲ準用ス
第六百五十二條ノ十三 船長ハ救助料ノ債務者ニ代ハ

救助ノ爲メニ要シタル勞力及ヒ費用其他一切ノ事情ヲ斟酌シテ裁判所之ヲ定ム
第六百五十二條ノ四 海難ニ際シ契約ヲ以テ救助料ヲ定メタル場合ニ於テ其額カ著シク不相當ナルトキハ當事者ハ其増加又ハ減少ヲ請求スルコトヲ得前條ノ規定ヲ準用ス
第六百五十二條ノ五 救助料ノ額ハ特約ナキトキハ救助セラレタル物ノ價格ニ超ユルコトヲ得ス
先順位ノ先取特權アルトキハ救助料ノ額ハ先取特權者ノ債權額ヲ控除シタル殘額ニ超ユルコトヲ得ス
第六百五十二條ノ六 數人カ共同シテ救助ヲ爲シタル場合ニ於テ救助料分配ノ割合ニ付テハ第六百五十二條ノ三ノ規定ヲ準用ス
人命ノ救助ニ從事シタル者モ亦前項ノ規定ニ從ヒテ救助料ノ分配ヲ受クルコトヲ得
第六百五十二條ノ七 救助ニ從事シタル船舶カ汽船ナルトキハ救助料ノ三分ノ二帆船ナルトキハ其三分ノ一ヲ船舶所有者ニ支拂ヒ其殘額ハ折半シテ之ヲ船長及海員ニ支拂フコトヲ要ス
前項ノ規定ニ依リテ海員ニ支拂フヘキ金額ノ分配ハ船長之ヲ行フ此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス
前二項ノ規定ニ反スル契約ハ無効トス
第六百五十二條ノ八 船長カ前條第二項ノ規定ニ依リ救助料ノ分配ヲ爲スニハ航海ヲ終ハルマテニ分配案ヲ作り之ヲ海員ニ告示スルコトヲ要ス

リテ其支拂ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
救助料ニ關スル訴訟ニ於テハ船長ハ自ラ原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得但シ其訴ニ付キ言渡シタル判決ハ救助料ノ債務者ニ對シテモ其效力ヲ有ス
第六百五十二條ノ十四 積荷ノ所有者ハ救助セラレタル物ヲ以テ救助料ヲ支拂フ義務ヲ負フ
第六百五十二條ノ十五 積荷ノ上ニ存スル先取特權ハ債務者カ其積荷ヲ第三取得者ニ引渡シタル後ハ其積荷ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス
第六百五十二條ノ十六 救助料ノ請求權ハ救助ヲ爲シタル時ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス
第六百八十條中「救援並ニ救助ノ費用」ヲ「救助料」ニ改ム

附 則
第一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第二條 本法ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ其施行前ニ生シタル事項ニモ亦之ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リテ生シタル效力ヲ妨ケス
第三條 本法施行前ニ會社カ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ第四十四條ノ三第二項及第三項ノ規定ニ依ルコトヲ要セス
第四條 第九十一條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ清算終了ノ登記ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第六百五十二條ノ九 海員カ前條ノ分配案ニ對シテ異議ノ申立ヲ爲サントスルトキハ其告示アリタル後異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル最初ノ港ノ管海官廳ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
管海官廳ハ異議ヲ理由アリトスルトキハ分配案ヲ更正スルコトヲ得
船長ハ異議ノ落著前ニハ救助料ノ支拂ヲ爲スコトヲ得ス
第六百五十二條ノ十 船長カ分配案ノ作成ヲ怠リタルトキハ管海官廳ハ海員ノ請求ニ因リ船長ニ對シテ分配案ノ作成ヲ命スルコトヲ得
長カ前項ノ命令ニ從ハサルトキハ管海官廳ハ分配案ヲ作ルコトヲ得
第六百五十二條ノ十一 左ノ場合ニ於テハ救助者ハ救助料ヲ請求スルコトヲ得ス
一 故意又ハ過失ニ因リテ海難ヲ惹起シタトキ
二 正當ノ事由ニ因リテ救助ヲ拒マレタルニ拘ハラス強ヒテ之ニ從事シタルトキ
三 救助シタル物品ヲ隠匿又ハ濫ニ之ヲ處分シタルトキ
第六百五十二條ノ十二 救助者ハ其債權ニ付キ救助シタル積荷ノ上ニ先取特權ヲ有ス
前項ノ先取特權ニハ船舶債權者ノ先取特權ニ關スル規定ヲ準用ス
第六百五十二條ノ十三 船長ハ救助料ノ債務者ニ代ハ

第五條 第九十九條ノ三第二項及第九十九條ノ四乃至第九十九條ノ六ノ規定ハ本法施行前ニ提起シタル設立無効ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス但シ其訴ニ付キ爲シタル判決カ本法施行前ニ確定シタルトキハ此限ニ在ラズ

第六條 前二條ノ規定ハ合資會社ニ之ヲ準用ス

第七條 本法施行前ニ株式會社ノ發起人カ定款ヲ作りタル場合ニ於テハ其設立ニハ從前ノ規定ヲ適用ス

第八條 第九十九條ノ三第二項、第九十九條ノ四及第九十九條ノ五ノ規定ハ本法施行前ニ提起シタル決議無効ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス但シ其訴ニ付キ爲シタル判決カ本法施行前ニ確定シタルトキハ此限ニ在ラズ

第九條 第九十九條ノ三第二項、第九十九條ノ四及第九十九條ノ五ノ規定ハ本法施行前ニ提起シタル決議無効ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス

第十條 第九十九條ノ三第二項、第九十九條ノ四及第九十九條ノ五ノ規定ハ本法施行前ニ提起シタル決議無効ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス

第十一條 前二條ノ規定ハ創立總會ノ決議無効ノ訴ニ之ヲ準用ス

第六十三條ノ三ノ規定ハ本法施行前ニ提起シタル創立總會ノ決議無効ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス

第十二條 第六十七條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ選任シタル取締役又ハ監査役ノ任務カ本法施行後ニ終了シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第十三條 第七十七條及第八十六條ノ規定ハ本法施行前ニ選任シタル取締役又ハ監査役ノ行為カ本法施行後ニ在リタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第十四條 本法施行前ニ株式會社カ社債募集ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ從前ノ規定ニ從ヒテ其募集ヲ爲スコトヲ得但シ未タ社債募集ノ公告ヲ爲ササルトキハ第二百三條及第二百四條ノ二及第二百七條ノ二ノ規定ヲ適用ス

第十五條 本法施行前ニ株式會社カ資本増加ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ從前ノ規定ニ從ヒテ其増加ヲ爲スコトヲ得

第十六條 第二百二十條ノ二乃至第二百二十條ノ五ノ規定ハ本法施行前ニ資本減少ノ決議ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス但シ株主總會ノ決議ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス但シ株主總會ノ決議ニ反スルトキハ此限ニ在ラス

第十七條 第二百二十條ノ二乃至第二百二十條ノ五ノ規定ハ券面額五十圓未滿ノ株式ヲ併合スル場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 本法施行前ニ株式會社カ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テモ株主ハ其記名株ヲ讓渡スコトヲ得

第十九條 附則第十六條ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル株式經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

式併合ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十五條第三項ノ規定ハ本法施行前ニ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第二十條 本法施行前ニ株式會社ノ設立ノ無効ナルコトヲ發見シタル場合ニ於テ裁判所カ未タ清算人ヲ選任セザリシトキハ設立無効ノ主張ニ付テハ本法ノ規定ヲ適用ス

第二十一條 附則第九條、第十條、第十二條及第十三條ノ規定ハ株式會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條 附則第四條及第五條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第二十三條 前十六條ノ規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十四條 本法施行前ニ會社ニ關スル從前ノ罰則ヲ適用スヘキ行為アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス

第二十五條 第四百八十七條乃至第四百八十八條ノ二及四百八十八條ノ四ノ規定ハ本法施行前ニ第一ノ質入裏書アリタル質入證券ノ所持人カ本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ其證券ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第二十六條 質入證券所持人ノ裏書人ニ對スル請求權ハ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケタル日カ本法施行前ニ在リタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ六箇月本法施行後ニ在ル場合ニ於テハ辨濟ヲ受ケタル日ヨリ六箇月

ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

質入證券裏書人ノ其前者ニ對スル請求權ハ本法施行前ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ六箇月本法施行後ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其償還ノ日ヨリ六箇月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

本法施行前ニ進行ヲ始メタル時効ノ殘期カ其施行ノ日ヨリ起算シテ六箇月ヨリ短キトキハ時効ハ其殘期ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第二十七條 第三百六十七條ノ三、第三百八十條ノ二及第三百八十條ノ三ノ規定ハ本法施行前ニ作リタル預證券又ハ質入證券ニモ亦之ヲ適用ス但其證券ニ別段ノ意思表示アルトキハ此限ニ在ラス

第二十八條 第四百十七條ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル保險料返還ノ義務ニ付キ其施行後ニ時効カ進行ヲ始ムル場合ニモ亦之ヲ適用ス

本法施行前ニ進行ヲ始メタル時効ノ殘期カ其施行ノ日ヨリ起算シテ二年ヨリ長キトキハ時効ハ其施行ノ日ヨリ二年ヲ經過スルニ因リテ完成ス

殘期ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第二十九條 第四百三十二條乃至第四百二十八條ノ四ノ規定ハ本法施行前ニ爲シタル保險契約ニハ之ヲ適用セズ

第三十條 本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ付キ其施行後ニ引受拒絶證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テハ擔保請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要セス本法施行後ニ擔保ヲ供セサル爲メ拒絶證書ヲ作ラシメタル場合亦同シ

第三十一條 第四百八十七條乃至第四百八十八條ノ二第四百八十八條ノ四及第四百八十九條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ付所持人カ本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第三十二條 第五百十五條乃至第五百十五條ノ五及第五百十七條第一項ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ付キ其施行後ニ拒絶證書ヲ作ル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第三十三條 前三條ノ規定ハ約束手形ニ之ヲ準用ス
第三十四條 第五百三十三條ノ三及第五百三十四條第二項ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル小切手ニ付キ所持人カ本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

附則第三十一條及三十二條ノ規定ハ小切手ニ之ヲ準用ス
第三十五條 第五百四十四條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル原因ニ基キ其施行後ニ委付ヲ爲ス場合ニモ亦之ヲ適用ス

前項ノ手数料ノ半額トス

第六條中「五拾錢」ヲ「壹圓」ニ、「拾五錢」ヲ「貳拾錢」ニ、

改ム

第七條中「第七百三十一條第一項ノ場合」ノ下ニ「又ハ民事訴訟法第七百三十一條第一項ノ決定ニ基キ執行ヲ爲ス場合」ヲ加ヘ「五拾錢」ヲ「壹圓」ニ、「拾五錢」ヲ「貳拾錢」ニ改ム

第七條ノ二 第二條ノ規定ハ假處分ノ執行ノ手数料ニ之ヲ準用ス

第九條第一項但書ヲ削リ同條中「六拾錢」ヲ「七拾錢」ニ、「壹圓五拾錢」ヲ「壹圓八拾錢」ニ、「貳圓」ヲ「貳圓四拾錢」ニ、「貳圓五拾錢」ヲ「參圓」ニ、「四圓」ヲ「四圓五拾錢」ニ、「五拾圓」ヲ「參圓」ノ下ニ「壹圓」ヲ「壹圓貳拾錢」ニ改ム
「壹圓」ヲ加フノ下ニ「但千圓ニ滿タサルモ千圓ト看做シテ算定ス」ヲ加フ

第十條中「參拾錢」ヲ「四拾錢」ニ改ム

第十一條中「五拾錢」ヲ「六拾錢」ニ改ム

第十三中「旅費」ノ下ニ「宿泊料」ヲ加フ

第十四條中「貳錢五厘」ヲ「參錢」ニ改ム

第十五條中「拾錢」ヲ「拾五錢」ニ改ム

第十六條 拒絶證書ヲ作成スル場合ニ於テハ其手数料ヲ五拾錢トス若シ執務一時間以上ニ涉ルトキハ一時間毎ニ貳拾錢ヲ加フ但其執務一時間ニ滿タサルモ一時間ト看做シテ算定ス

第十六條ノ二 執行記録其他ノ書類ノ閱覽ニ付テノ手

○裁判所構成法中改正ノ件

(明治四十四年四月 法律第七十一號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協贊ヲ經タル裁判所構成法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第二十三條第一項中「若ハ休暇ノ始」ヲ削ル
第二十四條第一項中「休暇中ヲ除キ」ヲ削ル
第二百二十七條 削除
第二百二十八條 削除
第二百二十九條 削除
第三百十條 削除

○執達吏手数料規則中改正ノ件

(明治四十四年三月 法律第五十四號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル執達吏手数料規則中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
執達吏手数料規則中左ノ通改正ス
第二條中「五錢」ヲ「七錢」ニ改ム
第三條中「參拾錢」ヲ「四拾錢」ニ、「五拾錢」ヲ「六拾錢」ニ、「七拾五錢」ヲ「九拾錢」ニ、「壹圓」ヲ「壹圓貳拾五錢」ニ、「壹圓貳拾五錢」ヲ「壹圓五拾錢」ニ、「壹圓五拾錢」ヲ「壹圓八拾錢」ニ改ム
「壹圓八拾錢」ニ「貳圓」ヲ「貳圓四拾錢」ニ改ム
第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
假差押ヲ爲シタル物ニ對スル差押ニ付テノ手数料ハ

數料ハ既濟ノ書類ニ限リ一回ニ付拾錢トス

第十六條ノ三 手数料ノ定ナキ事項ニ付テハ最類似スル事項ト同一ノ手数料ヲ受ク

第十八條中「拾錢」ヲ「拾五錢」ニ、「旅費ノ額」ヲ「旅費及宿泊料ノ額」ニ改メ第一項ノ次ニ左ノ一項ノ加フ
執達吏其職務ヲ執行スル爲メ宿泊ヲ要シタルトキハ一泊ニ付壹圓貳拾錢ノ宿泊料ヲ受ク

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(此施行期日ハ明治四十四年四月勅令第七號ヲ以テ明治四十四年五月一日ト指定シタリ)
本法施行ノ際未タ完結セサル事項ニ付テノ手数料及立替金ハ仍從前ノ規定ニ依ル

○民事訴訟法中改正ノ件

(明治四十四年四月 法律第七十二號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル民事訴訟法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
民事訴訟法中左ノ通改正ス
第六十八條 削除
第四百四十八條 第二項ヲ左ノ如ク
前項ノ事件ノ差戻ハ申立ニ因リ控訴裁判所ノ他ノ民事部ニ之ヲ爲スコトヲ得
事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ新口頭辯論ニ基キ裁判ヲ爲スコトヲ要ス但前項ノ場合ニ於テハ破毀セラレタル判決ニ干與シタル判事ハ其裁判ニ參

與スルコトヲ得ス

○非訟事件手續法中改正ノ件

(明治四十四年五月法律第七十四號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル非訟事件手續法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

非訟事件手續法中左ノ通改正ス

目錄中「會社ノ清算人ノ選任及ヒ解任」ヲ「會社ノ清算ニ關スル事件」ニ、「未成年者、妻及ヒ後見人ノ登記」

ヲ「未成年者、妻及ヒ法定代理人ノ登記」ニ改ム

第二百二十五條中「第五百五十一條ヲ第五十條、第五百

十條ノ三乃至第五百五十一條ノ五」ニ改ム

第二百二十九條ノ二第二項ヲ削ル

第二百二十九條ノ三 商法第二百二十四條又ハ第九十八

條ノ規定ニ依リ裁判所カ検査役ヲ選任シタル場合ニ

於テハ會社ヲシテ之ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其

額ハ取締役及ヒ監査役ノ陳述ヲ聽キ裁判所之ヲ定ム

第二百二十九條ノ四 前二條ノ裁判ニ對シテハ即時抗告

ヲ爲スコトヲ得

第三百三十五條ノ四 會社ノ設立ヲ無効トスル判決カ確

定シタルトキハ受附裁判所ハ會社ノ本店及ヒ支店ノ

所在地ノ登記所ニ其登記ノ囑託ヲ爲スヘシ

登記所カ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ會社ノ設立ノ

無効ナルコトヲ登記スヘシ

第二章 會社ノ清算ニ關スル事件

第三百三十八條ノ二 第二百二十九條ノ三及ヒ第二百二十九條ノ四ノ規定ハ裁判所カ清算人ヲ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十八條ノ三 商法第九十一條ノ二第二項ノ鑑定人ノ選任、呼出及訊問ハ會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所カ前項ノ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ會社ノ負擔トス呼出及訊問ノ費用亦同シ

第三百三十八條ノ四 第八十八條及第八十九條ノ規定ハ前條ノ鑑定人ノ選任ノ手續及裁判ニ之ヲ準用ス

第四百四十四條第四號ヲ左ノ如ク改ム

四 法定代理人登記簿

第四百四十八條ノ二 當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記カ商法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカラサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ管轄登記所ニ其抹消ヲ申請スルコトヲ得

第五百五十條ノ二 官廳ノ許可ヲ要スル事項ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ官廳ノ許可又ハ其認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第五百五十條ノ三 本店及支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ニ付キ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ申請スルニハ申請書ニ本店ノ所在地ニ於テ爲シタル登記ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ各本條ニ定メタル書類ハ之ヲ添附スルコトヲ要セス

第五百五十一條ノ二 登記所ハ登記ヲ爲シタル爲其登記

第一百六十五條 削除

第三節 未成年者、妻及法定代理人ノ登記

第七十一條 法定代理人カ無能力者ノ爲メニ商業ヲ營ム場合ニ於テ登記ヲ申請書ニ法定代理人タル資格ヲ記載シ親族會ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十二條第二項ノ如ク改ム

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ前項ノ登記ハ其會社ヲ代表スヘキ社員又ハ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第七十三條第一項ニ左ノ一號ヲ加ヘ第二項中「且之ニ支配人ノ選任」ヲ「支配人ノ選任及前項第四號ニ掲ケタル事項」ニ改ム

四 數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

第七十四條 第七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ掲ケタル事項並ニ其變更、消滅ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十六條中「其選任」ノ下ニ「及ヒ商法第九十條第二號並ニ第三號ニ掲ケタル事項」ヲ加フ

第七十七條 商法第九十條ニ掲ケタル事項ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ現任清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第七十三條第一項ニ左ノ一號ヲ加ヘ第二項中「且之ニ支配人ノ選任」ヲ「支配人ノ選任及前項第四號ニ掲ケタル事項」ニ改ム

四 數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

第七十四條 第七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ掲ケタル事項並ニ其變更、消滅ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十六條中「其選任」ノ下ニ「及ヒ商法第九十條第二號並ニ第三號ニ掲ケタル事項」ヲ加フ

第七十七條 商法第九十條ニ掲ケタル事項ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ現任清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第七十三條第一項ニ左ノ一號ヲ加ヘ第二項中「且之ニ支配人ノ選任」ヲ「支配人ノ選任及前項第四號ニ掲ケタル事項」ニ改ム

四 數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

第七十四條 第七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ掲ケタル事項並ニ其變更、消滅ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十六條中「其選任」ノ下ニ「及ヒ商法第九十條第二號並ニ第三號ニ掲ケタル事項」ヲ加フ

第七十七條 商法第九十條ニ掲ケタル事項ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ現任清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第七十三條第一項ニ左ノ一號ヲ加ヘ第二項中「且之ニ支配人ノ選任」ヲ「支配人ノ選任及前項第四號ニ掲ケタル事項」ニ改ム

四 數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

第七十四條 第七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ掲ケタル事項並ニ其變更、消滅ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十六條中「其選任」ノ下ニ「及ヒ商法第九十條第二號並ニ第三號ニ掲ケタル事項」ヲ加フ

第七十七條 商法第九十條ニ掲ケタル事項ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ現任清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第七十三條第一項ニ左ノ一號ヲ加ヘ第二項中「且之ニ支配人ノ選任」ヲ「支配人ノ選任及前項第四號ニ掲ケタル事項」ニ改ム

四 數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

第七十四條 第七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ掲ケタル事項並ニ其變更、消滅ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

與スルコトヲ得ス

○非訟事件手續法中改正ノ件

(明治四十四年五月法律第七十四號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル非訟事件手續法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

非訟事件手續法中左ノ通改正ス

目錄中「會社ノ清算人ノ選任及ヒ解任」ヲ「會社ノ清算ニ關スル事件」ニ、「未成年者、妻及ヒ後見人ノ登記」

ヲ「未成年者、妻及ヒ法定代理人ノ登記」ニ改ム

第二百二十五條中「第五百五十一條ヲ第五十條、第五百

十條ノ三乃至第五百五十一條ノ五」ニ改ム

第二百二十九條ノ二第二項ヲ削ル

第二百二十九條ノ三 商法第二百二十四條又ハ第九十八

條ノ規定ニ依リ裁判所カ検査役ヲ選任シタル場合ニ

於テハ會社ヲシテ之ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其

額ハ取締役及ヒ監査役ノ陳述ヲ聽キ裁判所之ヲ定ム

第二百二十九條ノ四 前二條ノ裁判ニ對シテハ即時抗告

ヲ爲スコトヲ得

第三百三十五條ノ四 會社ノ設立ヲ無効トスル判決カ確

定シタルトキハ受附裁判所ハ會社ノ本店及ヒ支店ノ

所在地ノ登記所ニ其登記ノ囑託ヲ爲スヘシ

登記所カ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ會社ノ設立ノ

無効ナルコトヲ登記スヘシ

第二章 會社ノ清算ニ關スル事件

第三百三十八條ノ二 第二百二十九條ノ三及ヒ第二百二十九條ノ四ノ規定ハ裁判所カ清算人ヲ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十八條ノ三 商法第九十一條ノ二第二項ノ鑑定人ノ選任、呼出及訊問ハ會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所カ前項ノ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ會社ノ負擔トス呼出及訊問ノ費用亦同シ

第三百三十八條ノ四 第八十八條及第八十九條ノ規定ハ前條ノ鑑定人ノ選任ノ手續及裁判ニ之ヲ準用ス

第四百四十四條第四號ヲ左ノ如ク改ム

四 法定代理人登記簿

第四百四十八條ノ二 當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記カ商法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカラサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ管轄登記所ニ其抹消ヲ申請スルコトヲ得

第五百五十條ノ二 官廳ノ許可ヲ要スル事項ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ官廳ノ許可又ハ其認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第五百五十條ノ三 本店及支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ニ付キ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ申請スルニハ申請書ニ本店ノ所在地ニ於テ爲シタル登記ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ各本條ニ定メタル書類ハ之ヲ添附スルコトヲ要セス

第五百五十一條ノ二 登記所ハ登記ヲ爲シタル爲其登記

第一百六十五條 削除

第三節 未成年者、妻及法定代理人ノ登記

第七十一條 法定代理人カ無能力者ノ爲メニ商業ヲ營ム場合ニ於テ登記ヲ申請書ニ法定代理人タル資格ヲ記載シ親族會ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十二條第二項ノ如ク改ム

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ前項ノ登記ハ其會社ヲ代表スヘキ社員又ハ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第七十三條第一項ニ左ノ一號ヲ加ヘ第二項中「且之ニ支配人ノ選任」ヲ「支配人ノ選任及前項第四號ニ掲ケタル事項」ニ改ム

四 數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

第七十四條 第七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ掲ケタル事項並ニ其變更、消滅ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十六條中「其選任」ノ下ニ「及ヒ商法第九十條第二號並ニ第三號ニ掲ケタル事項」ヲ加フ

第七十七條 商法第九十條ニ掲ケタル事項ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ現任清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第七十三條第一項ニ左ノ一號ヲ加ヘ第二項中「且之ニ支配人ノ選任」ヲ「支配人ノ選任及前項第四號ニ掲ケタル事項」ニ改ム

四 數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

第七十四條 第七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ掲ケタル事項並ニ其變更、消滅ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十六條中「其選任」ノ下ニ「及ヒ商法第九十條第二號並ニ第三號ニ掲ケタル事項」ヲ加フ

第七十七條 商法第九十條ニ掲ケタル事項ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ現任清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第七十三條第一項ニ左ノ一號ヲ加ヘ第二項中「且之ニ支配人ノ選任」ヲ「支配人ノ選任及前項第四號ニ掲ケタル事項」ニ改ム

四 數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

第七十四條 第七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ掲ケタル事項並ニ其變更、消滅ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十六條中「其選任」ノ下ニ「及ヒ商法第九十條第二號並ニ第三號ニ掲ケタル事項」ヲ加フ

第七十七條 商法第九十條ニ掲ケタル事項ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ現任清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第七十三條第一項ニ左ノ一號ヲ加ヘ第二項中「且之ニ支配人ノ選任」ヲ「支配人ノ選任及前項第四號ニ掲ケタル事項」ニ改ム

四 數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

第七十四條 第七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ掲ケタル事項並ニ其變更、消滅ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十六條中「其選任」ノ下ニ「及ヒ商法第九十條第二號並ニ第三號ニ掲ケタル事項」ヲ加フ

第七十七條 商法第九十條ニ掲ケタル事項ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ現任清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第七十三條第一項ニ左ノ一號ヲ加ヘ第二項中「且之ニ支配人ノ選任」ヲ「支配人ノ選任及前項第四號ニ掲ケタル事項」ニ改ム

四 數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

第七十四條 第七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ掲ケタル事項並ニ其變更、消滅ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

申請書ニハ變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十二條ノ二 合名會社カ合併ニ因ル變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第百七十九條第二項及ヒ前條第二項ニ掲ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十二條ノ三 合名會社カ合併ニ因ル設立ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第百七十九條第二項及ヒ第百八十二條第二項ニ掲ケタル書類及ヒ商法第四十四條ノ三第三項ノ規定ニ依リテ選任セラレタル者ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十四條第三項ヲ削ル
第八十四條ノ二 第百八十一條第一項及第二項ノ規定ハ合名會社ノ設立取消ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八十四條ノ三 第百八十二條ノ規定ハ合名會社ノ組織變更ニ因ル解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八十四條ノ四 商法第八十三條ノ三又ハ第八十三條ノ四ノ規定ニ依リ合資會社ニ付キ爲スヘキ登記ハ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
申請書ニハ組織變更ノ事由ヲ記載シ定款ヲ添附スルコトヲ要ス
有限責任社員ヲ加入セシメタル場合ニ於テハ其加入

ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第八十五條 商法第八十八條第二項ノ規定ニ依リ合名會社ニ付スヘキ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
前條第二項ノ規定ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八十五條ノ二 第百七十九條第二項及前條ノ規定ハ商法第八十八條ノ二ノ規定ニ依リ合名會社ニ付キ爲スヘキ登記ニ之ヲ準用ス

第八十六條 第百七十九條乃至第百八十四條ノ三ノ規定ハ合資會社ノ登記ニ之ヲ準用ス但合名會社ニ於テ總社員ノ申請ニ因リテ爲スヘキ登記ハ合資會社ニ於テハ其無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第八十七條第二項ヲ左ノ如ク改ム
申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス

- 一 定款
- 二 株式ノ引受ヲ證スル書面
- 三 株式申込證
- 四 取締役及ヒ監査役又ハ検査役ノ調査報告書及ヒ其附屬書類
- 五 検査役ノ報告ニ關スル裁判アリタルトキハ其謄本
- 六 發起人カ取締役及ヒ監査役ヲ選任シタルトキハ之ニ關スル書類

七 創立總會ノ決議錄

第八十八條第二項中「裁判所ノ認可ヲ要スル場合ニ於テハ其裁判ノ謄本」ヲ削リ第三項中「變更ノ登記ハ」ノ下ニ「會社ヲ代表スヘキ」ヲ加フ

第八十九條中第一號及ヒ第二號ヲ左ノ如ク改ム

- 一 株式ノ引受ヲ證スル書面
- 二 株式申込證
- 第九十一條 社債ノ登記ハ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス

- 一 最終ノ貸借對照表
- 二 社債ノ引受ヲ證スル書面
- 三 社債申込書
- 四 各社債ニ付キ商法第二百四條ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面
- 五 社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ決議錄

第九十二條 社債ニ關スル變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス
第九十三條ノ二 株式會社カ合併ニ因ル變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第百八十二條第二項及ヒ第百八十九條第三號第四號ニ掲ケタル書類及ヒ株式ノ割當並ニ引受ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第九十三條ノ三 株式會社カ合併ニ因ル設立ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第百八十二條第二項及ヒ第百八十七條第二項ニ掲ケタル書類及ヒ商法第四十四條ノ三第三項ノ規定ニ依リテ選任セラレタル者ノ資格ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第九十四條 削除
第九十五條 資本ノ増加並ニ減少解散及ヒ合併ニ因ル變更並ニ設立ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第九十五條ノ二 第百三十五條ノ四ノ規定ハ商法第九十六條ノ四ニ定メタル登記ニ之ヲ準用ス
第九十八條 第百八十九條、第百九十條及ヒ第百九十六條第一項ノ規定ハ資本ノ増加又ハ減少ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第九十八條ノ二 社債ノ登記ハ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ第百九十一條第二項ニ掲ケタル書類ヲ添付スルコトヲ要ス
第九十八條ノ三 社債ニ關スル變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
申請書ニハ變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス
第九十九條 第百七十九條第二項、第百九十三條ノ二、第百九十三條ノ三及ヒ第百九十六條第一項ノ規

定ハ合併ニ因ル變更又ハ設立ノ登記ノ申請ヲ爲ス場
合ニ之ヲ準用ス

第二百條ノ二 株式合資會社ノ組織變更ニ因ル解散ノ
登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因
リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ株主總會ノ決議録及ヒ第百八十二條第二
項ニ掲ケタル書類ヲ附スルコトヲ要ス

第二百一條第二項ヲ左ノ如ク改メ第三項ヲ削リ第四項
中「前三項」ヲ「前二項」ニ改ム

申請書ニハ組織變更ノ事由ヲ記載シ定款、株式ノ引
受ヲ證スル書面及ヒ組織變更ニ關スル株主總會ノ決
議録ヲ添附スルコトヲ要ス

第二百一條ノ二 第百九十五條ノ二ノ規定ハ株式合資
會社ニ之ヲ準用ス

第二百六條中「第二百六十一條、」及ヒ「第九十五條第
三項」ヲ削リ「第二百六十二條、」ノ下ニ「第二百六十
二條ノ二、」ヲ加フ

附 則

本法ハ商法中改正法律施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行前ニ裁判所ノ受理シタル事件ニハ従前ノ規定
ヲ適用ス

商法中改正法律附則ノ規定ニ依リ舊法ノ規定ヲ適用ス
ヘキ場合ニ付テハ従前ノ規定ハ仍ホ其效力ヲ有ス
後見人登記簿ハ法定代理人登記簿ノ一部トシテ其效力
ヲ有シ營利ヲ目的トスル社團法人ノ登記簿ハ其法人ノ

種類ニ從ヒ合名會社登記簿、合資會社登記簿、株式會
社登記簿又ハ株式合資會社登記簿ノ一部トシテ其效力
ヲ有ス

第四類

○廣告物取締法

(明治四十四年四月
法律第七十號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル廣告物取締法ヲ裁可シ茲ニ
之ヲ公布シム

廣告物取締法
第一條 行政官廳ハ美觀又ハ風致ヲ保存スル爲必要ナ
リト認ムルトキハ命令ヲ以テ廣告物ノ表示其ノ他之
ニ關スル物件ノ設置ヲ禁止若ハ制限スルコトヲ得

第二條 前條ノ規定ニ基キテ命令ニ違及シタル物件ニ
對シ行政官廳ハ除却ヲ命シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲
スコトヲ得

第三條 廣告物、及看板其ノ他之ニ關スル物件ニシテ
危險ノ虞アリ又ハ安寧秩序ヲ害シ若ハ風俗ヲ紊ルノ
虞アリト認ムルモノハ行政官廳ニ於テ除却ヲ命シ其
ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第四條 第二條、第三條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令
ニ違反シタルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス

○銃砲火藥類取締法施行期日

(明治四十四年三月
勅令第十五號)

朕銃砲火藥類取締法施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公
布セシム

銃砲火藥類取締法施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ施行

ス

○銃砲火藥類取締法施行規則

(明治四十四年三月
勅令第十六號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ銃砲火藥類取締法施行規則ヲ
裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

銃砲火藥類取締法施行規則
第一條 銃砲火藥類取締法ニ於テ銃砲ト稱スルハ軍用
銃砲及非常用銃砲ヲ謂フ

銃砲及非常用銃砲ヲ謂フ
軍用銃砲トハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ於テ軍用銃砲
トシテ指定シタル銃砲及千米突以上ノ距離ニ有效彈
著スヘキ裝置ヲ有シ陸軍又ハ海軍ノ用ニ供シ得ヘキ
銃砲ヲ謂フ非常用銃砲トハ其ノ他ノ銃砲ヲ謂フ

第二條 銃砲火藥類取締法ニ於テ火藥類ト稱スルハ左ニ
掲クル火藥、爆藥及火工品ヲ謂フ

一 火藥 硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥、純硝化纖
維素ヲ主トスル無煙火藥又ハ純硝化纖維素ト「ナ
イトログリセリント」ノ結合物ヲ主トスル無煙火
藥ノ類

二 爆藥 雷酸鹽類其ノ他ノ起爆劑、ナイトログ
リセリン及之ヲ主トスル爆藥(各種ダイナマイ
トノ類) 硝酸アンモニア若ハ鹽酸鹽ヲ主トスル爆
發藥又ハ爆發ノ用途ニ供スル棉火藥芳香系列ノ硝
化物及之ヲ主トスル混和物(ナイトロペンジン、
ナイトロナフサリン、ナイトロロニオール、ピク

リン酸及ビクリサンヲ主トスル混和物ノ類ノ類
 三 火工品 實包、空包、藥筒、藥包、彈藥筒、火藥若
 ハ爆藥ヲ裝填シタル彈丸若ハ水雷、雷管、爆管、門
 管、緩燃導火線一尺ノ燃焼時間十秒以上ヲ要スルモノ、速燃導火線又ハ煙
 火其ノ他火藥若ハ爆藥ヲ使用シタル火工品但シ玩
 具用普通火工品ヲ除ク雷管又ハ信管ヲ裝置シタル
 導火線ハ雷管又ハ信管ト看做ス
 第三條 銃砲火藥類取締法ニ於テ軍用火藥類又ハ軍用
 火工品ト稱スル專ラ陸軍又ハ海軍ノ用ニ供スル火藥
 類又ハ火工品ヲ謂ヒ普通火工品ト稱スルハ其他ノ火
 工品ヲ謂フ
 第四條 銃砲火藥類取締法第一條第一號又ハ第二條第
 一項第一號ノ場合ニ於テ行政官廳ノ委託ヲ受ケタル
 者ハ事業開始前製造スヘキ銃砲又ハ製造若ハ變形修
 理スヘキ火藥類ノ種類數量委託ノ年月日委託ノ條件
 及委託官廳名ヲ其ノ官廳ノ證明書ヲ添付シテ作業地
 府縣長官ニ届出ツヘシ
 第五條 銃砲火藥類取締法第一條第二號、第四號、第二
 條第一項第二號、第四號及第二項ノ許可ハ作業地廳
 府縣長官ヲ經由シ陸軍ノ用ニ供スル銃砲火藥類ニ付
 テハ陸軍大臣ニ、海軍ノ用ニ供スル銃砲火藥類ニ付
 テハ海軍大臣ニ其ノ他ノ火藥類ニ付テハ内務大臣ニ
 之ヲ申請スヘシ
 陸軍大臣又ハ海軍大臣前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ
 内務大臣ニ之ヲ通知スヘシ

第六條 銃砲火藥類取締法第一條第三號、第二條第一
 項第三號及第六號ノ許可ハ作業地廳府縣長官ニ、同
 法第三條第一項ノ許可ハ營業地廳府縣長官ニ之ヲ申
 請スヘシ
 第七條 行政官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ營業トシテ銃砲火
 藥類ヲ製造又ハ變形修理スル者ハ其ノ事業ニ要スル
 設備ニ付許可ヲ爲シタル行政官廳又ハ其ノ委任ヲ受
 ケタル廳府縣長官ノ検査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使
 用スルコトヲ得ス其ノ變更ニ付又同シ
 第八條 銃砲火藥類ノ製造又ハ變形修理ヲ委託スル場
 合ニ於テハ委託行政官廳ハ本令又ハ本令ニ基キテ發
 スル命令ニ定ムルモノノ外取締上必要ナル設備又ハ
 事項ヲ命スルルコトヲ得前項ノ設備ニ付テハ前條ノ
 規定ヲ準用ス
 第九條 前二條ノ規定ハ危害豫防ニ關スル警察官ノ職
 權ヲ行使スルコトヲ妨ケス
 第十條 第七條又ハ第八條ノ規定ニ依リ検査ヲ受ケタ
 ル設備又ハ許可ノ條件トシテ若ハ第八條ノ規定ニ依
 リ命令セラレタル事項ヲ變更セムトスル者ハ許可又
 ハ委託ヲ爲シタル行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ
 前項ノ許可申請ハ第五條ノ主務大臣ニ之ヲ爲ス場合
 ニ於テハ作業地廳府縣長官ヲ經由スヘシ
 第十一條 銃砲火藥類取締法第三條ノ規定ニ依リ火藥
 類販賣業者ニ與フル許可ヲ分テテ甲乙ノ二種トス
 甲種ノ許可ヲ受ケタル火藥類販賣業者ハ火藥類ニ關

スル各種ノ商行爲ヲ爲スコトヲ得
 乙種ノ許可ヲ受ケタル火藥類販賣業者ハ火藥類ヲ輸
 入シ之ヲ官廳又ハ火藥類販賣業者ニ賣渡スノ外火藥
 類ニ關スル他ノ商行爲ヲ爲スコトヲ得ス
 第十二條 銃砲販賣業者及前條ノ火藥類販賣業者ノ道
 府縣ニ於ケル定員ハ内務大臣之ヲ定ム
 第十三條 火藥類販賣業者ハ火藥庫ヲ備フルコトヲ要ス
 第十四條 火藥類販賣業者ノ火藥類取扱ハ火藥類取扱
 免狀ヲ有スル者之ニ任スルコトヲ要ス一年間二千貫
 以上ノ火藥又ハ千貫以上ノ爆藥ヲ消費スル者ニ付亦
 同シ
 前項ノ規定ハ火藥及爆藥ヲ共ニ消費スル場合ニ於テ
 ハ爆藥一貫ヲ火藥二貫ト看做シ合算シタル數量ニ付
 之ヲ適用シ消費ノ場所二箇以上アル場合ニ於テハ各
 消費場所ニ付之ヲ適用ス
 第十五條 火藥類取扱免狀ニ關スル規定ハ内務大臣之
 ヲ定ム
 第十六條 火藥類讓渡ノ許可ハ所轄廳府縣長官ニ之ヲ
 申請スヘシ
 火藥類讓渡ノ許可ハ消費地廳府縣長官ニ之ヲ申請ス
 ヘシ但シ消費地定マラス若ハ二箇所以上ニ涉リ又ハ
 銃砲火藥類取締法施行區域ニ係ル場合ハ所轄廳府縣
 長官ニ之ヲ申請スヘシ
 第十七條 左ノ各號ノ火藥類ノ讓渡及讓受ニ付テハ内
 務大臣ノ定メタル場品ニ限リ前條ノ區分ニ依リ警察

官署ニ之ヲ申請スルコトヲ得
 一 火藥 三貫以内
 二 爆藥 一貫以内
 三 工業用雷管 二千箇以内
 四 信管 千箇以内
 五 爆管 千箇以内
 六 門管 千箇以内
 七 導火線 五百間以内
 第十八條 軍用銃砲又ハ左ノ各號ノ火藥類ノ讓渡及讓
 受ノ許可ハ所轄警察署ニ之ヲ申請スヘシ
 一 火藥 一貫三百匁以内
 二 銃用實包 千箇以内
 三 銃用空包 千箇以内
 四 銃用實包又ハ銃用空包ニ要スル雷管又ハ雷管附
 藥莖二千箇以内
 第十九條 前條ノ許可ニ二月間其效力ヲ有ス
 前二條ノ許可ハ許可ヲ爲シタル行政官廳取締上必要
 ト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得
 前二條ノ規定ニ依リ讓受ノ許可ハ讓受ヲ要スル事由
 ノ消滅ニ依リ其ノ效力ヲ失フ
 第二十條 軍用銃砲又ハ火藥類ノ讓渡ハ公賣又ハ競賣
 法若ハ民事訴訟法ニ依リ競賣ノ場合ニ於テハ許可ヲ
 要セサルモノトス
 第二十一條 鑛業法ニ依リ鑛物ノ試掘若ハ探掘ヲ爲ス
 者又ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ工事若ハ工事ノ爲

場所蓄積シタル燃焼物其ノ他内務大臣ノ指定シタル箇所へ五十間以上

前項ノ距離ハ貯藏數量ノ増減ニ從ヒ貯藏數量ノ平方根ニ比例シテ之ヲ増減ス

但シ各距離ノ五分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

倉庫ハ其ノ外壁ノ周圍ニ一間以上ノ空地ヲ保有スヘシ但シ貯藏數量ヲ減少シ特ニ應府縣長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

應府縣長官ハ必要ト認ムルトキハ假貯藏所ニ付第一項及第二項ノ規定ニ依ル距離以上ニ於テ特ニ其距離ヲ指定スルコトヲ得

火藥類貯藏所相互ノ距離ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第三十四條 内務大臣ハ天然又ハ人造ノ掩體ノ狀態其ノ他土地又ハ設備ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムル程度ニ於テ前條ニ定ムル距離ノ減少ヲ許可スルコトヲ得

第三十五條 第三十九條及前條ノ許可ハ狀況ノ變更ニ依リ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第三十六條 第二十八條ノ規定ニ依リ倉庫ニ貯藏スルコトヲ得ヘキ數量ヲ超過スル火藥類ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ同時ニ之ヲ運搬スルコトヲ得ス
第三十七條 火藥類ハ他ノ物件ト混包シ又ハ變裝若ハ假裝シテ之ヲ所持、運搬又ハ託送スルコトヲ得ス
前項ノ物件ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官ニ之ヲ届出

類ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ所持者ニ於テ直ニ必要ナル處置ヲ爲スヘシ

第四十四條 第十一條乃至第十五條、第二十二條第二十七條第二十九條及第三十一條乃至第三十六條ノ規定ハ緩燃導火線ニ之ヲ適用セス

銃砲時藥類取締法第六條、第八條及第九條並本令第十一條乃至第十五條、第二十二條、第二十七條乃至第三十一條及第三十六條ノ規定ハ煙火及遞信大臣カ船舶備付用ノ爲特ニ指定シタル煙火類似ノ火工品ニ之ヲ適用セス

緩燃導火線及煙火ニ付必要ナル規定ハ應府縣長官之ヲ定ム第二項ノ船舶備付用火工品ニ付必要ナル規定ハ遞信大臣之ヲ定ム

第四十五條 第七條、第八條第二項、第十條第一項、第十三條、第十四條、第二十二條、第二十五條、第二十七條、第二十八條、第三十一條、第三十二條、第三十六條、第三十七條第一項、第三十八條、第四十二條及第四十三條ノ規定ニ違反シタル者第三十三條ノ規定ニ違反シ又ハ本令ニ依ル許可若ハ指定ノ範圍ヲ超エテ火藥類ヲ貯藏シタル者並本令ニ基キテ發スル内務大臣ノ命令ノ規定ニ適合セサル火藥類貯藏所ニ火藥類ヲ貯藏シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 第三十九條乃至第四十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ五十圓以下ノ罰金又

ツヘシ

第三十八條 地盤又ハ物件ヲ破碎スルノ目的ヲ以テ火藥又ハ爆藥ヲ使用セムトスル者ハ使用地警察官從ノ許可ヲ受クヘシ但シ内務大臣カ特ニ定メタル場合又ハ鑛業法ニ依ル鑛物ノ試掘若ハ採掘ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條 拳銃、短銃又ハ仕入銃ハ職務又ハ銃砲ニ關スル營業ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外所轄警察署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ授受、運搬又ハ携帯スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ仕入刀劔其ノ他變裝シタル戎器ニ之ヲ準用ス

第四十條 拳銃、短銃又ハ仕入銃ハ業務又ハ修學ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外未成年者之ヲ所持シ又ハ未成年者ヲシテ之ヲ所持セシムルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ仕込刀劔其ノ他ノ戎器ニ之ヲ準用ス

第四十一條 火藥類ノ運搬、所持其ノ他ノ取扱ハ未成年者之ヲ爲シ又ハ未成年者、白痴者若ハ瘋癲者ヲシテ之ヲ爲サシムコトヲ得ス但シ第十八條各號ノ火藥類ニ付テハ十五才以上ノモノニ限り之ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十二條 營業者ハ許可ヲ受ケサル者ニ銃砲火藥類又ハ第三十九條ノ戎器讓渡スコトヲ得ス但シ讓渡ニ付許可ヲ要セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條 試驗ノ結果不良品ト認定セラレタル火藥ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第四十七條 第四條又ハ第三十七條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十八條 銃砲火藥類取締法第十條乃至第十三條及第十六條乃至第十八條ノ規定ハ銃砲火藥類ニ非サル他ノ戎器及爆發質物品ニ之ヲ準用ス

第四十九條 公賣又ハ競賣法若ハ民事訴訟法ニ依ル競賣ヲ爲ス者ニ銃砲火藥類取締法及本令ノ適用ニ付テハ之ヲ讓渡人ト看做ス

第五十條 左ノ事項ハ内務大臣之ヲ定ム但シ鐵道ニ依ル輸送ニ關スル事項ハ内閣總理大臣郵便及船舶ニ依ル輸送及船舶ニ於ケル常用火藥類ノ貯藏ニ關スル事項ハ遞信大臣之ヲ定ム

一 火藥類ノ貯藏收納荷造其他ノ取扱ノ方法及制限
二 第四十三條ノ規定ニ依ル火藥類試驗及不良品處置方法

三 火藥類運搬ノ方法制限
四 火藥類作業所及火藥類貯藏所ノ設備

五 火藥類作業所及火藥類貯藏所ニ於テ遵守スヘキ事項

第五十一條 前條ノ規定ニ依ル命令ハ鑛業法第七十一條ノ規定ニ依リ農商務大臣ノ發スル命令ノ效力ヲ妨クルコトナシ

附 則

本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十

三條及第十四條ノ規定ハ仍二年間之ヲ適用セス
 本令施行前火藥商又ハ甲種火藥商ノ許可ヲ受ケタル者
 ハ甲種火藥類販賣業者輸入及卸賣ノ營業ニ限リ許可ヲ
 受ケタル者又ハ乙種火藥商ノ許可ヲ受ケタル者ハ乙種
 火藥販賣業者トシテ各其許可ヲ受ケタルモノト看做ス
 本令施行ノ際本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ノ規定
 ニ適合セサル火藥類貯藏所ハ所在地廳府縣長官ノ指定
 シタル期間ニ於テ之ヲ改造スヘシ

○著作權法中改正ノ件

(明治四十三年六月
 法律第六十三號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル著作權法中改正法律ヲ裁可
 シ茲ニ之ヲ公布セシム
 著作權法中左ノ通改正ス
 第一條中「圖書」ノ次ニ「建築」ヲ加フ
 第十一條中「及定期刊行物」及「政事上ノ論說若ハ」ヲ削
 ル
 第十五條 著作權ノ相續讓渡及質入ハ其ノ登錄ヲ受ク
 ルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
 無名又ハ變名著作物ノ著作人ハ其ノ實名ノ登錄ヲ受
 クルコトヲ得
 第二十條中「及定期刊行物」ヲ削リ「小説」ノ次ニ「及文
 藝學術若ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物」ヲ加フ
 第二十一條 翻譯者ハ著作人ト看做シ本法ノ保護ヲ享
 有ス但シ原著作者ノ權利ハ之カ爲ニ妨ケラルルコト

ナシ
 第三十二條ノ二 活動寫眞術ニ依リ他人ノ著作物ヲ複
 製シ又ハ興行スル者ハ偽作者ト看做ス
 第三十九條及第四十二條中「拾圓以上」ヲ削ル
 第四十一條中「貳拾圓以上」ヲ削ル
 第五十二條ヲ削ル

○著作ニ關スル登録手續

(明治四十三年六月
 內務省令第二十三號)

著作權ニ關スル登録手續左ノ通之ヲ定ム
 第一條 著作權ニ關スル登録ヲ受ケムトスル者ハ本手
 續ニ依リ內務大臣ニ願出ヘシ
 第二條 登録願書ニハ左ノ區別ニ從ヒ各列記事項ヲ記
 載スルヲ要ス
 一 相續登錄ノ場合
 著作物ノ題號及冊(箇)數
 著作權者ノ氏名
 相續人ノ氏名住所(外國人ハ國籍及住所)
 二 讓渡又ハ質入登錄ノ場合
 著作物ノ題號及冊(箇)數
 讓渡人又ハ質入人ノ氏名住所(外國人ハ國籍及住所)
 讓受人又ハ質取人ノ氏名住所(外國人ハ國籍及住所)
 三 實名登錄ノ場合
 著作物ノ題號及冊(箇)數
 著作人ノ稱號若ハ無名著作物ナルトキハ其ノ旨
 著作人ノ氏名住所(外國人ハ國籍及住所)
 發行者ノ氏名住所(外國人ハ國籍及住所)
 四 實權相續登錄ノ場合

著作物ノ題號及冊(箇)數
 質入登錄ノ年月日及番號
 質取人ノ氏名
 相續人ノ氏名住所(外國人ハ國籍及住所)
 五 實權讓渡登錄ノ場合
 著作物ノ題號及冊(箇)數
 質入登錄ノ年月日及番號
 質權讓渡人ノ氏名住所(外國人ハ國籍及住所)
 質權讓受人ノ氏名住所(外國人ハ國籍及住所)
 六 登錄ノ更正變更抹消ノ場合
 著作物ノ題號及冊(箇)數
 登錄ノ年月日及番號
 更正變更抹消ノ事項及其ノ理由
 願人ノ氏名住所
 前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ願書ニ著作物
 ノ明細書ヲ添附スルノ外尙第一號及第二號及第四號
 ノ場合ニ於テハ戶籍謄本ヲ添付スヘシ
 第三條 著作物ノ明細書ニハ左ノ事項ヲ記載スルヲ要
 ス
 一 著作物ノ題號
 二 著作人ノ氏名稱號
 三 著作ノ年月日
 四 發行又ハ興行ノ年月日若發行又ハ興行ヲ爲サ、ルトキハ其ノ旨
 五 著作物ノ内容又ハ體裁若著作物ノ體裁ヲ明瞭ナラシムル爲メ必
 要ナルトキハ其ノ圖面
 六 著作物ニ付登錄ヲ受ケタルコトアル場合ハ前登錄ノ年月日
 第四條 內務大臣ハ第一條ノ願出アリタルトキハ之ヲ
 登録簿ニ登録シ官報ニ公告ス

第五條 登録簿ノ閱覽又ハ其ノ謄本若クハ抄本ノ下付
 ハ何人モ之ヲ請求スルコトヲ得
 前項ノ請求ハ書面ヲ以テシ且ツ登録年月日若ハ登録
 番號ヲ記入スヘシ
 第六條 前條ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ左ノ區別ニ從
 ヒ手数料ヲ納ムヘシ
 一 登錄簿ノ閱覽 金壹拾錢
 二 登録簿謄本ノ下付 原簿一枚毎ニ 金壹拾錢
 三 登録簿抄本ノ下付 金貳拾錢
 前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ用ユルモノトス
 第七條 登録簿ノ閱覽ニ關スル日時ハ別ニ之ヲ定ム
 附 則
 本令ハ明治四十三年法律第六十三號施行ノ日ヨリ之ヲ
 施行ス明治三十二年內務省令第二十八號ハ之ヲ廢止ス

第五類

○國稅徵收法中改正ノ件

(明治四十四年三月法律第三十七號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國稅徵收法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國稅徵收法中左ノ通改正ス

第四條ノ二、第四條ノ三、第四條ノ四、第九條、第十條、第十二條、第十七條、第二十三條ノ一、第二十八條、第二十九條及第三十一條中「督促手数料」ヲ「督促手数料延滞金」ニ改ム

第五條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項徵收ノ費用トシテ地租ニ對シテハ其ノ徵收金額ノ千分ノ七其ノ他ノ國稅ニ對シテハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ其ノ市町村ニ交付スヘシ

附則

本法ハ明治四十四年度分ヨリ之ヲ適用ス

○地租條例施行規則改正

(明治四十三年十二月勅令第四百四十四號)

朕地租條例施行規則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地租條例施行規則

第一條 土地ニハ番號ヲ附シ每筆其ノ地價ヲ定ム

第二條 一筆ノ土地ハ其ノ一部分左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ之ヲ分割ス

スル場合ニ於テ之ヲ分割ス

一 別地目ト爲ルトキ

二 地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル土地ト爲ルトキ

三 地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地ト爲ルトキ

四 所有者ヲ異ニスルトキ

五 質權ノ目的ト爲ルトキ

六 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的ト爲ルトキ

七 行政區劃ヲ異ニスルトキ

第三條 開墾著手後十年以内又ハ開墾後下年期中ニ於テ地目ヲ變換シタルトキハ開墾ハ之ヲ廢止シタルモノトス

第四條 地租條例第十七條ノ規定ニ依リ開墾地目ニ組

換ヘタル土地若ハ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ニシテ開墾著手後十年以内若ハ下年期中地租額ヲ變換シタルトキ又ハ地租條例第十七條ノ規定ニ依リ變換地目ニ組換ヘタル土地ニシテ地價據置年期中地租額ヲ變換シ若ハ變換前ノ地目ト同一ノ地目ニ變換シタルトキハ直ニ其ノ地價ヲ修正ス

第五條 地租條例第十七條ノ規定ニ依リ開墾地目ニ組換ヘタル土地若ハ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ニシテ開墾著手後十年以内若ハ下年期中地目ヲ變換シタルトキ又ハ地租條例第十七條ノ規定ニ依リ

變換シタルトキ又ハ地租條例第十七條ノ規定ニ依リ

變換地目ニ組換ヘタル土地ニシテ地價據置年期中變換前ノ地ニ變換シタルトキハ地目ハ之ヲ修正セス

前ノ場合ニ於テ變換地目ノ稅率カ舊地目ノ稅率ト同一ナラサルトキハ舊地目ニ對スル地租率ヲ變換地目ノ稅率ヲ以テ除シ之ヲ變換地目額ニ對スル地價トシ

修正地價ニ依リ地租ヲ徵スルニ至ル迄其ノ地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第六條 官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ニ付下年期中又ハ新開墾租年期中ノ許可ヲ請ハサルトキハ直ニ其ノ地價ヲ定ム

第七條 荒地免租年期中、免租繼年期中又ハ低價年期中土地ノ形狀ヲ變更スルコトアルモ地目變換、地類變換又ハ開墾ト看做サス

第八條 地租條例第十六條第二項ノ場合ニ於テ開墾著手ノ年ヨリ十年目ニ成功セサル部分ノ土地ニ付テハ其ノ後成功シタル部分アル毎ニ其ノ地價ヲ修正ス

第九條 荒地免租年期中、免租繼年期中又ハ低價年期中再ヒ荒地ト爲リ免租年期中ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ニ受ケタル年期中消滅ス

第十條 地目變換、又ハ開墾ニシテ他ノ法令ニ依リ許可ヲ要スルモノハ其ノ許可ノ出願ヲ以テ地租條例ニ依ル届出ト看做ス

第十一條 地租條例第十六條第三條、第六項又ハ第二

十條ノ規定ニ依リ下年期中、地價據置年期中又ハ荒地免租年期中ノ許可ヲ受ケケトスル者ハ稅務署長ニ申請

スヘシ

官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立テ民有ニ歸セシ土地ニ付下年期中又ハ新開墾租年期中ノ許可ヲ受ケケムトスル者ハ民有ニ歸セシ後六十日以内ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第十二條 地租條例第二十一條、第二十三條、若ハ第二十四條ノ規定又ハ明治三十四年法律第三十號ニ依リ低價年期中、荒地免租年期中又ハ年期中延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ年期中滿了後六十日以内ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第十三條 左ノ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ納稅義務者ハ三十日以内ニ稅務署長ニ届出ツヘシ

一 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキ

二 開墾ニ著手シタルトキ、開墾成功シタルトキ、開墾ヲ廢止シタルトキ又ハ開墾ノ目的ヲ變更シタルトキ

三 地租ヲ課スル土地ヲ用惡水路、溜池、隄塘、井溝、水道用地、鐵道用地、軌道用地若ハ公衆ノ用ニ供スル道路ト爲シタルトキ又ハ之カ供用ヲ廢止シタルトキ

四 地租ヲ請スル土地ヲ公用若ハ公供ノ用ニ供シ又ハ之カ供用ヲ廢止シタルトキ

五 地租ヲ課スル土地ヲ地租條例第四條第一項第二號ノ規定ニ依リ公供若ハ公供ノ用ニ供スヘキモノト定メタル又ハ一年以内ニ公用若ハ公供ノ用ニ

供セサルトキ

前項ノ場合ニ於テ地價ヲ定メ又ハ修正スヘキトキハ實地ノ情況ニ依リ近傍ノ類地ト其ノ地方ヲ比較シ其ノ地價ヲ見積リ土地ノ測量圖ト共ニ書面ヲ差出スヘシ

第十四條 一筆ノ土地ヲ分割シ又ハ數筆ノ土地ヲ合併セムトスルトキハ土地ノ所有者ハ稅務署長ニ届出ツヘシ

第十五條 荒地免租年期ヲ有スル土地ニシテ其ノ年期明ニ至リ他ノ地目ニ變シタルトキ又ハ低價年期若ハ免租繼年期ヲ有スル土地ニシテ其ノ年期明ニ至リ原價ニ復シ難キトキ若ハ他ノ地目ニ變シタルトキハ年期滿了ノ後六十日內ニ土地所有者又ハ納稅義務者ヨリ稅務署長ニ届出ツヘシ

第十六條 納稅義務者其ノ土地所在ノ市區町村內ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ地租ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲其ノ市區町村內ニ住所ヲ有スル者ヲ納稅管理人ト定メ其ノ市區町村長又ハ戶長ニ届出ツヘシ
前項ノ町村ト稱スルハ町村制ヲ施セサル地ニ在リテハ戶長ノ職務ヲ行フ區域トス

附 則
本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○營業稅法中改正ノ件

(明治四十四年三月) 法律第三十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル營業稅法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

營業稅法中左ノ通改正ス

第五條ノ二中「私設鐵道法」ノ下ニ「及輕便鐵道法」ヲ加フ

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行前私設鐵道法ニ依ル鐵道ニシテ輕便鐵道法附則ニ依リ輕便鐵道ニ指定セラレタルモノニ對シテハ其ノ指定ノ日ヨリ本法ヲ適用ス

○營業稅法施行規則中改正ノ件

(明治四十三年十二月) 勅令第四百五十二號

朕營業稅施行規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

營業稅法施行規則中左ノ通改正ス

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ
前項但書ノ規定ニ依リ共通ノ課稅標準ヲ計算シタル營業ヲ廢シタルトキハ其ノ翌月ヨリ月割ヲ以テ前條但書ノ規定ニ準シ其ノ課稅標準ヲ他ノ營業ニ計算スヘシ
第五條中「保險責任準備金」ヲ「保險責任準備金及保險

支拂備金ニ改ム

第六條ノ一及第七條ノ一中「出資金額及」ヲ「出資金額」ニ「資產金額」ヲ「資產金額及借入金アルトキハ其ノ

中資金額ヲ超過スル金額」ニ改ム

第八條ノ二 會社タルト個人タルトヲ問ハス金錢貸付業又ハ物品貸付業ノ課稅標準ト爲スヘキ運轉資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル貸付及貸付クヘキ金額又ハ貸付クヘキ金額又ハ貸付及貸付クヘキ物品ノ見積價格トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

第十八條中「稅務署長」ヲ經由シテ「稅務監督局長」ヲ「稅務署長」ニ改ム

第十九條及第二十一條中「稅務監督局長」ヲ「稅務署長」ニ改ム

第二十條 削除

附 則
本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○登錄稅法中改正ノ件

(明治四十三年六月) 法律第六十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル登錄稅法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

登錄稅法中左ノ通改正ス

第三條ノ二中「鐵道抵當原簿」ノ下ニ「輕便鐵道抵當原簿」ヲ加フ

第六條第五項中「又ハ產業組合中央會」ヲ「產業組合中

央會又ハ漁業組合、聯合會」ニ「組合原簿」ヲ「產業組合原簿」又ハ產業組合聯合會原簿」ニ改ム

第十條 著作權ニ關シ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

- 一 著作權ノ移轉
 - 相續 每一件 金一圓
 - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五圓
 - 二 著作權ノ目的トスル實權ノ設定
 - 相續 每一件 金五十錢
 - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金一圓
 - 三 前號ノ權利ノ移轉
 - 相續 每一件 金一圓
 - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金二十錢
 - 四 無名又ハ變名著作權ノ實名登錄
 - 每一件 金一圓
 - 五 登錄ノ更正變更又ハ抹消
 - 每一件 金二十錢
- 債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
- 第十五條ノ二 漁業權又ハ入漁權ニ關シ免許漁業原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ
- 一 漁業權ノ移轉
 - 相續 每一件 金一圓
 - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五圓
 - 二 漁業權ノ持分ノ移轉
 - 相續 每一件 金二十錢
 - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金一圓
 - 三 入漁權ノ設定
 - 每一件 金三圓
 - 四 入漁權ノ保存
 - 每一件 金三十錢
 - 五 入漁權ノ移轉
 - 每一件 金五十錢

相續 相續以外ノ原因ニ因リ移轉	每一件	金五十錢
入漁權ノ持分ノ移轉	每一件	金二圓
相續 相續以外ノ原因ニ因リ移轉	每一件	金十錢
相續 相續以外ノ原因ニ因リ移轉	每一件	金五十錢
債權ノ取得	每一件	金五十錢
相續以外ノ原因ニ因リ取得	每一件	金二圓
先取特權ノ保存又ハ取得	債權金額又ハ工 事費用豫算金額	千分ノ六
抵當權ノ設定又ハ移轉	債權金額	千分ノ六
設定	每一件	金一圓
相續	每一件	金二圓
相續以外ノ原因ニ因リ移轉	債權金額	千分ノ六
買賣強制管理ノ申立	債權金額	千分ノ六
假差押假處分	債權金額	千分ノ四
抵當アル債權ノ差押	債權金額	千分ノ六
請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレ タル登録ノ回復	每一件	金二十錢
假登録	每一件	金二十錢
附記登録	每一件	金十錢
登録ノ更正、變更又ハ抹消	每一件	金十錢
債權金額ニ因リ課税額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債 權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ 債權金額ト看做ス		

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔參照〕登録稅法抄錄
第三條ノ二 鐵道抵當原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從
ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

○賣藥稅法施行規則中改正ノ件

(明治四十三年十二月
勅令第四百四十五號)

賣藥稅法施行規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布
セシム

第五條中「賣藥稅」ヲ「賣藥印紙稅」ニ改ム

第六條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ收稅官吏ノ承認ヲ受ケ賣藥ヲ廢棄スルトキハ印
紙ノ貼用ヲ要セス

第六條ノ二 第五條ノ藏置又ハ運搬中賣藥ノ裝置ノ變
更ヲ要スルニ至リタルトキハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケ
製造場ヘ戻入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第五條
第三項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ賣藥ヲ輸出セムトスルトキハ更ニ第五條ノ承
認ヲ受クヘシ

附 則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○砂糖消費稅法中改正ノ件

(明治四十四年三月
法律第五十七號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル砂糖消費稅法中改正法律ヲ
裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

砂糖消費稅法中左ノ通改正ス

第三條中第一種ヲ左ノ如ク改ム

第五類

一 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ一

二 強制賣買、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ一

三 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二圓

第六條第五項產案組合產案組合聯合會又ハ產案組合中央會ニシ
テ登記ヲ受クル場合ニハ前二項ノ規定ニ依リ但シ組合原簿ノ
記載ニ付テハ登録稅ヲ課セス

第十條 著作權ノ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム
ヘシ

一 文學、學術、美術ノ著作物 每一種一回 金一圓

但シ演劇脚本及寫眞ヲ除ク

一 新聞紙及定期刊行物 每一種一回 金五十錢

一 演劇脚本 每一種一回 金五十圓

一 寫眞 每一版 金五圓

一 著作權ノ讓渡又ハ質入 每一件 金五圓

無名又ハ變名著作物ノ著作權ノ實名登録 每一件 金五圓

○賣藥稅法中改正ノ件

(明治四十四年三月
法律第四十二號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ得タル賣藥稅法中改正法律ヲ裁可
シ茲ニ之ヲ公布セシム

賣藥稅法中左ノ通改正ス

第一條ノ六 北海道及府縣ハ賣藥營業稅ニ對シ本稅百
分ノ三以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

市町村及北海道沖繩縣ノ區ハ賣藥營業稅ニ對シ本稅
百分ノ五以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

附 則

本法ハ明治四十四年度分ヨリ之ヲ適用ス

第一種 砂糖色相和蘭標本第十一號未滿ノ砂糖
甲 樽入砂糖 百斤ニ付金二圓

乙 樽入白糖但シ分蜜シタルモノ、
白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造
シタルモノ及全部又ハ一部ノ新式
機械ニ依リ製造シタルモノヲ除ク

丙 其ノ他ノモノ 百斤ニ付金二圓五十錢
百斤ニ付金三圓

附 則
其ノ他ノモノ 百斤ニ付金三圓

○印紙稅法中改正ノ件

(明治四十四年三月
法律第四十一號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル印紙稅法中改正法律ヲ裁可
シ茲ニ之ヲ公布セシム

印紙稅法中左ノ通改正ス

第九條中「營業ニ關セサル受取書」一 金高五圓未滿
若ハ金高記載ナキ送狀、受取書又ハ賣買仕切書」ヲ
「一 金高五圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ運送契約ニ
依ラサル送狀、一 金高五圓未滿若ハ金高記載ナキ
又ハ營業ニ關セサル受取書、一 金高五圓未滿若ハ
金記載ナキ又ハ非營業者ニ發スル賣買仕切書」ニ改
ム

附 則

本法ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六類

○陸軍一年志願兵條例施行細則中改正ノ件

(明治四十三年十月 陸軍省令第十號)

陸軍一年志願兵條例施行細則中左ノ通改正ス

第一條中「前月十五日」ヲ「前月盡日」ニ改ム

第二條中「入營前死亡シ又ハ」ノ下ニ「其ノ入營ヲ翌年ニ延期シ若ハ」ヲ加フ

第二十二條ノ二 一年志願兵入營ノ際施行スル身體検査ニ於テ傷疾若ハ疾病ノ爲ニ箇月以後ニ非サレハ教育ヲ施スヲ得スト認ムル者アルトキハ當該隊長之ヲ歸郷セシメ其ノ旨ヲ直ニ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ通報スヘシ

前項ニ依リ歸郷セシメタル者ハ條例第十四條第一項ニ該ル者トシテ取扱フヘシ

附録中「第一様式」「第二様式」及「第三様式」ノ下ニ「用紙ハ美濃白紙」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍召集條例中改正ノ件

(明治四十三年七月 勅令第三百十二號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ海軍召集條例中改正ノ件ヲ裁

可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍召集條例中左ノ通改正ス

第三十條ノ二 外國ニ在ル者充實召集ノ通報ヲ受ケ又ハ充員召集ノ舉アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ歸著後二十四時間以内ニ市町村長ヲ經テ准士官以上ニ在リテハ海軍大臣ニ下士卒ニ在リテハ在籍鎮守府ノ人事部長ニ届出ヘシ

第三十八條中「第二十三條」ノ下ニ「又ハ第三十條ノ二」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○軍人恩給法中改正ノ件

(明治四十四年三月 法律第五十九號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル軍人恩給法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍人恩給法中左ノ通改正ス

第六條但書中「十一年ノ額トス」ヲ「十一年ノ額トシ陸軍一等樂長及海軍兵曹長同相當官ニシテ最高ノ俸給ヲ受ケタル者ハ高等官六等ノ額、其他ノ海軍兵曹長同相當官ニハ高等官七等ノ額、陸海軍准士官ニシテ其官ニ對スル最高ノ俸給ヲ受ケタル者ニハ高等官八等ノ額ヲ給ス」ニ改ム

第十六條ニ左ノ但書ヲ加フ

但陸軍一等樂長、海軍兵曹長同相當官及陸海軍准士官ニ給スル額ハ第六條但書ノ例ニ依ル

第十七條第一項第一號但書中「兵卒トナリタル日」ノ下ニ「同條第七ニ當リタル者ハ其刑期滿限ノ翌日」ヲ加フ

第二十四條第六號左ノ如ク改メ同條第七號中「諸卒」ヲ「陸海軍下士及諸卒」ニ改ム

六 陸軍下士上等兵及同等級者ニ於テハ陸軍懲罰令ニ依リ又ハ素行修ラス若クハ其職務ヲ辱シムルニ依リ官職ヲ免セラレタルトキ

第二十八條 寡婦扶助料ノ年額ハ當該軍人ノ官階ト其服役年數トニ從ヒ左ノ各號ニ依リ之ヲ給ス但現役五十年以上又ハ十一年未滿ノ者並陸軍一等樂長、海軍兵曹長同相當官及陸海軍准士官ノ寡婦ニ給スル額ハ第六條但書ニ依ル

一 前條第一ニ當ルトキハ第一號表又ハ第二號表ノ金額
二 前條第二ニ當ルトキハ第一號表又ハ第二號表ノ金額三分ノ二
三 前條第三ニ當ルトキハ第一號表又ハ第二號表ノ金額三分ノ一

扶助料年額圓位未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム
第一號表、第二號表及第四號表ヲ附表ノ如ク改ム
第五號表 削除

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號退職恩給表

年數	官等									
	將官及相當官	高	二	三	四	尉官	官及相當官	七	八	准士官
十一年	一、八〇〇	一、四四〇	一、二六〇	九〇〇	七二〇	五四〇	三六〇	二七〇	二一〇	一八〇
十一年	一、八三〇	一、四六四	一、二八二	九一六	七三二	五五〇	三六六	二七五	二二〇	一八四
十一年	一、八六〇	一、四八八	一、三〇二	九三〇	七四四	五五八	三七二	二八〇	二二四	一九〇
十一年	一、八九〇	一、五一二	一、三二四	九四六	七五六	五六八	三七八	二八五	二三〇	一九六
十一年	一、九二〇	一、五三六	一、三四四	九六〇	七八〇	五七六	三八四	二九〇	二三四	一九二
十一年	一、九五〇	一、五六〇	一、三六六	九七六	七八八	五八四	三九〇	二九三	二三八	一九八
十一年	一、九八〇	一、五八四	一、三八六	九九〇	七九二	五九二	三九六	二九八	二三八	一九四
十一年	二、〇一〇	一、六〇八	一、四〇八	一、〇〇六	八〇四	六〇〇	四〇二	三〇三	二四二	二〇二
十一年	二、〇四〇	一、六三二	一、四二八	一、〇二〇	八一六	六一二	四〇八	三〇六	二四六	二〇六
十一年	二、〇七〇	一、六五六	一、四四八	一、〇三六	八二八	六二〇	四一四	三一〇	二五〇	二一〇
十一年	二、一〇〇	一、六八〇	一、四六八	一、〇五〇	八四〇	六二八	四二〇	三一四	二五四	二一四
十一年	二、一三〇	一、七〇四	一、四八八	一、〇六六	八五二	六三六	四二六	三一八	二五八	二一八
十一年	二、一六〇	一、七二八	一、五〇二	一、〇八〇	八六四	六四四	四三二	三二二	二六二	二二二
十一年	二、一九〇	一、七五二	一、五二二	一、〇九六	八七六	六五二	四三八	三二六	二六六	二二六
十一年	二、二二〇	一、七七六	一、五四二	一、一一〇	八八八	六六〇	四四四	三三〇	二七〇	二三〇
十一年	二、二五〇	一、八〇〇	一、五六六	一、一二六	九〇〇	六六八	四五〇	三三四	二七四	二三四
十一年	二、二八〇	一、八二四	一、五九〇	一、一四〇	九一二	六七六	四五六	三四八	二七八	二三八
十一年	二、三一〇	一、八四八	一、六一八	一、一五六	九二四	六八四	四六二	三五二	二八二	二四二
十一年	二、三四〇	一、八七二	一、六三二	一、一七〇	九三六	六九二	四六八	三五六	二八六	二四六
十一年	二、三七〇	一、八九六	一、六五六	一、一八六	九四八	七〇〇	四七四	三六〇	二九〇	二五〇
十一年	二、四〇〇	一、九二〇	一、六八〇	一、二〇〇	九六〇	七〇八	四八〇	三六四	二九四	二五四

第二號免除恩給表

年數	官等									
	將官及相當官	高	二	三	四	尉官	官及相當官	七	八	准士官
十一年	一、八〇〇	一、四四〇	一、二六〇	九〇〇	七二〇	五四〇	三六〇	二七〇	二一〇	一八〇
十一年	一、八三〇	一、四六四	一、二八二	九一六	七三二	五五〇	三六六	二七五	二二〇	一八四
十一年	一、八六〇	一、四八八	一、三〇二	九三〇	七四四	五五八	三七二	二八〇	二二四	一九〇
十一年	一、八九〇	一、五一二	一、三二四	九四六	七八〇	五六八	三七八	二八五	二三〇	一九六
十一年	一、九二〇	一、五三六	一、三四四	九六〇	七八八	五七六	三八四	二九〇	二三四	一九二
十一年	一、九五〇	一、五六〇	一、三六六	九七六	七八八	五八四	三九〇	二九三	二三八	一九八
十一年	一、九八〇	一、五八四	一、三八六	九九〇	七九二	五九二	三九六	二九八	二三八	一九四
十一年	二、〇一〇	一、六〇八	一、四〇八	一、〇〇六	八〇四	六〇〇	四〇二	三〇三	二四二	二〇二
十一年	二、〇四〇	一、六三二	一、四二八	一、〇二〇	八一六	六一二	四〇八	三〇六	二四六	二〇六
十一年	二、〇七〇	一、六五六	一、四四八	一、〇三六	八二八	六二〇	四一四	三一〇	二五〇	二一〇
十一年	二、一〇〇	一、六八〇	一、四六八	一、〇五〇	八四〇	六二八	四二〇	三一四	二五四	二一四
十一年	二、一三〇	一、七〇四	一、四八八	一、〇六六	八五二	六三六	四二六	三一八	二五八	二一八
十一年	二、一六〇	一、七二八	一、五〇二	一、〇八〇	八六四	六四四	四三二	三二二	二六二	二二二
十一年	二、一九〇	一、七五二	一、五二二	一、〇九六	八七六	六五二	四三八	三二六	二六六	二二六
十一年	二、二二〇	一、七七六	一、五四二	一、一一〇	八八八	六六〇	四四四	三三〇	二七〇	二三〇
十一年	二、二五〇	一、八〇〇	一、五六六	一、一二六	九〇〇	六七六	四五〇	三三四	二七四	二三四
十一年	二、二八〇	一、八二四	一、五九〇	一、一四〇	九一二	六七六	四五六	三四八	二七八	二三八
十一年	二、三一〇	一、八四八	一、六一八	一、一五六	九二四	六八四	四六二	三五二	二八二	二四二
十一年	二、三四〇	一、八七二	一、六三二	一、一七〇	九三六	六九二	四六八	三五六	二八六	二四六
十一年	二、三七〇	一、八九六	一、六五六	一、一八六	九四八	七〇〇	四七四	三六〇	二九〇	二五〇
十一年	二、四〇〇	一、九二〇	一、六八〇	一、二〇〇	九六〇	七〇八	四八〇	三六四	二九四	二五四

○同 施行手續 (明治四十四年四月附令第四號)

明治四十四年法律第五十九號施行手續左ノ通定ム
第一條 明治四十四年法律第五十九號附則第五項又ハ第六項ニ依リ恩給ノ更正ヲ請求セムトスル者ハ其ノ請求書ニ履歷書及恩給證書ヲ添ヘ所管長官ニ差出シ所管長官ハ之ヲ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ差出スヘシ但シ臨時軍隊ニ編入セラレタル元警視局員ハ本條ノ請求書類ヲ住所ノ地方長官ヲ經テ内務大臣ニ差出スヘシ

第二條 陸軍大臣海軍大臣又ハ内務大臣前條ノ請求書ヲ受ケ請求ノ理由アリト認ムルトキハ計算書ヲ作り前ノ給與ニ關スル診斷證書又ハ覆覈證書ノ寫ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ差出スヘシ
軍人恩給法第十條第二項ニ當ルモノニ付テハ前項書類ノ外陸軍省醫務局又ハ海軍省醫務局ニ於テ策定シタル傷痍疾病ノ等差ニ關スル書類ヲ添付スヘシ
第三條 本令ニ於テ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ軍人恩給法施行規則ノ例ニ依ル

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七類

○小學校令施行規則中改正ノ件 (明治四十三年七月文部省令第二十一號)

明治三十三年文部省令第十四號小學校令施行規則中左ノ通改正ス
第五亦三條中「地理」ノ下ニ「理科」ヲ加ヘ「手工、理科」ヲ「手工」ニ「算術、圖畫」ヲ「算術、理科、圖畫」ニ改ム

附則
本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○同上 (明治四十四年四月文部省令第十五號)

明治三十三年文部省令第十四號小學校令施行規則中左ノ通改正ス
第四百八條 教員ノ月俸額ハ左表ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ土地ノ情況ニ依リ當分ノ内明治三十年勅令第一號第六條ノ金額マテニ減スルコトヲ得

職名		正教員		専科	
一級	二級	上	下	上	下
三級	四級	五級	六級	七級	八級
九級	十級	十一級	十二級	十三級	十四級
十五級	十六級	十七級	十八級	十九級	二十級

准教員	
上	下
二十級	二十四級
二十六級	三十級
三十二級	三十六級
三十八級	四十二級
四十四級	四十八級

○高等女學校令中改正ノ件 (明治四十三年十月勅令第四百十四號)

陸樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ高等女學校令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
高等女學校令中左ノ通改正ス
第三條 前條ノ高等女學校ノ經費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス
第十一條 高等女學校ニ於テハ主トシテ家政ニ關スル學科目ヲ修メムトスル者ノ爲ニ實科ヲ置キ又ハ實科ノミヲ置クコトヲ得
實科ノミヲ置ク高等女學校ノ名稱ニハ實科ノ文字ヲ冠スヘシ
高等女學校ニ於テハ其ノ卒業生ニシテ某學科目ヲ專攻セムトスル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得但シ實科ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス
第十一條ノ二 實科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ尋常小學校卒業程度以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ
第十一條ノ三 實科ノ修業年限ハ左ノ例ニ依ルヘシ但シ第三號ノ場合ニ於テハ一箇年ヲ延長スルコトヲ得
一 尋常小學校卒業程度ヲ以テ第一學年ノ入學資格

- トスル場合ニ於テハ四箇年
- 二 高等小學校第一學年修了程度ヲ以テ第一學年ノ入學資格トスル場合ニ於テハ三箇年
- 三 修業年限二箇年ノ高等小學校卒業程度ヲ以テ第一學年ノ入學資格トスル場合ニ於テハ二箇年
- 第十一條ノ四 修業年限二箇年ノ實科高等女學校ノ設置ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル
- 第十七條ノ二 第二條ノ規定ハ實科高等女學校ニ之ヲ適用セス

附則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ技藝專修科ニ在學スル者ノ卒業ニ至ル迄ハ技藝專修科ヲ存置スルコトヲ得

○高等女學校令施行規則中
改正ノ件

(明治四十三年十月
文部省令第二十三號)

明治三十四年文部省令第四號高等女學校令施行規則中
左ノ通改正ス
第十八條 實科ノ學科目ハ修業年限四箇年ノモノ及三箇年ノモノニ在リテハ修身、國語、歴史、數學、理科、及家事、裁縫、圖畫、唱歌、實業、體操、トシ修業年限二箇年ノモノニ在リテハ修身、國語、數學、家事、裁縫、實業、體操トス

乙號表

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身	二	一	一
國語	六	六	六
歴史	二		
數學	二	二	二
理科及家事	二	三	三
裁縫	一四	一八	一八
圖畫	一		
唱歌	二		
實業		三	三
體操	三	三	三
計	三四	三六	三六

丙號表

學科目	學年	
	第一學年	第二學年
修身	一	一
國語	六	六
數學	二	二
家事	三	三

唱歌及實業ハ之ヲ缺キ又實業ハ之ヲ隨意科目トナスコトヲ得
實科ノ每週教授時數ハ其ノ修業年限ニ依リ甲號表、乙號表又ハ丙號表ニ依ルヘシ但シ高等女學校令第十條ノ三但書ニ依リ修業年限ヲ三箇年ト爲シタル場合ニ於テハ其ノ學科目及每週教授時數ハ丙號表ニ準シ適宜之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

甲號表

學科目	學年			
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	二	二	一	一
國語	六	六	六	六
歴史	二	二		
數學	二	二	二	二
理科及家事	二	二	三	三
裁縫	一四	一四	一八	一八
圖畫	一	一		
唱歌	二	二		
實業			三	三
體操	三	三	三	三
計	三四	三四	三六	三六

學科目	學年	
	第一學年	第二學年
裁縫	一八	一八
實業	三	三
體操	三	三
計	三六	三六

土地ノ情況ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケ每週教授時數ヲ變更シ又ハ必要ナル學科目ヲ加フルコトヲ得
第十九條 實科ノ學科目ハ第二條、第三條、第五條、第七條乃至第十三條ノ規定ニ準據シテ教授スヘシ
實業ハ實業ニ關シ生活上必要ナル智識技能ヲ得シメ兼テ勤勞ヲ尙フノ念ヲ養フヲ以テ要旨トス
實業ハ農業、工業、商業ノ中ニ就キ當該地方ニ必要ニシテ且女子ニ適切ナル事項ヲ選擇シ又成ルヘク實習ヲ課スヘシ刺繡、造花、編物等女子ニ適切ナル手藝ハ便宜之ヲ裁縫若ハ實業ノ中ニ加設シ教授スルコトヲ得
第二十二條 補習科及專攻科ノ每週教授時數ハ三十四時以内トス但シ實科ノ補習科ニ在リテハ三十六時マテ之ヲ増スコトヲ得
第二十三條 第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第二項中「前項」ヲ「前二項」ニ改ム
前項ニ依ル學年ノ外土地ノ情況ニ依リ九月一日ニ始リ翌年八月三十一日ニ終ル學年ヲ置クコトヲ得
第二十八條 第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

○教員檢定ニ關スル件

(明治四十三年十一月
文部省令第三十二號)

但シ實科ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス
 第三十條ニ在リテハ特別ノ事情アル場合ニ於テ文部大臣
 實科ニ在リテハ特別ノ事情アル場合ニ於テ文部大臣
 ノ認可ヲ受ケ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得
 第四十條ノ二 實科高等女學校ハ高等小學校ニ併設ス
 ルコトヲ得
 前項ノ場合ニ限リ實科高等女學校ノ修業年限ヲ二箇
 年ト爲スコトヲ得
 第四十二條ノ二 高等小學校第一學年修了以上ノ程度ヲ
 以テ第一學年ノ入學資格トスル高等女學校實科若ハ
 實科高等女學校ノ入學ニ關シテハ前二條ノ規定ヲ準
 用ス但シ第四十二條ノ試驗學科目ニ關シテハ裁縫ヲ
 加フ
 第四十八條 實科ノ學科目中一科目又ハ數科目ヲ學修
 セムトスル者ハ選科生トシテ入學セシムルコトヲ得
 第五十三條 第二項第一號ヲ左ノ如ク改ム
 一學年及休業日ニ關スル事項
 附 則
 本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行ノ際現ニ技藝專修科ニ在學スル生徒ハ試驗ヲ
 行ハスシテ實科ノ相當學年ニ編入スルコトヲ得
 前項ニ依リ實科ニ編入セラレタル生徒ニ關シテハ學科
 目及每週教授時數ヲ便宜斟酌スルコトヲ得
 第五條ニ左ノ但書ヲ加フ
 但シ第二號ニ該當スル者ニ在リテハ一箇年以上在學
 シ卒業シタル者ニ限ル同條第五號以下左ノ如ク改ム
 五 小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有スル者
 六 尋常小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有スル者
 七 明治四十二年二月以前ニ於テ教員免許令ニ依リ
 授與セラレタル免許狀ヲ有スル者
 第六條第三號ヲ如ク改ム
 高等女學校ノ實科又ハ實科左高等女學校ニ於テ一箇

年以上在學シ卒業シタル者ニ在リテハ家事科、裁縫
 科、手藝科
 第七條第二號但書ヲ左ノ如ク改ム
 但シ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ卒業者ニ在リテ
 ハ家事裁縫手藝ノ一科目又ハ數科目ヲ修ムル者ノ外
 修業年限ハ四箇年以上トス
 第八條第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
 第二條第三項但書ノ規定ニ依リ裁縫ト手藝ノ一部ト
 ヲ併セ出願シタル者ニ對スル手藝ノ本試驗ハ裁縫ノ
 本試驗ニ合格スルニアラサレハ之ヲ行ハス
 附 則
 本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行前高等女學校ノ技藝專修科ヲ卒業シタル者又
 ハ本令施行ノ際現ニ高等女學校ノ技藝專修科ニ在學ス
 ル者ノ檢定ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル
 明治四十五年四月以前ノ各種學校卒業者ニシテ文部大
 臣ニ於テ第五條第二號及第六條第二號ニ該當スル者ト
 同等ノ學力アリト指定シタル者ハ明治四十八年三月マ
 テ試驗檢定ヲ受クルコトヲ得

第八類

○日本勸業銀行法中改正ノ件

(明治四十四年三月 法律第二十六號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル日本勸業銀行法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

日本勸業銀行法中左ノ通改正ス

第一條 日本勸業銀行ハ株式會社トシ其ノ本店ヲ東京ニ置ク

第十四條ノ二 工場財團及工場ニ屬スル敷地又ハ建物ヲ除クノ外市制施行地及勅令ヲ以テ指定スル市街地ニ存在スル宅地又ハ建物ヲ抵當トスル貸付金額ハ拂込資本金額及勸業債券發行額ノ二分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第十五條第三項ヲ左ノ如ク改ム

産業組合、漁業組合、森林組合又ハ其ノ聯合會ニハ抵當ヲ徵セスシテ定期償還貸付若ハ年賦償還貸付ヲ爲スコトヲ得

第二十條 削除

第四十一條 勸業債券ノ模造ニ關シテハ通貨及證券模造取締法ヲ準用ス

第四十二條 削除

第五十條中「貸付」ノ下ニ「割引」ヲ加フ

第五十六條第一號中「第十四條」ノ下ニ「又ハ第十四條ノ二」ヲ加フ

第五十八條 削除

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(此施行期日ハ明治四十四年四月勅令第百二十八號ヲ以テ明治四十四年七月一日ト指定シタリ)

○農工銀行法中改正ノ件

(明治四十四年三月 法律第二十七號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル農工銀行法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農工銀行法中左ノ通改正ス

第一條 農工銀行ハ株式會社ニシテ其ノ資本金ヲ二十萬圓以上トシ各株式ノ金額ハ二十圓トス

第四條中「原籍及」及「原籍又ハ」ヲ削ル

第六條ノ二 工場財團及工場ニ屬スル敷地又ハ建物ヲ除クノ外市制施行地及勅令ヲ以テ指定スル市街地ニ存在スル宅地又ハ建物ヲ抵當トスル貸付金額ハ拂込資本金額及農工債券發行額ノ四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第七條 前條ノ貸付ハ勅令ヲ以テ指定スル地方ニ限リ拂込資本金額及農工債券發行額ノ四分ノ三迄ヲ増加スルコトヲ得

第七條ノ一ヲ削ル

第七條ノ三 産業組合、漁業組合、森林組合又ハ其ノ聯合會ニハ無抵當ニテ第六條第一號又ハ第二號ノ貸付ヲ爲スコトヲ得

第十二條 削除

第二十一條 削除

第三十二條 農工債券ノ模造ニ關シテハ通貨及證券模造取締法ヲ準用ス

第三十三條 削除

第四十六條第一號中「第六條」ノ下ニ「第六條ノ二及第七條」ヲ加フ

第四十七條 削除

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(此施行期日ハ明治四十四年四月勅令第百二十八號ヲ以テ明治四十四年七月一日ト指定シタリ)

○農會令改正ノ件

(明治四十三年九月勅令第百五十二號)

朕農會令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農會令中左ノ通改正ス

第一條第一項ヲ左ノ如ク改ム
農會ニハ帝國農會、北海道農會、府縣農會、郡農會又ハ市町村農會ノ名稱ヲ附スヘシ但シ島司ヲ置キタル

島嶼ニ在リテハ島農會、北海道又ハ沖繩縣ノ區ニ在リテハ區農會町村組合ニ在リテハ町村組合農會ト稱ススコトヲ得

第三條中「依ル」ヲ「依リ帝國農會ノ區域ハ全國ヲ以テ其ノ區域トス」ニ改ム

第四條中「組織ス」ヲ「組織シ帝國農會ハ北海道農會及府縣農會ヲ以テ之ヲ組織ス」ニ改ム

第六條ニ左ノ一項ヲ加フ
帝國農會ヲ設立スルニハ之ヲ組織スル農會ノ數道府縣總數ノ三分ノ二以上タルコトヲ要ス

第八條中「農會」ノ設立者ハ「帝國農會以外ノ農會ノ設立者」ニ改ム

第八條ノ二 帝國農會ノ設立ヲ發起スル農會ハ會則案ヲ定メ第四條ニ依リ之ヲ組織スヘキ他ノ農會ニ對シ同意ヲ求ムヘシ

第八條ノ三 帝國農會ノ設立ヲ發起シ及其ノ設立ニ同意シタル農會ハ各一名ノ創立委員ヲ選舉スヘシ其ノ選舉ニ付テハ第十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第八條ノ四 帝國農會ノ設立ヲ發起シ及其ノ設立ニ同意シタル農會ノ數第六條第四項ニ定メタル條件ヲ具備スルニ至リタルトキハ發起者ハ創立委員會ヲ召集シ委員長一名ヲ互選セシムヘシ

創立委員長就任シタルトキハ發起者ハ其ノ事務ヲ之ニ引繼クヘシ

第八條ノ五 創立委員會ニ於テハ會則ヲ議定スヘシ

會則ノ議定ハ道府縣總數ノ三分ノ二以上ニ相當スル
創立委員ノ同意ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第八條ノ六 創立委員會ヲ終リタルトキハ創立委員長
ハ會則ヲ農商務大臣ニ差出シ農會設立ノ許可ヲ受ク
ヘシ

第九條第一項第一號中「北海道農會、府縣農會及郡農
會」ヲ「及市町村農會以外ノ農會」ニ改メ同項ニ左ノ
一號ヲ加フ

十一 第三條第一項ノ區域ニ依ラサル農會ニ在リテ
ハ其ノ區域

第十條第一項中「北海道農會、府縣農會及郡農會」ヲ「其
ノ他ノ農會」ニ、「代表者」ヲ「選舉シタル議員及特別
議員」ニ改ム

同條第二項ノ左ノ如ク改ム

農會ハ議員及豫備議員アルトキ之ヲ代理スヘキ豫備
議員各一名ヲ選舉スヘシ

同條第三項ヲ削ル

第十一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

郡農會ノ議員及豫備議員ハ町村農會ノ總會ニ於テ役
員タル會員中ヨリ、北海道農會及府縣農會ノ議員及
豫備議員ハ郡市農會ノ總會ニ於テ役員タル會員又ハ
議員中ヨリ之ヲ選舉ス但シ役員タル會員又ハ議員中
ヨリ選舉スルコト能ハサル場合ニ於テハ市町村農會
ニ在リテハ其ノ會員中、郡農會ニ在リテハ其ノ議員
中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

第十八條第一項中「代表者」ヲ「其ノ總會ヲ組織スル者
ノ」ニ改ム

同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

帝國農會ノ評議員ハ評議員中ヨリ其ノ三分ノ二、特
別議員中ヨリ其ノ三分ノ一ヲ選舉スヘシ
幹事ハ會長之ヲ命ス

第二十七條中「認ムルトキハ」ノ下ニ「帝國農會」ヲ加フ

第三十條中「代表者」ヲ「議員」ニ改ム

第三十七條中「地方長官」ノ下ニ「帝國農會」ヲ加フ

條三十七條ノ二 本令中郡農會ニ關スル規定ハ島農會
ニ、市農會ニ關スル規定ハ北海道又ハ沖繩縣ノ區農
會ニ、町村農會ニ關スル規定ハ町村組合又ハ町村ニ
準スヘキ地ノ農會ニ之ヲ準用ス
本令ニ依リ郡長ノ行フヘキ職務ハ伊豆七島中島司ヲ
置カサル島嶼ニ在リテハ東京府知事、北海道ニ在リ
テハ支廳長、島司ヲ置キタル島嶼ニ在リテハ島司之
ヲ行フ

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
既設農會ニシテ其ノ會則本令ニ適合セサルモノハ本令
施行後一年內ニ會則ノ變更ヲ爲スヘシ
現ニ市町村農會及郡農會ノ代表者又ハ副代表者タル者
ハ其ノ代表スル農會ヨリ選舉セラレタル議員又ハ豫備
議員ト看做ス但シ其ノ任期ハ代表者又ハ副代表者トシ
テノ殘任期間トス

同條二項ヲ左ノ如ク改ム

帝國農會ノ議員及豫備議員ハ北海道農會及府縣農會
ノ總會ニ於テ其ノ區域內ニ於ケル市町村農會ノ會員
及北海道農會、府縣農會ノ名譽會員中ヨリ之ヲ選舉
スヘシ

帝國農會ノ創立委員ハ第一回ノ議員トシテ選舉セラ
レタルモノト看做ス

同條第三項中「代表者及副代表者」ヲ「議員及豫備議員」
ニ改メ同項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

議員又ハ豫備議員ノ改選期ヲ同一ナラシムル爲必要
アル場合ニ於テハ農會ハ會則ヲ以テ其ノ任期ヲ伸縮
スルコトヲ得

第十二條中「代表者及副代表者」ヲ「議員及豫備議員」ニ
改ム

第十二條ノ二 農商務大臣ハ帝國農會ノ特別議員、地
方長官ハ北海道農會又ハ府縣農會ノ特別議員ヲ命ス
ルコトヲ得但シ其ノ員數ニ其ノ農會ヲ組織スル農會
ノ數ノ三分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

特別議員ノ任期ハ事業年度ニ從ヒ三箇年トス但シ農
商務大臣又ハ地方長官ハ任命ノ際特ニ之ヲ短縮スル
コトヲ得

第十五條中「會員又ハ代表者」ヲ「其ノ總會ヲ組織スル
者」ニ改ム

第十七條中「五名」ノ下ニ「帝國農會ニ在リテハ十五
名」ヲ加フ

○農會令施行規則中改正ノ件

(明治四十三年十月農
商務省令第二十一號)

農會令施行規則中左ノ通改正シ本年十月一日ヨリ之ヲ
施行ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

帝國農會設立ノ許可申請書ニハ前項ノ書面ノ外創立
委員會ノ決議録ノ謄本ヲ添付スヘシ

第二條中「代表者及副代表者」ヲ置キタルモノニ在リテ
ハ副代表者」ヲ「議員及豫備議員」ニ改ム

第四條ノ二 地方長官北海道農會又ハ府縣農會ノ特別
議員ヲ命シタルトキハ遲滯ナク其ノ氏名ヲ農商務大
臣ニ報告スヘシ

第十二條第一項削除

同條第二項中「農會令及」ヲ削ル

第十三條中「農會」ノ上ニ「帝國農會以外ノ」ヲ加フ

○農會補助金交付規則中改正

ノ件 (明治四十三年十月農
商務省令第二十號)

農會補助金交付規則中左ノ通改正シ本年十月一日ヨリ
之ヲ施行ス

第二條中「補助金」ノ下ニ「帝國農會」ヲ加フ

第三條中「北海道農會又ハ府縣」ヲ削ル

第四條第一項中「地方長官」ヲ經由シテ「ヲ削ル

第六條中「地方長官ヲ經由シテ」ヲ削ル
 第七條中「其ノ事業」ノ下ニ「ノ執行ヲ怠リ又ハ之」ヲ加
 「指合ヲ取消シ又ハ補助金額ヲ減少スルコトヲ得」
 ヲ「指合ヲ取消シ、補助金額ヲ減少シ又ハ既ニ交付シ
 タル補助金ヲ還納セシムルコトヲ得」ニ改ム
 第八條ノ二 帝國農會以外ノ農會ヨリ書類ヲ農商務大
 臣ニ差出ストキハ地方長官ヲ經由スヘシ

附則

帝國農會ニ交付スル明治四十三年度ノ補助金ハ第四條
 ノ申請期限及第五條ノ交付期月ニ拘ラス之ヲ交付ス

○病蟲害豫防獎勵規則

(明治四十四年四月慶 商務省令第十三號)

病蟲害豫防獎勵規則左ノ通相定ム

病蟲害豫防獎勵規則

- 第一條 本則ニ於テ病蟲害ト稱スルハ農作物又ハ農産物ニ對スル菌類又ハ蟲類ノ害ヲ謂フ
- 第二條 農商務大臣ハ病蟲害ノ豫防ヲ獎勵スル爲本則ノ定ムル所ニ依リ毎年度ノ豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス
- 第三條 獎勵金ハ左ノ場合ニ於テ府縣ニ之ヲ交付ス
 - 一 府縣ノ費用ヲ以テ病蟲害ノ豫防ヲ督勵スルトキ
 - 二 農商務大臣ニ於テ菌類又ハ蟲類ノ種類又ハ豫防方法ヲ指定シ府縣ヲシテ豫防ヲ督勵セシムルトキ

第四條 農商務大臣必要アリト認ムルトキハ病蟲害豫防ノ研究ヲ目的トスル公益法人ニ獎勵金ヲ交付スルコトアルヘシ

第五條 第三條第一號ノ規定ニ依リ獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル府縣ハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シ前年度ノ二月末日迄ニ農商務大臣ニ差出スヘシ

- 一 主ナル菌類又ハ蟲類ノ種類並ニ豫防方法
- 二 豫防ノ督勵ニ關スル計畫並費用ノ豫算

第六條 獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル公益法人ハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ提出スヘシ

- 一 組織ニ關スル規程
- 二 設備
- 三 業務ノ計畫並費用ノ豫算
- 四 職員ノ氏名並各其ノ履歷ノ大要

第七條 農商務大臣ハ獎勵金ヲ交付シタル府縣又ハ公益法人ニ對シ調査ヲ命シ、報告ヲ徵シ其ノ他必要ナル命令ヲ發スルコトアルヘシ

第八條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル府縣第五條第一項第一號及第二號ノ事項ヲ變更シタルトキハ農商務大臣ニ届出ツヘシ

蠶絲業法

第一條 本法ニ於テ蠶絲業者ト稱スルハ養蠶、蠶種製造、生絲製造、真綿製造、殺蛹乾繭又ハ蠶種、繭ハ生絲、屑物類ノ賣買、仲立若ハ保管ヲ業トスル者ヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ蠶種製造者ト稱スルハ他人ニ讓渡スノ目的ヲ以テ蠶種ヲ製造スル者ヲ謂フ

第三條 本法ニ於テ蠶病ト稱スルハ微粒子病、軟化病、硬化病、膿病及蠶蛆病ヲ謂フ

第四條 蠶兒ノ飼育又ハ生繭ノ取扱ヲ爲ス者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ病蠶及斃蠶ノ病原微生物並蠶蛆及其ノ蛹、蠶ヲ滅殺シ其ノ他蠶病豫防ノ爲必要ナル施設ヲ爲スヘシ

主務大臣ハ學術研究ノ爲蠶兒ノ飼育又ハ生繭ノ取扱ヲ爲ス者ニ對シ前項ノ規定ヲ適用セサルコトヲ得

第五條 蠶種製造者タラムトスル者ハ地方長官ノ免許ヲ受クヘシ

第六條 蠶種製造者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ蠶室及蠶具ノ消毒ヲ行フヘシ

第七條 蠶種製造者ハ第十一條第二項及第十二條ノ規定ニ依リ特別蠶種ヨリ産出シタル繭ヲ用ウルニ非サレハ蠶種ヲ製造スルコトヲ得ス

第八條 蠶種製造者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル繭又ハ蛾ヲ以テ蠶種ヲ製造スルコトヲ得ス

- 一 蠶兒ノ合同シテ作りタル繭
- 二 繭屑片薄ナル繭又ハ形狀不整ナル繭

○蠶絲業法 (明治四十四年三月 法律第四十七號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル蠶絲業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

三 繭層ノ最薄ノ全量百ニ對シ一化性ニ在リテハ十
一、二化性ニ在リテハ八、多化性ニ在リテハ七ニ
達セサルモノ

四 蠶兒ノ發育不良ニシテ收購ノ最著シク減少シタ
ルモノ

五 體軀ノ不完全ナル蛾

六 免許ヲ受ケタル蠶種製造者ニ非サル者ノ飼育シ
タル蠶兒ヨリ産出シタル繭

第九條 蠶種製造者ハ蠶種製造用ノ蠶兒ト同一ノ飼育
時期ニ於テ製絲用ノ蠶兒ヲ飼育スルコトヲ得ス

蠶種製造者ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ蠶
種製造用ノ蠶兒ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス

第十條 蠶種製造者ハ蠶種製造用ノ蠶兒ノ掃立ヨリ蠶
種ノ製造ヲ終ル迄他ノ蠶種製造者又ハ養蠶者ト同一
ノ建物又ハ蠶具ヲ共用スルコトヲ得ス

第十一條 蠶種製造者ハ收購後ニ於テ掃殼及繭、産卵
後ニ於テ越年蠶種ニ在リテハ出殼繭及卵、不越年蠶
種ニ在リテハ出殼繭ニ付検査ヲ受クヘシ但シ不越年
蠶種ニ在リテモ卵ノ検査ヲ受ケシムルコトヲ得

蠶種製造者蠶種ヲ特別蠶種ト爲サムトスルトキハ之
ヲ框製トシ前項ノ検査ノ外越年蠶種ニ在リテハ母蛾
不越年蠶種ニ在リテハ卵及母蛾ノ検査ヲ受クヘシ

第十二條 主務大臣ハ前條ノ規定ニ拘ラス原蠶種製造
所、學校、講習所、試験場等ニ於テ製造シタル蠶種ヲ
特別蠶種ト指定スルコトヲ得

第十八條 主務大臣必要ト認ムルトキハ原蠶種ノ製造
若ハ其ノ讓渡讓受又ハ原蠶種ノ種類ヲ制限スルコト
ヲ得

主務大臣ハ地方特別ノ狀況ニ依リ地方長官ヲシテ前
項ノ制限ヲ爲サシムルコトヲ得

第十九條 主務大臣ハ蠶種又ハ繭ノ賣買又ハ取引市場
ニ關シ取締上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第二十條 蠶種ノ臺紙ニ關シ取締上必要ナル事項ハ命
令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條 蠶種ノ冷蔵ヲ業トセムトスル者ハ地方長
官ノ免許ヲ受クヘシ

第二十二條 府縣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第十一條ノ
検査其ノ他蠶病豫防ノ爲必要ナル吏員ヲ置クヘシ

第二十三條 主務大臣及地方長官ハ必要ニ應シ種繭ノ
審査及原蠶種ノ選定ヲ行ハシムル爲種繭審査會ヲ設
クヘシ

種繭審査會ノ設置、組織、權限及審査選定ニ關スル事
項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條 第五條、第七條、第八條第六號、第十一條
及第三十八條乃至第四十一條ノ規定ハ府縣ニ之ヲ適
用セス

第二十五條 地方長官必要ト認ムルトキハ野蠶ノ飼育
採種又ハ野蠶生繭ノ取扱ヲ業トスル者ニ第四條第一
項ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第二十六條 蠶病豫防事務及地方種繭審査會ニ關シ必
要ナル費用ハ府縣ノ負擔トス但シ國庫ハ其ノ半額以
内ヲ補助スルコトヲ得

第十三條 地方長官ハ第十一條ノ検査ニ合格シタル蠶
種ニハ證印ヲ押捺シ其ノ検査ニ合格セサル蠶種ハ之
ヲ燒棄スヘシ

第十四條 検査合格ノ證印ナキ蠶種及其ノ蠶兒ハ之ヲ
讓渡シ又ハ飼育スルコトヲ得ス但シ第十二條ノ規定
ニ依リ指定セラレタル特別蠶種乃其ノ蠶兒ヲ讓渡シ
若ハ飼育シ又ハ第十七條但書ノ規定ニ依リ移入若ハ
輸入シタル蠶種ノ蠶兒ヲ飼育スルコトヲ妨ケス

第十五條 地方長官ハ錯誤ニ依リ又ハ不法ニ押捺セラ
レタル検査合格ノ證印ヲ發見シタルトキハ遲滞ナク
之ヲ抹消スヘシ

第十六條 蠶種製造者ニ非サル者ハ蠶種ヲ製造スルコ
トヲ得ス

主務大臣必要ト認ムルトキハ學術研究又ハ自家用ノ
爲ニスル蠶種ノ製造及其ノ蠶兒ノ飼育ヲ許可スルコ
トヲ得此ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法
中蠶種製造者ニ關スル規定ノ全部又ハ一部ヲ準用ス
ルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ製造シタル蠶種及其ノ蠶兒ハ第十
二條ノ規定ニ依リ指定セラレタル特別蠶種及其ノ蠶
兒ヲ除クノ外之ヲ讓渡スルコトヲ得ス

第十七條 本法ヲ施行セサル地又ハ外國ニ於テ製造シ
タル蠶種ハ之ヲ移入シ又ハ輸入スルコトヲ得ス但シ
學術研究ノ爲主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ
限ニ在ラス

要ナル費用ハ府縣ノ負擔トス但シ國庫ハ其ノ半額以
内ヲ補助スルコトヲ得

第二十七條 府縣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ蠶種検査ニ
關シ手数料ヲ徵收スヘシ

第二十八條 蠶絲業者ヲ以テ組織スル同業組合聯合會
ノ設置ニ付テハ重要物産同業組合法第三條及第四條
ノ規定ヲ準用ス

第二十九條 前條ノ同業組合聯合會及一府縣以上ヲ地
區トスル蠶絲業者ノ同業組合ニシテ同業組合聯合會
ニ加入セサル者ハ相互ノ氣脈ヲ通シ及蠶絲類ノ海外
貿易ノ發展其ノ他蠶絲業ノ利益増進ヲ圖ル爲全國ヲ
地區トシテ蠶絲業同業組合中央會ヲ設置スルコトヲ
得

主務大臣必要ト認ムルトキハ前項ニ掲ケタル者ノ外
同業組合聯合會ニ加入セサル蠶絲業者ノ同業組合ニ
シテ蠶絲業同業組合中央會ニ加入スヘキ者ヲ指定ス
ルコトヲ得

第三十條 蠶絲業同業組合中央會ノ設置ヲ發起セムト
スル者ハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可アリタルトキハ發起人ハ同業組合聯合會
一府縣以上ヲ地區トスル同業組合ニシテ同業組合聯
合會ニ加入セサル者及前條第二項ノ規定ニ依リ主務
大臣ノ指定シタル同業組同三分ノ二以上ノ同意ヲ
得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ主務大臣ノ認可ヲ
受クヘシ

第三十一條 蠶絲業同業組合中央會成立シタルトキハ同業組合聯合會、一府縣以上ヲ地區トスル同業組合ニシテ同業組合聯合會ニ加入セサル者及第二十九條第二項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ指定シタル同業組合ハ之ニ加入スヘシ

第三十二條 蠶絲業同業組合中央會ノ會議ハ之ヲ組織スル同業組合聯合會及同業組合ニ於テ同業組合ノ組合員中ヨリ選舉シタル議員ヲ以テ組織スヘシ
主務大臣ハ蠶絲業同業組合中央會ノ議員定數ノ五分ノ一ヲ超エサル特別議員ヲ命スルコトヲ得

第三十三條 蠶絲業同業組合中央會議員ノ定數配當及選出方法並役員ノ名稱選任解任及權限ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 重要物産同業組合法第六條、第七條及第十一條乃至第十六條ノ規定ハ蠶絲業同業組合中央會ニ之ヲ準用ス

第三十五條 當該官吏吏員ハ蠶病豫防ニ關シ蠶種又ハ生繭ノ取扱ヲ爲ス者ノ店舗、倉庫、製造場、飼育場等ニ臨檢シ物品及帳簿其ノ他ノ書類ヲ調査シ又ハ必要ナル分量ニ限り無償ニテ物品ヲ收去スルコトヲ得
地方長官本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反スル所爲アリト認ムルトキハ當該官吏吏員ヲシテ前項ニ掲ケタル場所ニ臨檢シ犯罪嫌疑者若ハ參考人ヲ尋問シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類ヲ搜索シ若ハ之カ差押ヲ爲サシムルコトヲ得

臨檢、尋問、搜索又ハ差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス

第三十六條 當該官吏吏員ハ自己、親族又ハ同居者ニ對シ第十一條ノ檢査ヲ爲スコトヲ得ス

第三十七條 蠶絲業者ノ所爲ニシテ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ地方長官ハ其ノ業務ヲ停止シ若ハ制限シ又ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得
前項ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得其ノ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
一 詐欺ノ所爲ヲ以テ第十一條ノ檢査ヲ受ケタル者
二 第十四條又ハ第十七條ノ規定ニ違反シタル者
三 第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
一 免許ヲ受ケスシテ他人ニ讓渡スノ目的ヲ以テ蠶種ヲ製造シタル者
二 免許ヲ受ケスシテ蠶種冷蔵ノ業ヲ爲シタル者
三 第四條第一項又ハ第六條ノ規定ニ違反シタル者
四 第七條、第八條又ハ第十六條第三項ノ規定ニ違反シタル者

第四十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
一 本法中府縣ニ關スル規定ハ北海道ニ於テハ北海道地方費ニ之ヲ準用ス

第四十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
蠶病豫防法ハ之ヲ廢止ス

第四十八條 本法ハ沖繩縣、小笠原島、伊豆七島其ノ他命令ヲ以テ指定スル區域ニ之ヲ施行セス

第四十九條 蠶病豫防法ニ依ル檢査合格ノ證印ハ之ヲ本法ニ依ル檢査合格ノ證印ト看做ス

第五十條 蠶病豫防法ニ依リ檢査ニ合格シタル原種ハ之ヲ特別蠶種ト看做ス

第五十一條 本法施行前製造シタル自家用蠶種ノ蠶兒ハ本法施行後ト雖之ヲ飼育スルコトヲ得

第五十二條 本法施行ノ際蠶種ノ冷蔵ヲ業トスル者ハ本法施行後一年ヲ限り免許ヲ受ケスシテ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

○蠶絲業改良獎勵費交付規則

(明治四十四年五月四日 商務省令第二十二號)

蠶絲業改良獎勵費交付規則左ノ通知相改ム

第一條 桑園ノ改良増殖又ハ繭質ノ改良整理ニ關シ本則ノ定ムル所ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵費ヲ府縣ニ交付ス

一 第九條又ハ第十條ノ規定ニ違反シタル者
二 第十六條第一項ノ規定ニ違反シタル者
第四十一條 第三十八條、第三十九條第一號第四號又ハ前條第二號ノ犯罪ニ係ル蠶種、蠶兒又ハ繭ハ之ヲ沒收シ既ニ讓渡シタル場合ニ於テハ其ノ價額ヲ追徵ス
前項ノ蠶種又ハ蠶兒犯人以外ノ者ニ屬スルトキハ行政官廳ノ處分ヲ以テ之ヲ沒收スルコトヲ得

第四十二條 第三十五條ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ妨ケタル者又ハ臨檢ノ際當該官吏吏員ノ尋問ニ對シテ答辯ヲ爲ササル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十三條 蠶絲業者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條 蠶絲業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス但シ相當ノ注意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第二條 桑園ノ改良増殖ニ關スル獎勵費ハ左記各號ノ

- 一 該當スル事項ヲ行フ場合ニ之ヲ交付ス
- 二 桑種苗ノ無償配付ヲ爲シ又ハ之ヲ目的トシテ其ノ設備ヲ爲スコト
- 三 桑園ノ新設、桑樹ノ植替ニ對シ獎勵金ヲ交付スルコト
- 四 桑園ノ品評會其ノ他桑園ノ改良ニ關シ施設ヲ爲スコト
- 五 農商務大臣ノ定メタル條件ニ依リ桑園ニ關スル試驗ヲ爲スコト
- 六 郡市町村、農會其ノ他ノ團體ニ對シ前各號ニ掲ケタル事項ノ全部又ハ一部ヲ行フコトヲ條件トシテ補助金ヲ交付スルコト
- 七 第三條 繭質ノ改良整理ニ關スル獎勵費ハ種繭審査會ヲ設ケ左記各號ノ一ニ該當スル事項ヲ行フ場合ニ之ヲ交付ス
 - 一 原蠶種製造所ヲ設ケ種繭ヲ生産シ若ハ買收シテ原蠶種ヲ製造シ又ハ原蠶種ヲ買收シテ蠶種製造者ニ之ヲ無償配付スルコト
 - 二 郡市、郡市以上ヲ區域トスル農會其ノ他ノ團體ニ對シ前號ニ該當シタル事項ヲ行フコトヲ條件トシテ補助金ヲ交付スルコト
 - 三 特定ノ法ニ依リ種繭ヲ生産シ原蠶種ヲ製造スル者ニ獎勵金又ハ補助金ヲ交付スルコト
 - 四 蠶種製造者ノ原蠶種製造用種繭ノ審査ヲ爲スコト

第四條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ桑種苗ノ有償

- 一 配付若ハ之ヲ目的トスル設備ヲ爲シ又ハ其ノ配付若ハ設備ヲ爲スコトヲ條件トシテ郡市町村、農會其ノ他ノ團體ニ補助金ヲ交付シ又ハ原蠶種製造所ヲ設ケ原蠶種ノ有償配付ヲ爲シ若ハ之ヲ爲スコトヲ條件トシテ郡市、郡市以上ヲ區域トスル農會其ノ他ノ團體ニ補助金ヲ交付スル府縣ニ對シ獎勵費ヲ交付スルコトアルヘシ
- 二 前條第一號ニ該當シタル事項ヲ行フコトヲ條件トシテ郡市町村以上ヲ區域トスル農會其ノ他ノ團體ニ補助金ヲ交付スルトキ前項ニ同シ
- 三 第五條 獎勵費ノ交付ヲ受ケムトスル府縣ハ申請書ヲ桑園ノ改良増殖ニ關スルモノト繭質ノ改良整理ニ關スルモノトニ區別シ之ニ左ノ各號ニ掲ケタル該當事項ノ書類ヲ添附シテ毎年度四月末日迄ニ農商務大臣ニ差出スヘシ
 - 一 費用ノ豫算書及有償配付ヲ行フトキハ其ノ收入豫算書
 - 二 桑種苗又ハ原蠶種ヲ配付スルトキハ其ノ設備及規程
 - 三 種繭審査會ニ關スル規定
 - 四 獎勵金又ハ補助金ノ交付規程
 - 五 監督ニ關スル規程又ハ方法書
 - 六 第二條第五號又ハ第三條第二號ノ場合ニ於テハ

○茶業取締ニ關スル件

(明治四十四年農商務省令第二十號)

- 茶業取締ニ關スル件左ノ通相定メ明治四十四年五月五日ヨリ之ヲ施行ス
- 一 左ノ各號ノ一ニ該當スル製茶ヲ製造又ハ賣買シタル茶業者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第一號又ハ第二號ニ該當スル製茶ニシテ本令施行ノ際現ニ存在スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 - 一 粘質物ヲ用キテ製造シタルモノ又ハ之ヲ他ノ茶ニ混シタルモノ
 - 二 物料ヲ用キテ色澤ヲ附シタルモノ又ハ之ヲ他ノ茶ニ混シタルモノ
 - 三 腐敗シタルモノ又ハ之ヲ他ノ茶ニ混シタルモノ
 - 四 土砂其ノ他ノ不純物料ヲ混シタルモノ

○鑛業法中改正ノ件

(明治四十四年三月法律第九號)

- 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鑛業法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 一 鑛業法中左ノ通改正ス
 - 二 第十一條中「鑛業ヲ爲シ又ハ鑛業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス」ヲ「鑛業ヲ爲スコトヲ得ス」ニ改ム
 - 三 第十四條ノ二 農商務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本

- 一 前各號ニ掲ケタル該當事項ノ外郡市町村、農會其ノ他ノ團體ノ前各號ニ掲ケタル該當事項ノ要領
- 二 第六條 獎勵費ノ交付ヲ受ケタル府縣ニシテ前條各號ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキハ農商務大臣ニ届出ツヘシ
- 三 第七條 獎勵費ノ交付ヲ受ケタル府縣ハ五月末日迄ニ別記様式ニ依リ前年度ノ成績ヲ八月末日迄ニ前年度ノ決算ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ
- 四 第八條 獎勵費ノ交付ヲ受ケタル府縣ノ經費支出額カ獎勵費交付ノ指定ヲ受ケタル當時ニ於ケル豫算額ニ達セサルトキハ農商務大臣ハ其ノ交付シタル獎勵費第ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ

附則

- 一 第九條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 二 明治四十二年農商務省令第四號桑園増殖獎勵費交付規則ハ之ヲ廢止ス
- 三 第十條 本則中府縣ニ關スル規定ハ北海道ニ於テハ北海道地方費ニ之ヲ準用ス
- 四 第十一條 明治四十四年度ニ限り第五條ノ繭質ノ改良整理ニ關スル申請書差出期日ヲ七月末日迄トス
- 五 第十二條 明治四十二年農商務省令第四號桑園増殖獎勵費交付規則第三條ニ依リ差出シタル申請書ハ本則第五條ニ依リ桑園ノ改良増殖ニ増出シタル申請書ト看做ス

(別記ハ之ヲ畧ス)

法ニ依ル職權ノ一部ヲ鑛山監督署長ニ委任スルコトヲ得

第三十三條ノ二 試掘權者試掘權ノ存續期間滿了後十日以内ニ同種ノ鑛物ニ付更ニ鑛業ノ出願ヲ爲シタルトキハ舊試掘鑛區ニ係ル部分ニ付テハ他ノ出願人ニ對シ優先權ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ他人ノ出願ノ目的異種ノ鑛物ナルトキハ第三十一條ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ前項ノ出願ヲ爲シタル者ヲ以テ鑛業權者ト看做ス

第三十四條中「前條」ヲ「第三十三條」ニ改ム

第三十六條 鑛業權者ハ隣接鑛區ノ鑛業權者及抵當權者ノ承諾ヲ得タルトキハ其ノ鑛區ニ掘進スル爲増區ヲ出願スルコトヲ得

鑛床ノ位置形狀ニ依リ隣接鑛區ニ掘進スルニ非ザルハ鑛利ヲ保護スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ鑛業權者ノ承諾ヲ得テ鑛區ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鑛業權者ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

前二項ノ出願ヲ爲サムトスル者ハ其ノ願書ニ鑛區圖ノ外鑛床圖ヲ添附スヘシ

前項ノ鑛床圖ハ之ヲ鑛區圖ノ一部ト看做ス

第八十一條ニ左ノ一項ヲ加フ
自己ノ掘採シタル鑛物ト他人ヨリ取得シタル鑛物トヲ合併シ製鍊スル場合ニ於テ其ノ取得鑛物ヨリ製出シタル鑛產物ニ付テモ亦前項ニ同シ但シ其ノ取得鑛

物ノ數量カ自己ノ掘採シタル鑛物ノ數量ニ超過スルトキハ其ノ超過部分コリ製出シタル鑛產物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附則
本法ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○漁業法施行期日ノ件

(明治四十四年一月)
(勅令第四百二十八號)

朕漁業法施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
漁業法ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○漁業法施行規則

(明治四十三年十一月)
(商務省令第二十五號)

漁業法施行規則左ノ通改正ス

漁業法施行規則

第一章 總則

第一條 漁業ニ關スル出願、申請及届出ハ漁場ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ爲スヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農商務大臣ニ之ヲ爲スヘシ

- 一 專用漁業ニ關スルトキ
- 二 入漁權ニ關スルトキ
- 三 二以上ノ長官ノ管轄ニ屬スル漁場ニ於ケル漁業ニ關スルトキ
- 四 漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサル漁業ニ關スルトキ

前項第三號又ハ第四號ニ該當スル場合ニ於テハ農商務大臣ハ管轄地方長官ヲ指定スルコトヲ得農商務大臣ノ處分ヲ爲シタルモノニ付亦同シ

第二條 農商務大臣ニ出願、申請又ハ届出ヲ爲サムトスルトキハ漁場ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ但シ漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサルトキハ住所ノ地方長官ヲ經由スヘシ

第三條 漁業ニ關スル行政行為ニ付テハ關係地方長官ハ交互ニ補助スルモノトス

第四條 行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ出願、申請又ハ届出ヲ爲シタル者、漁業權者、入漁業權者其ノ他漁業ニ關シ利害ノ關係ヲ有スル者ニ對シ書類ノ提出、訂正若ハ補充又ハ物件ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第五條 住所又ハ居所ノ不分明其ノ他ノ事由ニ依リ書類ノ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ行政官廳ハ其ノ事由及書類ノ要領ヲ公告スヘシ此ノ場合ニ於テハ公告ノ終リタル日ヨリ起算シテ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ書類ノ送付アリタルモノト看做ス

第六條 本則ニ依リ行政官廳ノ爲スヘキ公告ハ慣行ノ公布式ニ依ルモノトス

第七條 漁業法第三條第二項ノ水面ノ占有者又ハ其ノ敷地ノ所有者ニシテ同條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ水面又ハ敷地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ出願

スヘシ
願書ニハ左ニ掲グル書面ヲ添附スヘシ

- 一 許可ヲ受ケントスル事由書
 - 二 占有者又ハ所有者タルコトヲ證スヘキ書面
 - 三 許可ヲ受ケムトスル區域ノ圖面
 - 四 漁業權ノ設定アルトキハ其ノ漁業權者及登錄シタル權利者ノ同意若シ其ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由書
- 第八條 前條ノ出願ヲ許可シタルトキハ地方長官ハ之ヲ公告シ若シ漁業權者其ノ他登錄シタル權利者アルトキハ之ヲ通知スヘシ
- 第九條 地方長官ハ漁業法第三條第二項ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ許可シタル區域ノ標識ノ建設ヲ命スルコトヲ得

第二章 漁業ノ免許

第十條 本則ニ於テ免許漁業ト稱スルハ定置漁業、區劃漁業、專用漁業及特別漁業ヲ謂フ

第十一條 本則ニ於テ定置漁業ト稱スル漁具ヲ定置シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、區劃漁業ト稱スルハ水面ヲ區劃シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、專用漁業ト稱スルハ他ノ免許漁業ニ該當セスシテ水面ヲ専用シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ特別漁業ト稱スルハ第十四條各號ニ掲ケル漁業ヲ謂フ

第十二條 定置漁業ノ種類左ノ如シ
一 盛網類漁業 敷網及垣網又ハ敷網ヲ土俵若ハ碇

- 等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ
- 二 落網類漁業 落網、上綱及垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ
- 三 掛網類漁業 側網及垣網ヲ碇土俵若ハ支柱等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ
- 四 建網類漁業 曲網及垣網又ハ刺網ヲ一定ノ水面ニ敷設スルモノ
- 五 出網類漁業 垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ
- 六 張網類漁業 蕨網又ハ立廻網ヲ支柱若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ建設若ハ敷設スルモノ
- 七 帆築類漁業 一定ノ水面ニ支柱ヲ以テ簀若ハ網ヲ建設シ又ハ竹、木、石堤等ヲ建設シテ陷穽ノ裝置若ハ魚堰ヲ設クルモノ
- 第十三條 區劃漁業ノ種類左ノ如シ
 - 一 第一種 一定ノ區域内ニ於テ瓦、石、竹、木等ヲ沈設シ又ハ簀ヲ建設シテ爲ス養殖業
 - 二 第二種 土、石、竹、木等ノ圍障ニ依リ限界セラレタル一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業
 - 三 第三種 前二號ノ外一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業
- 第十四條 左ニ掲クル漁業ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ
 - 一 第一種 一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業
 - 二 第二種 一定ノ追込場ヲ有スル海豚漁業

- 三 第三種 一定ノ曳揚場ヲ有スル地曳網、地漕網漁業
- 四 第四種 一定ノ曳寄場ヲ有スル船曳網漁業
- 五 第五種 一定ノ網場ヲ有スル蕨待網漁業
- 六 第六種 一定ノ網場ヲ有スル敷網漁業
- 七 第七種 一定ノ水面ニ於テ飼付ヲ爲ス漁業
- 八 第八種 一定ノ水面ニ漬場ヲ設クル鰯漁業
- 九 第九種 一定ノ水面ニ築磯ヲ設クル漁業
- 第十五條 前三條ニ該當スル免許漁業ノ名稱ハ農商務大臣別ニ之ヲ告示ス
- 第十六條 左ノ區域ヲ以テ免許漁業ノ漁場トス
 - 一 定置漁業ニ在リテハ漁具ヲ建設シ又ハ敷設スル區域
 - 二 區劃漁業ニ在リテハ養殖ヲ爲ス區域
 - 三 專用漁業ニ在リテハ專用スル區域
 - 四 特別漁業中第一種ニ在リテハ網場又ハ捕獲場ノ區域、第二種ニ在リテハ追込場ノ區域、第三種及飼養ヲ爲ス區域、第八種ニ在リテハ漬場ノ區域、第九種ニ在リテハ築磯ノ區域
- 第十七條 水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他公益上必要アリト認ムルトキ又ハ漁業ノ價值ナシト認ムルトキハ漁業ノ免許ヲ與ヘス
- 漁業權者及登錄シタル權利者ノ同意アル場合ヲ除クノ外既ニ免許ヲ與ヘタル漁業ト相容レスト認ムルトキハ

キ亦同シ

- 前項ノ規定ハ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ニ之ヲ適用セズ
- 第十八條 漁業ノ免許ハ市、町、村、町村組合及市町村内ノ獨立シタル區ニ之ヲ與ヘス但シ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ノ規定ハ北海道、沖繩縣及沖繩縣島嶼町村制ヲ施行シタル島嶼ノ區又ハ町村内ノ一部ニ之ヲ適用ス
- 第十九條 第十七條第一項及第二項ノ規定ハ漁業權變更ノ許可ノ出願ニ之ヲ準用ス
- 第二十條 從來ノ慣行ニ因ル專用漁業權者ハ其ノ漁業ノ種類ヲ増加シ又ハ漁場ノ區域ヲ擴張スル變更ノ許可ヲ出願スルコトヲ得ス
- 第二十一條 地勢上漁業組合毎ニ其ノ地先水面ヲ區分スルコト能ハサルトキ又ハ其ノ區分カ著シク困難ナルトキハ關係漁業組合ハ共同シテ其ノ地先水面ノ專用ヲ出願スルコトヲ得
- 第二十二條 漁業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ專用漁業ニ在リテハ漁場毎ニ、其ノ他ノ免許漁業ニ在リテハ漁業ノ名稱及漁場毎ニ願書二通ヲ作り之ヲ出願スヘシ
- 願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 專用漁業ニ在リテハ漁具ノ種類又ハ漁業ノ方法
 - 其ノ他ノ免許漁業ニ在リテハ漁業ノ種類及名稱
 - 二 漁獲物ノ種類

二 漁業時期

- 四 漁業權存續期間
- 第二十三條 前條ノ願ニハ漁場ノ位置及區域ヲ記載シタル漁場圖二通ヲ添附スヘシ
- 前項ノ記載事項ノ外定置漁業ノ漁場圖ニハ漁具ノ建設又ハ敷設ノ形狀ヲ、區劃漁業ノ漁場圖ニハ漁場ノ面積ヲ記載スヘシ
- 第二十四條 免許ヲ受ケムトスル漁場ノ敷地カ他人ノ所有ニ屬スルトキ又ハ水面カ他人ノ占有ニ係ルトキハ其ノ所有者又ハ占有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ漁業ノ免許ノ願書ニ添附スヘシ
- 第二十五條 二人以上共同シテ漁業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ内一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ之ヲ行政官廳ニ届出テ又ハ出願ノ書面ニ記載スヘシ
- 前項ノ規定ニ依リ代表者ノ届出又ハ記載ナキトキハ行政官廳ハ代表者ヲ指定スヘシ
- 第二十六條 代表者ハ共同者全員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得
- 代表者ニ變更アリタルトキハ行政官廳ニ之ヲ届出ツヘシ
- 代表者ノ變更ハ前項ノ届出ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ行政官廳ニ對抗スルコトヲ得
- 第二十七條 前二條ノ規定ハ二人以上共同シテ漁業權又ハ之ヲ目的トスル權利若ハ入漁權ヲ取得シタル者ニ之ヲ準用ス

第二十八條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス
第二十五條及第二十六條ノ規定ニ依ル代表者ハ免許
ヲ受ケタル漁業權ニ付其ノ共同者ヲ代表スル者ト看
做ス

第二十九條 漁業ノ免許ヲ與ヘタルトキハ左ノ事項ヲ
公告スヘシ

- 一 免許ノ番號
 - 二 免許ノ年月日
 - 三 漁業權者又ハ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所
 - 四 漁場ノ位置
 - 五 漁業ノ種類及名稱
 - 六 漁獲物ノ種類
 - 七 漁業時期
 - 八 漁業權ノ存續期間
 - 九 免許ニ條件又ハ制限ヲ附シタルトキハ其ノ事項
- 第三十條 漁業權ノ分割其ノ他ノ變更ノ許可ヲ受ケム
トスルトキハ願書ニ通テ作リ免許ヲ受ケタル行政官
廳ニ之ヲ出願スヘシ若シ登錄シタル權利者アルトキ
ハ其ノ同意ヲ證スル書面ヲ、其ノ出願カ漁業權ノ分
割又ハ漁場區域ノ變更ニ係ルトキハ尙其ノ分割又ハ
變更スル漁場ノ漁場圖ニ通テ添附スヘシ
- 第二十三條ノ規定ハ前項ノ漁場圖ニ之ヲ準用ス
- 第三十一條 漁業權存續期間更新ノ免許ヲ受ケムトス
ルトキハ更新期間ヲ定メ申請書ニ通テ作リ存續期間
満了ノ日ヨリ少クトモ三月前ニ之ヲ申請スヘシ

第二十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ慣
行ニヨリ免許ヲ受ケタル漁業權ニ付テハ此ノ限ニ在
ラス

第三十二條 漁業權ノ分割其ノ他ノ變更ヲ許可シタル
トキ又ハ漁業權存續期間ノ更新ヲ免許シタルトキハ
之ヲ公告スヘシ

第三十三條 漁業ノ免許ヲ取消シ、免許シタル漁業ヲ
制限若ハ停止シ又ハ其ノ處分ヲ變更若ハ取消シタル
トキハ當該官廳ハ之ヲ公告シ且遲滞ナク登錄シタル
權利者ニ通知スヘシ但シ地方長官ノ免許シタル漁業
ニ關シ農商務大臣ノ爲シタル處分ノ通知ハ地方長官
之ヲ爲スヘシ

第三十四條 漁業法第二十五條ノ規定ニ依リ地方長官
漁業ノ免許ヲ取消サムトスルトキハ農商務大臣ノ認
可ヲ受クヘシ

第三十五條 漁業法第十條第二項ノ認可ヲ受ケムトス
ルトキハ其ノ事由ヲ具シ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ
之ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ漁業權者カ其ノ持分ノ處分ヲ爲ス
トキハ他ノ共有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ、拋棄ヲ爲
ストキハ登錄シタル權利者ノ同意ヲ證スル書面ヲ申
請書ニ添附スヘシ

第三十六條 免許漁業ニ付休業ノ認可ヲ受ケムトスル
トキハ休業期間ヲ定メ其ノ事由ヲ具シ免許ヲ受ケタ
ル行政官廳ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタル者漁業ヲ爲スニ至リタルトキ
ハ遲滞ナク之ヲ届出ツヘシ

休業認可ノ期間内漁業ヲ爲シタルトキハ爾後認可ノ
效力ヲ失フ

第三十七條 漁業權ヲ拋棄シタルトキハ免許ヲ受ケタ
ル行政官廳ニ之ヲ届出ツヘシ

前項ノ届出ニハ登錄シタル權利者アルトキハ其ノ同
意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第一項ノ届出アリタルトキハ行政官廳ハ之ヲ公告ス
ヘシ

第三章 土地ノ使用

第三十八條 漁業法第二十九條ノ許可ヲ受ケムトスル
トキハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添
ヘ行政官廳ニ之ヲ出願スヘシ

一 土地ノ使用ニ付テハ其ノ所在、地番、種目及面
積、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所、使用
ノ目的、時期及期間

二 立木竹若ハ土石ノ除去ノ制限ニ付テハ其ノ種類
存在ノ場所、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住
所、使用ノ目的及期間

第三十九條 前條ノ出願ヲ許可シタルトキハ行政官廳
ハ所有者及占有者ニ之ヲ通知シ且公告スヘシ

第四十條 漁業權者ニ對シテ爲シタル漁業法第二十九
條乃至第三十一條ノ許可ハ其ノ承繼人及其ノ漁業權
ニ依リ漁業ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ爲メニモ效力ヲ

有ス

第四十一條 漁業法第三十條ノ許可ヲ受ケムトスルト
キハ土地ノ所在、地番、種目、面積及現況、所有者
及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所、使用ノ時期及期間
ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ行政官廳ニ之ヲ出願
スヘシ

第四十二條 第三十八條及第四十一條ノ行政官廳ハ土
地又ハ立木竹若ハ土石ノ所在地ヲ管轄スル地方長官
トス但シ土地又ハ立木竹若ハ土石ノ所在地ト漁場ト
ヲ管轄スル地方長官異ナルトキ又ハ漁場ヲ管轄スル
地方長官明確ナラサル漁業ノ爲ナルトキハ之ヲ農商
務大臣トス

前項但書ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ管轄地方長官
ヲ指定スルコトヲ得

第四十三條 漁業法第三十一條ノ許可ヲ受ケムトスル
トキハ土地又ハ支障木竹若ハ障礙物ノ所在地ヲ管轄
スル郡長又ハ島司ニ之ヲ出願スヘシ

前項ノ土地カ郡長又ハ島司ノ管轄ニ屬セザルトキハ
所轄警察官署ニ之ヲ出願スヘシ

第四十四條 漁業法第三十一條ノ規定ニ依リ他人ノ土
地ニ立入り又ハ支障木竹ヲ伐採シ若ハ障礙物ヲ除去
セムトスル者ハ當該官廳ノ許可證ヲ携帯スヘシ

第四章 蕃殖保護及漁業取締

第四十五條 漁業法第三十四條ニ依ル命令ハ官廳又ハ
公署ニ於テ調査又ハ試験ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用セス

養殖、學術、研究其ノ他特別ノ理由ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合亦同シ

第四十六條 水産動物ノ疲憊又ハ斃死セシムヘキ有毒物ヲ使用シテ水産動物ヲ採捕スルコトヲ得ス

第四十七條 漁業法第三十六條又ハ前條ノ規定ヲ犯シ採捕シタル水産動物ハ之ヲ所持又ハ販賣スルコトヲ得ス

第四十八條 遡河魚類ノ通路ヲ遮斷シテ漁業ヲ爲ストキハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ魚道ヲ開通スヘシ

第四十九條 行政官廳ハ漁業取締ノ爲定置漁業及特別漁業ニ付命令ヲ以テ保護區域ヲ設クルコトヲ得

保護區域ヲ設クルトキハ其ノ漁業ノ妨害ト爲ルヘキ漁業ノ制限若ハ禁止ニ付規定ヲ設クヘシ

第五十條 左ニ掲クル漁業ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一 藻手燥網漁業

二 藻漕網漁業

三 藻打網漁業

四 藻曳網漁業

五 潜水器漁業

六 空釣繩漁業

前項ノ漁業ノ地方名稱ハ地方長官之ヲ公示スヘシ
地方長官第一項ノ漁業ヲ許可シタルトキハ鑑札ヲ下付スヘシ

第五十一條 前條ノ漁業者漁業ヲ爲ストキハ鑑札ヲ携

帶スヘシ

第五十二條 地方長官禁漁區ヲ設ケタルトキハ適當ノ場所ニ其ノ標識ヲ建設スヘシ

第五十三條 漁場標識ヲ建設シタルトキハ其ノ漁場標識タルコトヲ明示スヘシ

第五十四條 臨檢、搜索及差押ニ關シテハ問接國稅犯則者處分法施行規則第二條乃至第五條、第八條及第十二條ノ規定ヲ準用ス

第五章 裁 決

第五十五條 漁業法第五十六條第一項ノ裁決ヲ申請セムトスルトキハ漁業權ニ關シテハ漁業ノ免許ヲ與ヘタル行政官廳ニ、入漁權ニ關シテハ農商務大臣ニ之ヲ爲スヘシ但シ關係者ニ免許ヲ與ヘタル行政官廳異ナルトキ又ハ漁業權者、入漁權者間ノ争ニ關スルトキハ農商務大臣ニ之ヲ爲スヘシ

第五十六條 裁決ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 申請者及相手方ノ氏名若ハ名稱及住所

二 申請ノ目的及理由

三 立證

申請書ニハ證據書類ヲ添附スヘシ

第五十七條 申請書ニハ相手方ノ數ニ應シ前條書類ノ副本ヲ添附スヘシ

第五十八條 行政官廳ニ於テ裁決ノ申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ相手方ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シテ答辨書ヲ差出サシムヘシ

第五十九條 裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附スヘシ裁決ノ申請ヲ却下スルトキ亦同シ

第六章 罰 則

第六十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四十六條第四十七條ノ規定ヲ犯シタル者

二 禁漁區内ニ於テ其ノ禁止シタル水産動物ヲ採捕シタル者

前項ノ場合ニ於テ犯人ノ所有シ又ハ所持スル收穫物及漁具ハ之ヲ沒收ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第六十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第四十八條又ハ第五十條第一項ノ規定ヲ犯シタル者

二 禁漁區又ハ第九條ノ標識ヲ移轉シ、汚損シ又ハ毀壞シタル者

第六十二條 第五十一條ノ規定ヲ犯シタル者ハ科料ニ處ス

附 則

第六十三條 本則ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十四條 本則施行前漁業ニ關シ農商務大臣又ハ地方長官ノ發シタル命令ノ規定ニシテ漁業法又ハ本則

ノ規定ニ抵觸セサルモノハ漁業法及本則ニ依リ之ヲ發シタルモノト見做ス

第六十五條 本則施行前ノ漁業ニ關スル申請ニシテ未タ處分ヲ終ラサルモノニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

○工場法 (明治四十四年三月法律第四十六號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル工場法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル工場ニ之ヲ適用ス

一 常時十五人以上ノ職工ヲ使用スルモノ

二 事業ノ性質危險ナルモノ又ハ衛生上有害ノ虞アルモノ

本法ノ適用ヲ必要トセサル工場ハ勅令ヲ以テ之ヲ除外スルコトヲ得

第二條 工場主ハ十二歳未満ノ者ヲシテ工場ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス但シ本法施行ノ際十歳以上ノ者ヲ引續キ就業セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

行政官廳ハ輕易ナル業務ニ付就業ニ關スル條件ヲ附シテ十歳以上ノ者ノ就業ヲ許可スルコトヲ得

第三條 工場主ハ十五歳未満ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十二時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス

主務大臣ハ業務ノ種類ニ依リ本法施行後十五年間ヲ限リ前項ノ就業時間ヲ二時間以内延長スルコトヲ得

就業時間ハ工場ヲ異ニスル場合ト雖前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ通算ス

第四條 工業主ハ十五歳未満ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前四時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ適用セス但シ本法施行十五年後ハ十四歳未満ノ者及二十歳未満ノ女子ヲシテ午後十時ヨリ午前四時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス

一 一時ニ作業ヲ爲スコトヲ必要トスル特種ノ事由アル業務ニ就カシムルトキ
二 夜間ノ作業ヲ必要トスル特種ノ事由アル業務ニ就カシムルトキ

三 晝夜連続作業ヲ必要トスル特種ノ事由アル業務ニ職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムルトキ

前項ニ掲ケタル業務ノ種類ハ主務大臣之ヲ指定ス
第六條 職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ本法施行後十五年間第四條ノ規定ヲ適用セス

第七條 工場主ハ十五歳未満ノ者及女子ニ對シ毎月少クトモ二回ノ休日ヲ設ケ、職工ヲ二組ニ分チ交替ニ午後十時ヨリ午前四時ニ至ル間ニ於テ就業セシムル場合及第五條第一項第二號ノ該當スル場合ニ於テハ少クトモ四回ノ休日ヲ設ケ又一日ノ就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユル

トキハ少クトモ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ於テ設クヘシ

職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ午後十時ヨリ午前四時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルトキハ十日ヲ超エサル期間毎ニ其ノ就業時ヲ轉換スヘシ

第八條 天災時變ノ爲又ハ事變ノ虞アル爲必要アル場合ニ於テハ主務大臣ハ事業ノ種類及地域ヲ限リ第三條乃至第五條及前條ノ規定ノ適用ヲ停止スルコトヲ得

避クヘカラサル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ期間ヲ限リ第三條ノ規定ニ拘ラス就業時間ヲ延長シ、第四條及第五條ノ規定ニ拘ラス職工ヲ就業セシメ又ハ前條ノ休日ヲ廢スルコトヲ得

臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ其ノ都度豫メ行政官廳ニ届出テ一月ニ付七日ヲ超エサル期間就業時間ヲ二時間以内延長スルコトヲ得

季節ニ依リ繁忙ナル事業ニ付テハ工業主ハ一定ノ期間ニ付豫メ行政官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ期間中一年ニ付百二十日ノ割合ヲ超エサル限リ就業時間ヲ一時間以内延長スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ認可ヲ受ケタル期間ハ前項ノ規定ヲ適用セス

第九條 工業主ハ十五歳未満ノ者及女子ヲシテ運轉中ノ機械若ハ動力傳導裝置ノ危険ナル部分ノ掃除、注油、検査若ハ修繕ヲ爲サシメ又ハ運轉中ノ機械若ハ

動力傳導裝置ニ調帶、調索ノ取附ケ若ハ取外シヲ爲サシメ其ノ他危険ナル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

第十條 工業主ハ十五歳未満ノ者ヲシテ毒藥、劇藥其ノ他有害物品又ハ爆發性發火性若ハ引火性ノ物品ヲ取扱フ業務及著シキ塵埃、粉末ヲ飛散シ又ハ有害瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務其ノ他危険又ハ衛生上有害ナル場所ニ於ケル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

第十一條 前二條ニ掲ケタル業務ノ範圍ハ主務大臣之ヲ定ム

前條ノ規定ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ十五歳以上ノ女子ニ付テハ適用スルコトヲ得

第十二條 主務大臣ハ病者又ハ産婦ノ就業ニ付制限又ハ禁止ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十三條 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ工場及附屬建設物並設備カ危害ヲ生シ又ハ衛生、風紀其ノ他公共ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲必要ナル事項ヲ工業主ニ命シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ停止スルコトヲ得

第十四條 當該官吏ハ工場又ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ

第十五條 職工自己ノ重大ナル過失ニ依ラスシテ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本人又ハ其ノ遺族ヲ扶助ス

ヘシ

第十六條 職工徒弟、職工徒弟タラムトスル者若ハ工業主又ハ其ノ法定代理人若ハ工場管理人ハ職工徒弟又ハ職工徒弟タラムトスル者ノ戸籍ニ關シ戸籍吏ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第十七條 職工ノ雇入、解雇、周旋ノ取締及徒弟ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 工業主ハ工場ニ付一切ノ權限ヲ有スル工場管理人ヲ選任スルコトヲ得

工業主本法施行區域内ニ居住セサルトキハ工業管理人ヲ選任スルコトヲ要ス
工場管理人ノ選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ法人ノ理事、會社ノ業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者及支配人ノ中ヨリ選任スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 前條ノ工場管理人ハ本法及本法ニ基キテ發スル命令ノ適用ニ付テハ工業主ニ代ルモノトス但シ

第十五條ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
工業主營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治產者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テ工場管理人ナルトキハ其ノ法定代理人又ハ理事、業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ付亦前項ニ同シ

第二十條 第二條乃至第五條、第七條、第九條又ハ第十條ノ規定ニ違反シタル者及第十三條ノ規定ニ依ル處分ハ從ハサル者ハ五百圓以下ノ罰金處ス

第二十一條 正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケ若ハ其ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲ササル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス但シ工場ノ管理ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者ハ職工ノ年齡ヲ知ラサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス但シ工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者及取扱者ニ過失ナカリシ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 本法ニ依ル行政官廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十四條 主務大臣ハ第一條ニ該當セサル工場ニシテ原動力ヲ用フルモノニ付テハ第九條、第十一條、第十三條、第十四條、第十六條及第十八條乃至第二十三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第二十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ハ工場ノ管理人ニ關スル規定及罰則ヲ除クノ外官立又ハ公立

ノ工場ニ之ヲ適用ス
官立工場ニ關シテハ所轄官廳ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政官廳ニ屬スル職務ヲ行フ
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十類

○郵便規則中改正ノ件

(明治四十三年九月通
信省令第八十五號)

郵便規則左ノ通改正ス

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十六條 別ニ定ムル規定ニ依リ郵便私書函使用ノ許可ヲ受ケタル者ニ宛テタル料金完納ノ普通通常郵便物ハ其ノ私書函ニ配付ス

第六十七條 郵便私書函使用者ハ別ニ定ムル規定ニ依リ豫メ許可ヲ受ケ前條以外ノ郵便物ヲ郵便官署ニ於テ受取ルコトヲ得

第六十八條 削除

○同

上(明治四十三年十一月
逓信省令第百〇六號)

郵便規則中左ノ通改正ス

本令ハ明治四十三年十一月十六日ヨリ之ヲ施行ス

目次第二章第四節ノ二ノ次ニ左ノ一節ヲ加フ

第四節ノ三 内容證明

第三十五條第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ第五號ヲ第六號ニ改メ以下順次繰下ク

五 内容證明料一箇ニ付

一通ノ謄本一枚ノモノハ金十錢ニ
枚以上ノモノハ一枚ヲ増ス毎ニ金
四錢ヲ加フ
同時ニ二箇以上同文ノモノヲ差出
ストキハ内一箇ヲ除キ他ハ前配料
金ノ半額

第三十六條第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ第五號ヲ第六號ニ改メ以下順次繰下ク

五 内容證明郵便物 内容證明又ハ同文内容證明

第四十三條ノ次ニ左ノ一節十條ヲ加フ

第四節ノ三 内容證明

第四十三條ノ二 封緘シタル書留通常郵便物ニシテ文書ヲ内容トシタルモノハ内容證明ト爲スコトヲ得但シ他ノ物件ヲ封入スルコトヲ得ス

前項ノ文書ハ日本字又ハ漢字ヲ以テ明瞭ニ記載シタルモノニ限ル

第四十三條ノ三 内容證明ノ取扱ヲ受ケムトスルトキハ其ノ郵便物ニ内容文書ノ謄本二通ヲ添ヘ差出スヘシ

二箇以上同文ノモノハ其ノ總テヲ通シ二通ノ謄本ヲ差出スヘシ

第四十三條ノ四 内容證明郵便物ハ其ノ謄本ニ照シ之ヲ検査シ相違ナキトキハ原本及謄本ノ各通ニ差出年

月日及其ノ郵便物内容證明ノ旨並郵便官署ヲ記入シ且一通ノ認證謄本ト原本及他ノ一通ノ認證謄本トハ

郵便日附印ヲ以テ割印ヲ施シ原本ハ立會ノ上差出人ヲシテ之ヲ封緘シテ差出サシメ認證謄本ノ一通ハ之

ヲ差出人ニ交付シ一通ハ郵便官署ノ文書トシテ二年間之ヲ保存ス

第四十三條ノ五 内容證明郵便物差出後二年以内ニ於テ内容文書ノ謄本ニ該郵便物ノ受領證ヲ添ヘ提出シ

之カ内容検査ノ證明ヲ請求スル者アルトキハ郵便官署ニ保存スル認證謄本ニ照シ之ヲ検査シ相違ナキトキハ前條ニ準シ相當證明ノ上之ヲ申請者ニ交付ス前項ノ請求ヲ爲ストキハ謄本一通毎ニ第三十五條ニ定メタル内容證明料ト同一ノ割合ニ依ル料金ヲ納付スヘシ

第四十三條ノ六 郵便官署ニ保存スル認證謄本ヲ閱覽セムトスルトキハ該郵便物差出後二年以内ニ於テ該郵便物ノ受領證ヲ提出シ之ヲ請求スルコトヲ得前項ノ請求ヲ爲ストキハ金五錢ヲ納付スヘシ但シ前條ノ請求ヲ爲スト同時ニ閱覽セントスルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條ノ七 内容證明郵便物差出後二年以内ニ於テ該郵便物ノ受領證ヲ提出シ配達ノ證明ヲ請求スル者アルトキハ之ヲ調査シ配達ノ濟否ヲ申請者ニ通知ス

前項ノ請求ヲ爲ストキハ金六錢ヲ納付スヘシ
第四十三條ノ八 第四十三條ノ三及第四十三條ノ五ノ謄本ニハ差出人及受取人ノ住所氏名ヲ附記スヘシ二箇以上同文ノモノハ受取人住所氏名ヲ連記シ若ハ別ニ之ヲ記載シテ添付スヘシ但シ第四十三條ノ五ノ場合ニ於テ二箇以上同文ノモノニ對シ受取人ヲ異ニスルモノ毎ニ各別ノ謄本ヲ作成シ之カ證明ヲ求ムルトキハ其ノ各通ニ之ヲ記載スヘシ
前各項ニ依ル差出人及受取人住所氏名ノ記載ハ料金

徵收上謄本ノ枚數ニ算入セス

第四十三條ノ九 各前條ニ依ル謄本ハ一行二十字詰一枚二十行以内トシ文字ヲ改竄スルコトヲ得ス文字ヲ挿入シタルトキハ其ノ字數及其ノ挿入スヘキ箇所ヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ記載シ文字ヲ削除シタルトキハ其ノ文字ハ尙明ニ通讀シ得ヘキ様字體ヲ存シ其ノ削除シタル字數及箇所ヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ記載スヘシ

前項ノ欄外又ハ末尾記載ノ箇所ニハ郵便日附印及差出人又ハ申請者ノ印ヲ捺捺スヘシ紙數二枚以上ニ互ルトキハ每葉ノ綴目ニモ之ヲ捺捺スヘシ
第四十三條ノ十 内容證明郵便物ハ一、二等郵便局及所轄遞信管理局長ノ指定スル郵便官署ニ限り之カ引受ヲ爲ス

第四十三條ノ十一 内容證明郵便物ニ關シテハ名宛變更ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

○速達郵便規則 (明治四十四年二月 遞信省令第三號)

速達郵便規則左ノ通相定ム

速達郵便規則

第一條 郵便物ハ本規則ノ定ムル所ニ依リ速達取扱ト爲スコトヲ得

第二條 郵便物ノ速達地域ハ別ニ之ヲ告示ス

第三條 郵便物ノ速達取扱ニ要スル料金ハ左ノ如シ

一 同一郵便區市内相互間 一箇ニ付金六錢

二 二箇郵便區市内相互間 一箇ニ付金十二錢

同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ宛テ同時ニ二箇以上差出ストキハ内一箇ヲ除キ他ハ前記料金ノ半額トス

第四條 速達小包郵便物ノ重量ハ四百匁ヲ超過スヘカラス

第五條 速達郵便物ハ特ニ定メタル速達方法ニ依リ送達ス

速達取扱ト爲シタル代金引換郵便物及留置郵便物ノ到著通知書亦同シ

第六條 速達郵便物ニハ其ノ表面看易キ場所ニ速達ノ文字ヲ朱記スヘシ

第七條 集配事務ヲ取扱フ郵便局所ニ於テハ郵便取扱時間ニ拘ラス速達郵便物ノ引受ヲ爲ス

第八條 集配事務ヲ取扱ハサル郵便局所ニ差出シタル速達郵便物ハ通常ノ方法ニ依リ所轄郵便局所ニ之ヲ送付シ第五條ノ取扱ヲ爲ス

第九條 速達郵便物ノ差出人ハ電話其ノ他適宜ノ方法ニ依リ豫メ其ノ郵便物ノ種類、數量、引渡時刻等ヲ所轄郵便局所ニ通告シ其ノ居所ニ於テ之カ引受方ヲ請求スルコトヲ得但シ郵便取扱時間外ハ此ノ限ニ在ラス

郵便局所ニ於テ事務ニ差支アルトキハ前項ノ請求ニ應セサルコトアルヘシ

第一項ニ依リ郵便物ヲ差出ストキハ一箇ニ付金三錢

ヲ納付スヘシ

第十條 速達郵便物ノ差出人ハ該郵便物配達ノ際受取人ノ居所ニ於テ其ノ受取人ノ差出スヘキ速達郵便物ノ引受方ヲ豫メ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ表面看易キ場所ニ「要返信」ノ文字ヲ記入シ且適宜ノ用紙ニ必要ノ事項ヲ記入シ之ニ對スル一切ノ料金ニ相當スル郵便切手ヲ貼附シテ差出スヘシ

前項ノ郵便切手ハ郵便物ト共ニ之ヲ受取人ニ交付ス受取人第二項ニ依ル郵便物ノ配達ヲ受ケタルトキハ十分以内ニ差出郵便物ヲ其ノ配達人ニ引渡スヘシ

第十一條 本規則ニ違反シテ差出シタル郵便物ハ速達方法ニ依ラサル郵便物トシテ各種類相當ノ取扱ヲ爲ス

第十二條 速達郵便物配達ノ際受取人不在其ノ他ノ事項ニ因リ配達スルコトヲ得サルトキハ速達取扱ノ效力ヲ失フ

速達取扱ト爲シタル代金引換郵便物及留置郵便物ノ到著通知書配達ノ際亦同シ

第十三條 本規則ニ定ムル事項ノ外ハ一般ノ規定ニ依ル

附則

本令ハ明治四十四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○郵便貯金規則中改正ノ件

(明治四十三年六月 逓信省令第七十二號)

郵便貯金規則中左ノ通改正ス

第五條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第四章ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ證券ノ購入保管料金ハ預ケ人ノ貯金ヨリ控除ス

第十六條第一項中「通帳ヲ」ヲ「貯金通帳ヲ又證券保管通帳ヲ所持スルモノナルトキハ該通帳ヲモ共ニ之ヲ」ニ改ム

第二十二條ノ二 郵便貯金ニ關スル料金ニシテ左ニ記載シタルモノハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便局所ニ納付シタルモノハ當該郵便局所ニ於テ又郵便貯金局又ハ同支局ニ納付シタルモノハ納付人所在ノ最寄郵便局所ニ於テ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付ス

一 郵便局所ノ過失ニ因リ過納又ハ誤納セシメタル料金

二 貯金預ケ人ノ指定ニ係ル證券ヲ購入シ得サリシ場合ニ於ケル證券購入保管料金

三 貯金預ケ人ノ請求ニ對シ郵便局所ノ過失ニ因リ其ノ取扱ヲ爲ササリシ場合ニ於ケル既納料金

前項ノ料金ハ納付後九十日ヲ經過スルトキハ之カ還付ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十三條但書中「一口ノ預入金中」ヲ「一箇月ノ預入金中」ニ改ム

第二十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ請求ニ依リ郵便貯金局又ハ同支局ニ於テ通帳ヲ檢閲シタルトキハ其ノ通帳ニ依リ何レノ郵便局所ニ於テモ即時拂フ取扱ヲ爲サシムル爲特ニ貯金現在高ノ證明ヲ附ス但シ貯金預ケ人ニ於テ通帳提出ノ際反對ノ申出ヲ爲シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 檢閲ノ爲提出ニ係ル通帳ハ郵便貯金局又ハ同支局ニ於テ之ヲ當該貯金預ケ人原簿ニ對照シ其ノ預拂金ノ正當ナルコトヲ確メタル上通帳最終記載ノ次欄ニ貯金現在高ヲ附記ス

前項檢閲濟ノ通帳ハ第二十七條第二項ニ依リ現在高證明ニ係ルモノハ書留郵便ニ依リ其ノ他ハ郵便局所ニ於テ通帳受領證ト引換ニ之ヲ預ケ人ニ返付ス

第七十七條中「檢閲濟ノ證明」ヲ「第二十七條第二項ニ依リ證明」ニ「一日三十圓以内、一箇月總額百圓迄」ヲ「一日五十圓以内、一箇月二百圓以内」ニ改ム

第八十五條 貯金預ケ人ノ請求ニ依リ郵便官署ニ於テ購入シ又ハ賣却スル證券ノ價格ハ逓信大臣大藏大臣ト協議シ時價ヲ參酌シテ之ヲ定ム但シ日本勸業銀行ヨリ其ノ賣出中ニ係ル勸業債券ヲ購入スル場合ハ其ノ發行價格ニ依ル

第九十條 營利ヲ目的トセサル法人本章ノ規定ニ依リ新ニ證券ノ購入又ハ保管ヲ請求スルトキハ其ノ請求書ニ相當證明書ヲ添附スヘシ

第九十條ノ二 貯金預ケ人ハ貯金通帳ニ證券ノ賣却代

金又ハ償還金ノ記入ヲ受クル際ニ限リ金高ニ制限ナク其ノ全部又ハ一部ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第七十三條ノ規定ヲ準用ス

第九十條ノ三 證券ノ購入、保管、賣却及償還ノ場合ニ於テ通帳ニ其ノ受拂ノ記入ヲ受クヘキ指定郵便局所ノ變更又ハ證券ノ交付ヲ受クヘキ場合ニ於テ其ノ指定交付郵便局所ノ變更ニ關シテハ第七十條ノ規定ヲ準用ス

第九十九條第二項中「一部又ハ全部ノ拂渡ヲ受ケムトスルモノナルトキハ賣却請求書ノ餘白ニ一部拂又ハ」ヲ全部ノ拂渡ヲ受ケムトスルモノナルトキハ賣却請求書ノ餘白ニ」ニ改ム

第一百一條 削除

第三百十八條ニ左ノ一項ヲ加フ

海外貯金預ケ人ヨリ請求ニ係ル證券ノ購入、保管及賣却ニ關スル料金並證券交付ノ爲ニ要スル郵便料金ハ預ケ人ノ貯金ヨリ控除ス

附 則

本令ハ明治四十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前檢閲濟ノ證明ヲ爲シタル通帳ニ對シテハ本年九月三十日迄第七十七條ニ依ル特殊拂戻ノ取扱ヲ爲ス

○同 上

(明治四十四年三月 逓信省令第五號)

○同

上 (明治四十四年三月 逓信省令第六號)

郵便貯金規則第百十八條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ貯金預ケ人ノ請求ニ依リ逓信大臣ニ於テ其ノ必要アリト認メタルトキハ据置期間内ト雖貯金ノ拂戻又ハ證券ノ交付ヲ爲スコトアルヘシ

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

郵便貯金規則中左ノ通改正ス

第四十七條 郵便貯金ニ預入スルコトヲ得ル郵便切手ハ左ノ五種トス

- 一 五厘郵便切手
- 二 一錢郵便切手
- 三 一錢五厘郵便切手
- 四 二錢郵便切手
- 五 三錢郵便切手

第四十八條 郵便切手ニ依リ貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ハ郵便局所ノ交付スル郵便切手貯金臺紙ニ同一種類ノ郵便切手ヲ其ノ相當欄全部ニ貼付シ郵便局所ニ差出シ通帳ニ其ノ記入ヲ受クヘシ

第四十九條 郵便切手貯金臺紙ハ之ヲ私製スルコトヲ得但シ郵便官署發行ノモノト様式寸法等ヲ異ニスルモノナルトキハ豫メ其ノ紙質寸法並之ニ印刷スヘキ文字、欄劃又ハ繪畫等ニ關スル見本ヲ逓信管理局ニ差出シ其ノ認可ヲ受クヘシ

前項但書ニ依リ發行スル臺紙ニハ其ノ看易キ箇所ニ

「何年何月何日何遞信管理局認可」ノ文字ヲ表示スヘシ
第七十九條ニ左ノ一項ヲ加フ
前項ノ拂戻證書ニ對シテハ何レノ郵便局所ニ於テモ之ト引換ニ現金ヲ交付ス

附則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
從來發行ニ係ル郵便切手貯金臺紙ハ當分ノ内其ノ儘之ヲ使用スルコトヲ得
郵便局所ニ於テ第四十八條ニ依リ貯金預ケ人ニ交付スヘキ郵便切手貯金臺紙ハ當分ノ内從來發行ニ係ルモノヲ使用ス其ノ使用ニ關シテハ從來ノ規定ニ依ル

○郵便振替貯金規則中改正ノ件

(明治四十三年七月) 遞信省令第七十八號

郵便振替貯金規則中左ノ通改正ス
第六十一條中「郵便貯金局ニ屬スル加入者ハ東京郵便局ニ於テ、大阪郵便貯金支局ニ屬スル加入者ハ大阪郵便局ニ於テ」ヲ「郵便貯金局ニ屬スル加入者ハ東京中央郵便局又ハ遞信省構内郵便局ニ於テ、大阪郵便貯金支局ニ屬スル加入者ハ大阪中央郵便局ニ於テ」ニ改ム
附則
本令ハ明治四十三年七月十一日ヨリ之ヲ施行ス

○同 上

(明治四十三年十月) 遞信省令第八十九號

郵便振替貯金規則中左ノ通改正ス
本令ハ明治四十三年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス
第三條第一項中「大阪郵便貯金支局」ノ下ニ「福岡郵便貯金支局」ヲ加フ
第四條第一項中「發行シ加入者」ノ下ニ「又ハ其ノ他ノ者」ヲ加ヘ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム
前項ノ名簿ヲ買受ケムトスル者ハ其ノ請求書ニ名簿價格ニ相當スル郵便切手ヲ貼付シ之ヲ口座所管廳ニ差出スヘシ但シ加入者所屬ノ口座所管廳ヨリ名簿ヲ買受ケル場合ニ於テハ其ノ代金ハ當該加入者ノ貯金ヨリ控除徵收ス

第十二條第一項但書中「基本預金及」ヲ削ル
第十九條第一項中「住所氏名」ノ下ニ「竝拂込料金を加入者負擔ノ表示ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ表示」ヲ加フ
第二十八條ノ二 前條第一項第一號ノ料金を加入者ニ於テ豫メ所屬ノ口座所管廳ノ承認ヲ受ケ自カラ之ヲ負擔スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ拂込人ヲシテ拂込料金を加入者負擔ノ旨ヲ表示シタル自己口座專用ノ拂込書用紙ヲ使用セシムヘシ
前項ノ承認ヲ受ケタル加入者ノ口座ニ對シテハ一般ノ手續ニ依リ拂込ヲ爲スコトヲ妨ケス
第二十八條ノ三 加入者前條ニ依リ拂込料金を負擔ノ承認ヲ受ケムトスルトキハ其ノ請求書ニ拂込書用紙見本ヲ添ヘ之ヲ所屬ノ口座所管廳ニ差出スヘシ

前項ノ規定ハ承認ノ取消ニ之ヲ準用ス

加入者拂込料金を負擔取消ノ承認ヲ受ケタル後ト雖拂込料金を負擔ノ爲發行シタル自己口座專用ノ拂込書用紙ニ依リ拂込アリタルトキハ其ノ料金を負擔ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十八條第二項中「加入者前項ノ拂出證書ニ對スル」ヲ「加入者前項ニ依リ口座所管廳ヨリ送達ヲ受ケタル拂出證書又ハ指定受取人ヨリ返付ヲ受ケタル拂出證書ニ對シ」ニ改ム
第六十條第一項中「戻入ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ」ノ下ニ「其ノ旨ヲ記載シタル請求書ニ拂出證書ヲ添ヘ之ヲ所屬ノ口座所管廳ニ提出スルカ又ハ」ヲ加ヘ但書中「別ニ證書ニ表示セル事項ヲ記載シタル戻入請求書ヲ」ヲ拂出月日、拂出金額、證書番號及受取人氏名ヲ記載シタル戻入請求書ヲ所屬ノ口座所管廳ニ提出スルカ又ハ之ヲ」ニ改ム

第六十一條中「大阪郵便貯金支局ニ屬スル加入者ハ大阪中央郵便局ニ於テ」ノ下ニ「福岡郵便貯金支局ニ屬スル加入者ハ福岡郵便局ニ於テ」ヲ加フ
第八十一條第一項末尾ニ「此ノ場合ニ於テハ證書一枚ノ金額ニ制限ヲ附セス」ヲ加ヘ第二項中「第二十八條第二項」ヲ「第二十八條第一項第三號」ニ改ム

○同 上

(明治四十三年十月) 遞信省令第九十四號

郵便振替貯金規則中左ノ通改正ス

本令ハ明治四十三年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス
第三條第一項及第六十一條中「統監府通信管理局」ヲ「朝鮮總督府郵便爲替貯金管理所」ニ改ム

○同 上

(明治四十四年二月) 遞信省令第二號

郵便振替貯金規則中左ノ通改正ス
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第十一條ノ二 郵便振替貯金ニ關スル各種ノ料金はシテ郵便官署ノ過失ニ依リ過納又ハ誤納セシメタルモノハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ納付ニ係ルモノナルトキハ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付シ加入者ノ貯金ヨリ控除徵收ニ係ルモノナルトキハ現金ヲ以テ之ヲ還付ス
前項ノ料金を納付後九十日ヲ經過スルトキハ之カ還付ヲ請求スルコトヲ得ス

○同 上

(明治四十四年三月) 遞信省令第八號

郵便振替貯金規則中左ノ通改正ス
本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第三條第一項中「朝鮮總督府郵便爲替貯金管理所及臺灣總督府通信局」ヲ「朝鮮總督府郵便爲替貯金管理所、臺灣總督府通信局及關東都督府通信管理局」ニ改ム
第六十一條中「京城郵便局ニ於テ又臺灣總督府通信局ニ屬スル加入者ハ臺北郵便局ニ於テ」ヲ「京城郵便局ニ於テ、臺灣總督府通信局ニ屬スル加入者ハ臺北郵便局ニ於テ又關東都督府通信管理局ニ屬スル加入者ハ大連郵便局ニ於テ」ニ改ム

第十二類

○官吏恩給法中改正ノ件

(明治四十四年三月 法律第三三號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル官吏恩給法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
官吏恩給法中左ノ通改正ス
第九條第三號中「郡區判任官」ノ下ニ「及臺灣總督府地方廳稅務吏」ヲ加フ
第十四條中「郡區判任官」ノ下ニ「及臺灣總督府地方廳稅務吏」ヲ加フ

○官吏遺族扶助法中改正ノ件

(明治四十四年三月 法律第四號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル官吏遺族扶助法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
官吏遺族扶助法中左ノ通改正ス
第三條第二項中「郡判任官」ノ下ニ「及臺灣總督府地方廳稅務吏」ヲ加フ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則中改正ノ件

(明治四十四年三月 法律第五號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則中左ノ通改正ス
第五條中「郡判任官」ノ下ニ「及臺灣總督府地方廳稅務吏」ヲ加フ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年七月五日印刷
明治四十四年七月十日發行



編輯者 兼 發行者 西野善吉
東京市芝區愛宕町二丁目十四番地

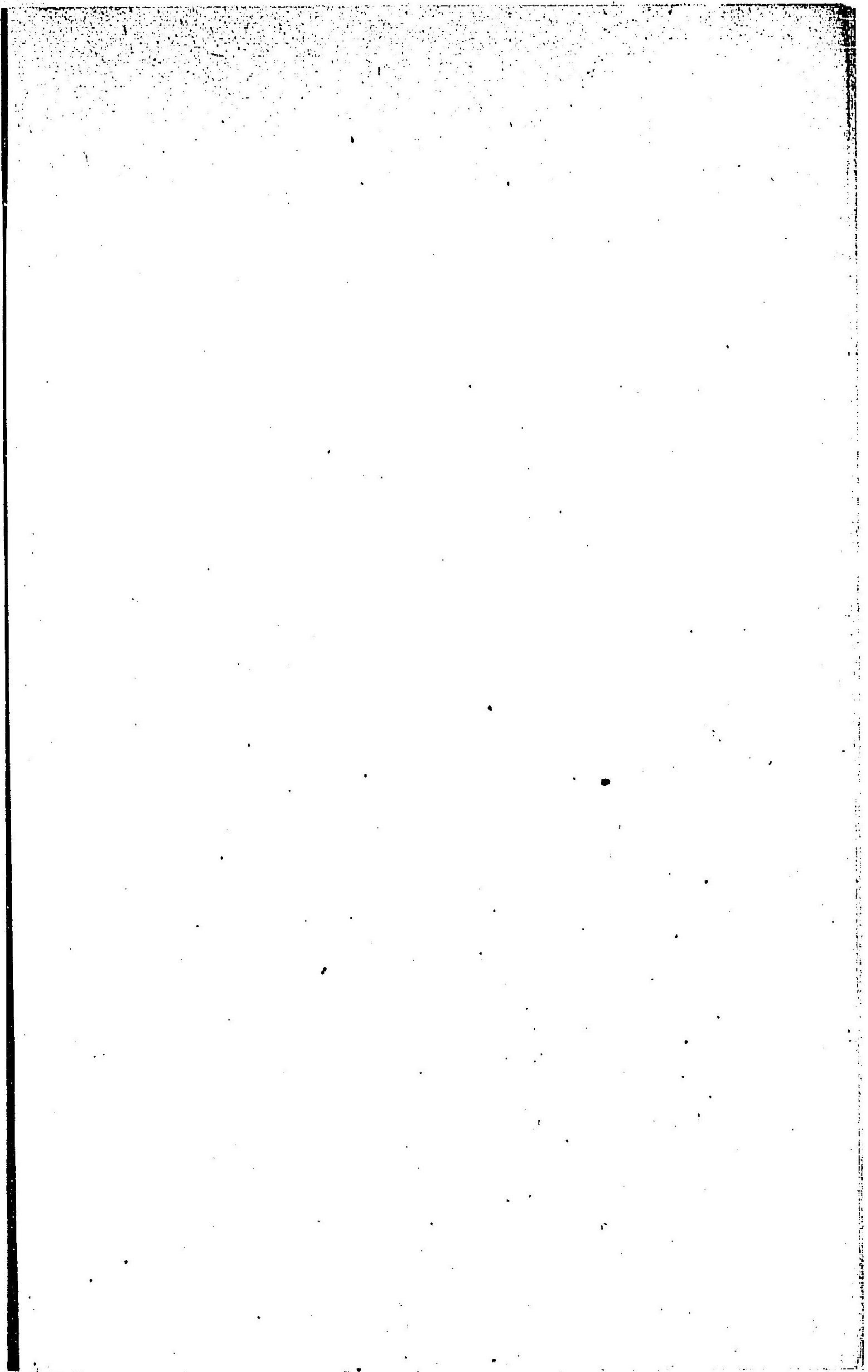
專務理事 橫須賀寅吉
東京市芝區愛宕町二丁目十四番地

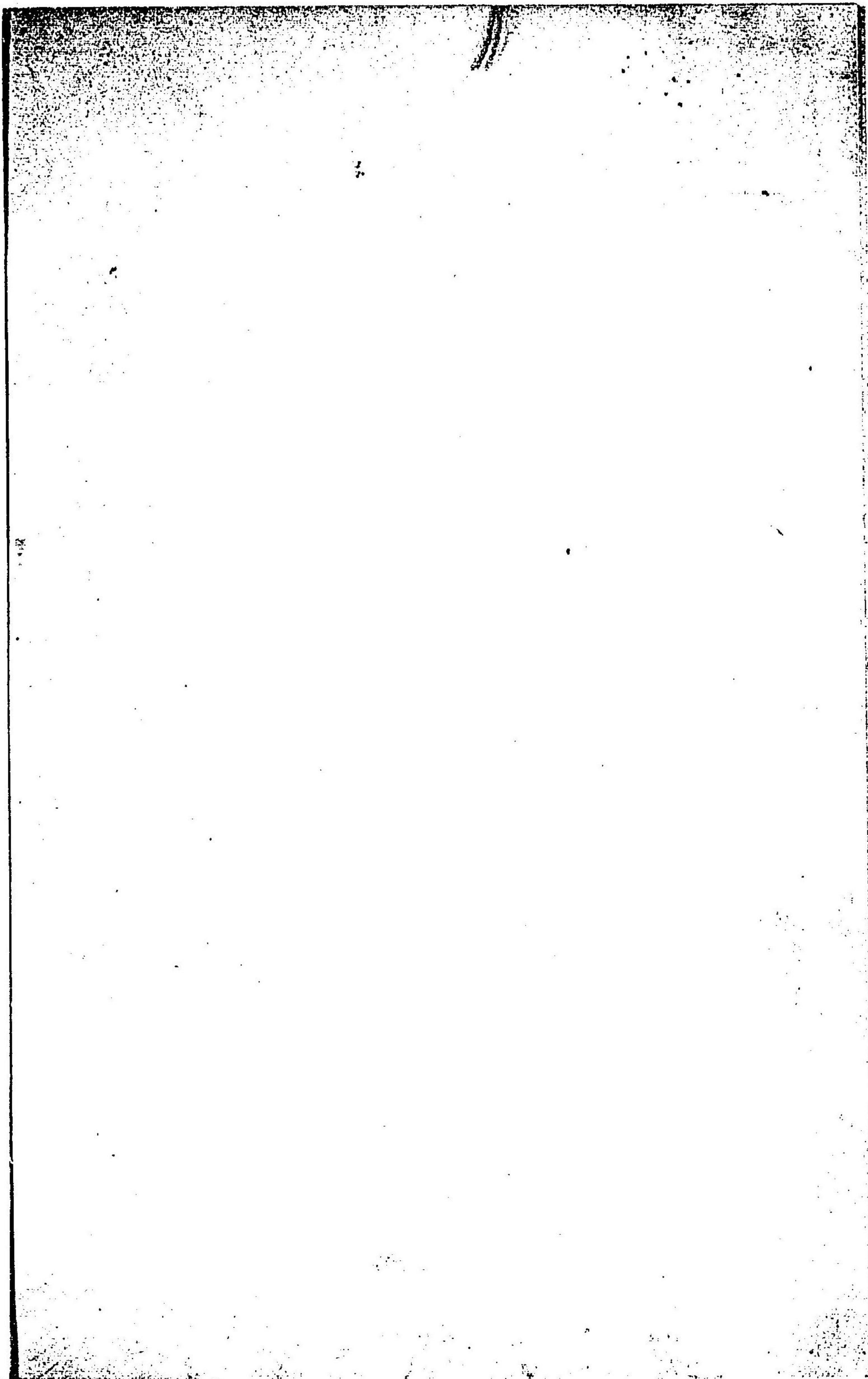
發行所 大日本弘法會
東京市芝區愛宕町二丁目十四番地

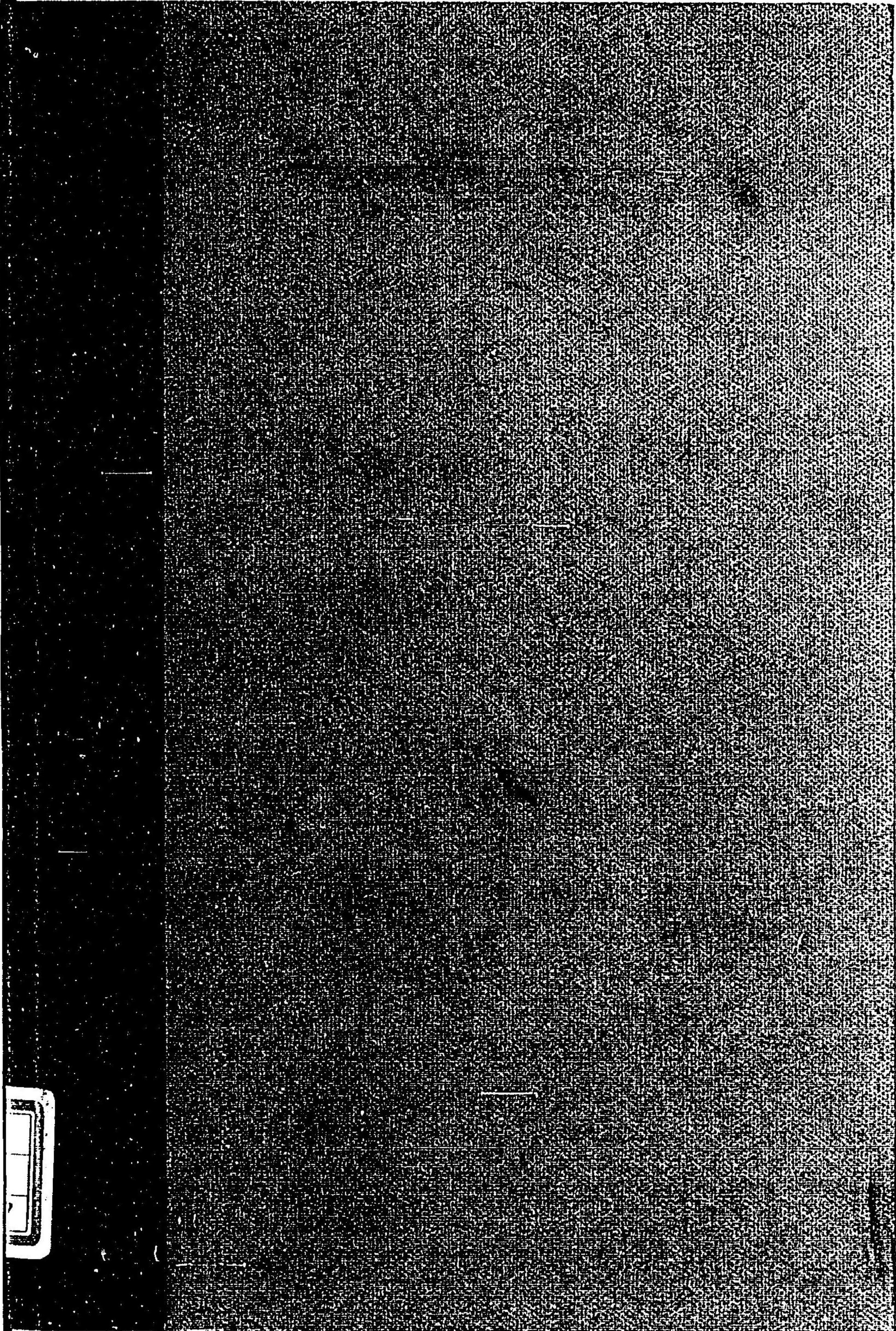
印刷人 岩本菊雄
東京市京橋區南佐柄木町二番地

印刷所 岩本活版所
東京市京橋區南佐柄木町二番地

267
108







大觀法規改正編

大日本弘法会

国会図書館

禁電子式複写

030862-000-4

CZ-5-097

大觀法規改正

大日本弘法会

M44

BBC-0048

